

綾瀬市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和2年8月

綾 瀬 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果の概要	2
1	男女平等に関する意識について	2
2	女性の社会参画について	3
3	家庭生活について	3
4	就労・働き方について	4
5	学校教育分野の男女共同参画について	4
6	防災分野の男女共同参画について	4
7	ワーク・ライフ・バランスについて	5
8	女性の活躍推進について	5
9	DVやハラスメントについて	5
10	LGBTなど性的マイノリティについて	6
11	男女共同参画施策について	6

Ⅲ	調査結果	7
1	回答者属性	7
2	男女平等に関する意識について	16
3	女性の社会参画について	44
4	家庭生活について	58
5	就労・働き方について	81
6	学校教育分野の男女共同参画について	88
7	防災分野の男女共同参画について	89
8	ワーク・ライフ・バランスについて	90
9	女性の活躍推進について	98
10	DVやハラスメントについて	103
11	LGBTなど性的マイノリティについて	111
12	男女共同参画施策について	113

Ⅳ 巻末付録（調査票） エラー! ブックマークが定義されていません。

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成23年に策定した「あやせ男女共同参画プラン」を改定するにあたり、次期あやせ男女共同参画プラン策定の基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2 調査対象

綾瀬市在住の18歳以上74歳以下の市民を無作為抽出（男女半数。外国籍含む）

3 調査期間

令和2年4月1日から令和2年4月20日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,500通	738通	29.5%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・本文中の国調査は、特記されていない場合は令和元年度 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」、県調査は神奈川県「平成28年度県民ニーズ調査」を指しています。
- ・性別によるクロス集計について、性別を「回答したくない」の回答者は4名であり、統計的に全体傾向を図れるサンプル数ではないため、図表には表示していません。

II 調査結果の概要

1 男女平等に関する意識について【問1～4】

学校教育の場面では「平等」の意識が高くなっていますが、社会の多くの場面で男性優位となっている実情が垣間見えています。

男女共同参画社会を推進していくために、男女共同参画社会の重要性を周知するとともに、なお一層、啓発活動を進めていく必要があります。

- ・分野ごとにみると、『学校教育』で「平等」が約5割となっているが、他の分野では“男性優位”（「男性優位」と「やや男性優位」の合計）の割合が高い。特に『政治の場』『社会通念・慣習・しきたり』『社会全体』の3分野では、“男性優遇”が7割を超えている。もっとも、年齢別では若年層で意識の変化がみられる分野が多く、少しずつではあるが変化の萌芽が現れている。（問1）
- ・『家庭』では、男女とも29歳以下では『平等』の割合が最も高い。しかし、全体では「平等」の割合が国調査より約1割低いことから、家庭での性別役割分担意識に関する啓発が求められる。
- ・『職場』では、女性において、50歳以上に比べ40歳以下では「平等」の割合が高く、若年層で意識の変化がみられるものの、国調査・県調査より“男性優位”の割合が高いことから、男女が平等に働く職場環境づくりが必要となる。
- ・『学校教育』では「平等」の割合が比較的高いが、国調査よりは8.4ポイント低いことから、男女共同参画の教育の推進が求められる。
- ・『政治の場』では、8割が“男性優位”と回答しており、さらに県調査より“男性優位”が27.6ポイント高いなど、男性優位となっている。
- ・『法律や制度』では、女性で“男性優位”が5割半ばと高いうえ、国調査より「平等」が約1割低いことから、男性優位の意識が高くなっている。
- ・『社会通念・慣習・しきたり』では、“男性優位”の割合が男女とも高く、また、国・県調査よりも約1割高くなっていることから、社会通念や意識が変革するような啓発、情報提供が強く求められる。
- ・『地域活動』では、“男性優位”が女性で半数を占め、また、国調査・県調査より6～8ポイント程度高いことから、従来の方針の見直しなど、性別による意識差を埋めるための啓発が求められる。
- ・社会全体では、男女が「平等」と感じる人は約1割で、国調査よりも8.3ポイント低くなっている。また、女性では“男性優位”が8割を占めていることから、各分野での啓発や情報提供を進めるとともに、社会全体としての啓発が強く求められる。
- ・男女共同参画に関する用語の認知度については、「セクハラ」「DV」は約9割、「男女雇用機会均等法」が約8割と高い。また、「LGBT」といった新しい用語の認知度も県より約2割高い。（問2）
- ・固定的性別役割分担意識（「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方）の賛否は、“反対”が全体で約5割を占めるが、国調査より約1割低くなっている。また、“賛成”の割合は国と同程度となっている。（問3）

- ・子どもの育て方について、「『男らしさ』『女らしさ』を強調しないが、性差に配慮して育てた方がよい」の割合が男女とも最も高い。(問4)

2 女性の社会参画について【問5】

女性が役職への就任・立候補を拒む理由としては、リーダーシップや自信がないからという理由が多く、女性が自信を持てるような啓発やきっかけづくりが必要です。

また、職場、政治の場において、片方の性に偏るなど性別や年齢等により役割を固定化することのないよう、男女共同参画の視点を取り入れることが重要です。

- ・女性がもっと就任したほうがよい役職は『職場の管理職』『市の審議会等の委員』『市議会議員』の割合が高くなっている。また、「そう思う」の割合を性別でみると『PTA会長』『自治会長』では、男性に比べて女性では20ポイント程度、『市議会議員』では男性に比べ女性で10ポイント程度高くなっている。(問5-1)
- ・しかし、女性が役職等への就任・立候補を求められた場合の諾否をみると、『PTA会長』『自治会長』『市議会議員』で「しない」の割合が全体で5割以上、女性では約7割であり、実際に就任するには躊躇する実態がある。(問5-2)
- ・女性が役職への就任・立候補を拒む理由は、『PTA会長』では「リーダーシップがないから」が、その他の項目では「自信がないから」の割合が最も高い。そのため、女性が自信を持てるような啓発やきっかけづくり、抵抗感の払拭が必要である。

3 家庭生活について【問6～8】

固定的な性別役割分担意識は解消に向かっている現状が見受けられる一方で、家事等は女性が行うべきという意識が変わることが必要だと考える女性は、男性より多くなっています。そのため、男性への意識啓発が求められます。

また、男性が育児、介護、地域活動に積極的に関わるためには、上司や同僚の理解や昇進・昇給への悪影響がないことなどが求められており、職場環境を改善する、ワーク・ライフ・バランスの推進などが必要です。

- ・家庭での役割分担は、理想では「夫婦で半々」の割合がすべての家事で最も高くなっている一方、現実では、ほとんどの家事で「主に妻」の割合が最も高くなっている。特に『料理と片付け』『洗濯』は現実には「主に妻」が担当している人が7割を超えており、現状では妻に家事の負担がかかっている。(問6)
- ・育児についての役割分担をみると、理想ではすべての項目で「夫婦で半々」が最も高くなっている。しかし、現実では、すべての項目で「主に妻」の割合が最も高く、育児の大半を妻が担っているのが現状といえる。現実と理想を比較すると、現実では「夫婦で半々」の割合が、すべての項目で約40ポイント低く、理想と現実の乖離が大きい。(問7)
- ・男性が育児、介護、地域活動に積極的に関わるための方策は、「上司や同僚の理解があること」「休暇が取りやすくなること」の割合が5割以上であり、また「昇進・昇給への悪影響がないこと」の割合が県調査より1割高いなど、職場環境に関わる事項が多い。そのため、職場環境

を改善する、ワーク・ライフ・バランスの推進などが必要である。その他、女性では「家事等は女性が行うべきという意識が変わること」の割合が男性より約2割多く、男性への意識啓発が求められる。(問8)

4 就労・働き方について【問9・10】

育児休業や介護休暇等の休業制度について、制度があるかわからない人や休める雰囲気がないと感じている人が多くなっています。そのため、休業制度の周知や休暇を取得しやすい職場環境の整備が求められます。

- ・職場で女性だけが受ける扱いについては、県調査より「特にない(公平である)」が1割以上高く、また「同じ仕事を続けていても賃金が少ない」「結婚や出産時に退職する習慣や圧力がある」「能力があっても昇進・昇格が不利」の割合は低いことから、就労条件での差別は県よりも少ない。(問9)
- ・『育児休業』の利用の可否について、男性では2割が「利用できない」と回答している。(問10①)
- ・休業制度を利用できない理由は、『介護休暇』では「職場に当該制度があるかわからないから」が約6割、『育児休業』では「職場に休める雰囲気がないから」「代わり的人がいないから」が多く、休暇制度の周知が必要となっている。(問10②)

5 学校教育分野の男女共同参画について【問11】

学校教育の場では、互いの性を尊重し合える教育の充実が求められており、お互いの理解や性別的役割分担意識の解消に向けた取り組みが必要です。

- ・学校教育の場で男女平等意識を啓発するための取り組みで重要なものは「互いの性を尊重し合える教育の充実」の割合が男女ともに5割半ばとなっている。(問11)

6 防災分野の男女共同参画について【問12】

防災分野において、市の防災計画に男女両方の視点が入ることが求められている一方で、防災訓練・研修や自主防災組織への参加を考える女性は少なくなっています。そのため、女性が参加しやすい環境を整えることが求められます。

- ・防災分野での男女共同参画推進の取り組みとしては、「市の防災計画に男女両方の視点が入ること」が半数を占めている。男性では「女性が防災訓練・研修へ、積極的に参加するよう努めること」「自治会等の自主防災組織に女性が積極的に参加するよう努めること」といった防災訓練・組織への女性の参画が求められている。(問12)

7 ワーク・ライフ・バランスについて【問 13~15】

ワーク・ライフ・バランスは希望と現実が乖離している人が多くなっています。ワーク・ライフ・バランス実現に向けて、子育て環境や職場環境の改善が求められています。

- ・ワーク・ライフ・バランスの実現程度は、男性の 50 歳代で約 5 割を占めている。(問 13)
- ・「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が多いのに対し、現実では、女性では『家庭生活』を優先しているが、男性では『仕事』を優先しているの割合が最も高く、希望と現実が乖離している人が多い。
(問 14-1、問 14-2)
- ・ワーク・ライフ・バランス実現に重要なものは、女性の 29 歳以下、30 歳代で「保育所などの託児施設やサービスの充実」の割合が男性の 30 歳代から 50 歳代で「仕事中心という社会全体の仕組みの改善」、29 歳以下で「職場の一人あたりの業務量の削減」の割合が最も高く、育児へのサポート、および仕事のあり方の改善が必要となっている。(問 15)

8 女性の活躍推進について【問 16~17】

女性の就業のあり方について、結婚して子どもが生まれた後も職業を持ち続ける考えの人が約 4 割となっていることから、保育等の子育てと就労を両立するための支援の充実が求められます。

- ・女性が職業を持つことについての考え方について、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は約 4 割で、国調査より約 2 割低くなっている。(問 16)
- ・女性が働き続けるために必要なことについては、男女とも「保育所などの託児施設やサービスの充実」が高く、女性では「男女が協力して育児・介護等を担うという理解・意識改革」の割合が、男性では「性別に関係なく育児・介護休暇が取得しやすい職場環境」の割合が高くなっている。(問 17)

9 DVやハラスメントについて【問 18~22】

DVを受けた人の中で、相談しなかった人が多くなっています。DVに関する相談窓口の周知とともに、DVが人権を侵害する行為であるという理解を深め、被害を抱え込まず相談することの重要性を意識啓発していくことが必要です。

- ・セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を受けたことがある人は女性で 5 割半ば、男性で 4 割となっている。(問 18)
- ・ドメスティック・バイオレンス（DV）を受けた人の割合は国調査に比べ低いことから、本市のDV防止への意識は高くなっているが、依然として女性で 3 割、男性で 1 割の人がDVを受けていることから、一層のDV防止策が求められる。(問 19①)
- ・DVを見聞きしたことがある人は女性で約 3 割、男性で約 2 割となっている。(問 19②)
- ・DVを受けた人が相談したかについて、「相談した」人の割合は約 3 割と、国調査より約 2 割低くなっている。(問 20)
- ・DVを受けても相談しなかった理由は、女性で「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかつ

た」「自分さえ我慢すれば」の割合が高い。そのため、DVを受けた場合の相談先の認知度を高める施策、DVを許さない意識啓発などが求められる。(問 21-2)

- ・配偶者などからの暴力防止と被害者の保護に関連する事項の認知度について、「何も知らなかった」人が男女とも約1割となっており、DV被害者保護施策の認知度を高める施策が依然として必要となっている。(問 22)

10 LGBTなど性的マイノリティについて【問 23・24】

性的指向が違うことで、社会の偏見や差別、相談できないことによる孤立感や将来への不安を感じていることから、性的マイノリティへの理解を深め、多様な性を尊重する意識を醸成することが必要です。

- ・性的指向などで自身が悩んでいる人は1%程度、家族や知人が悩んでいる人は2%程度である。(問 23)
- ・性的指向が違うことによるストレスは、「一般社会の偏見や差別」「家族や友人に相談できないことによる孤立感や将来への不安」が多いことから、社会に向けた啓発とともに、性的少数者に寄り添う姿勢が求められる。(問 24)

11 男女共同参画施策について【問 25】

男女共同参画社会実現のために、育児や介護などをしやすい環境の整備や、休業制度を利用しやすい職場環境の整備が必要です。

- ・男女共同参画社会実現のために力をいれるべきことは、男女とも「保育所などの託児施設やサービスの充実」「介護施設や介護支援サービスの充実」「労働条件改善に向けた企業等への啓発」の割合が高く、育児や介護に関する事項、労働環境の改善が求められている。(問 25)

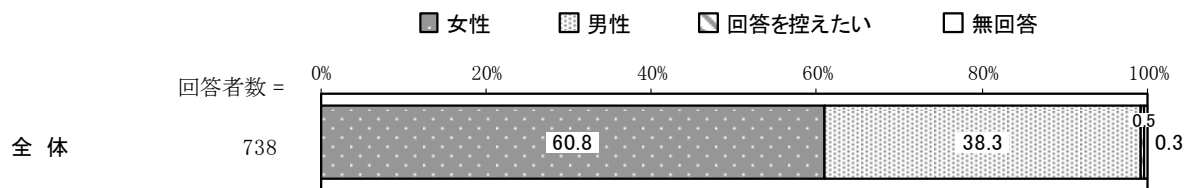
Ⅲ 調査結果

1 回答者属性

F1 あなたの性別を教えてください。

◎「女性」が約6割、「男性」が約4割となっています。

図表 F 1 性別



F2 あなたの年齢を教えてください。

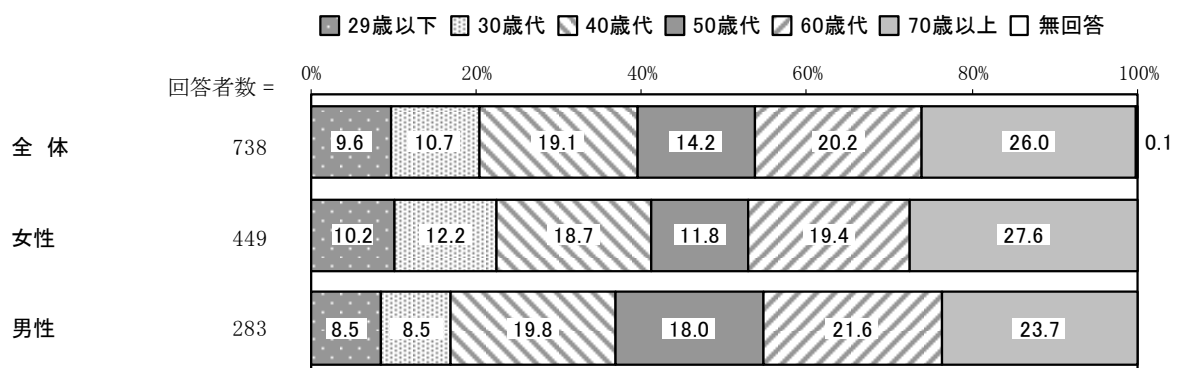
◎「70歳以上」「60歳代」「40歳代」が多くなっています。

◎男女とも「70歳以上」が最も多くなっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「70歳以上」の割合が高くなっています。また、「50歳代」では女性に比べ、男性の割合が高く、約2割となっています。

図表 F 2 年齢 性別



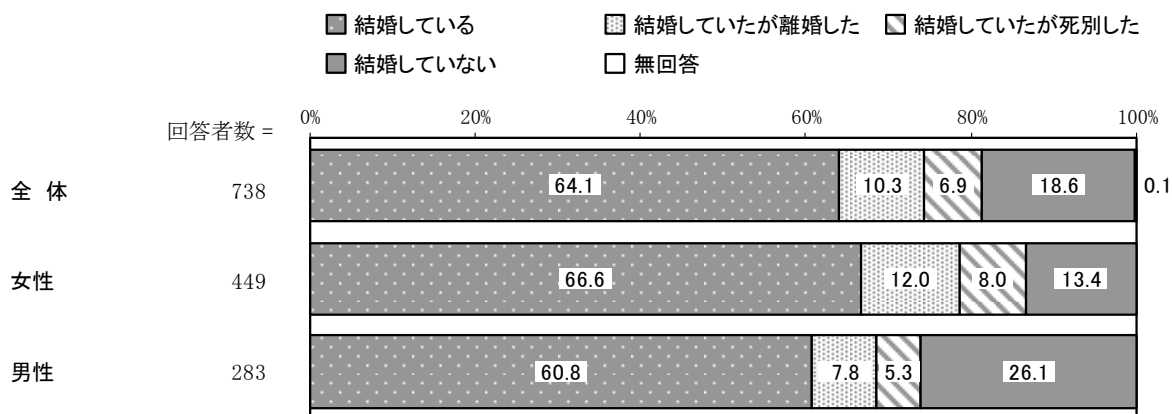
F3 結婚（事実婚を含む）をしていますか。

- ◎既婚者は6割半ば、結婚していない人は約2割となっています。
- ◎女性では「結婚している」が6割半ばと、男性より高くなっています。
- ◎男性では「結婚していない」が2割半ばと、女性より高くなっています。

<性別>

性別でみると、女性に比べ、男性で「結婚していない」の割合が高く、2割半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「結婚している」の割合が高く、6割半ばとなっています。

図表 F3 結婚 性別



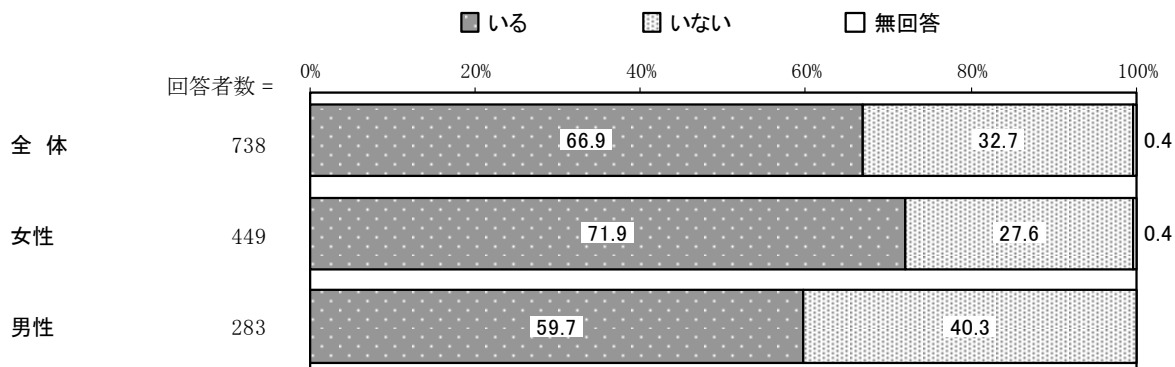
F4 お子さんはいますか。

- ◎子どもが「いる」人が6割半ば、子どもが「いない」人は約3割となっています。
- ◎女性で子どもが「いる」人が約7割と、男性よりも高くなっています。

<性別>

性別でみると、男性に比べ、女性で「いる」の割合が高く、約7割となっています。

図表 F4 子ども 性別



お子さんの年代

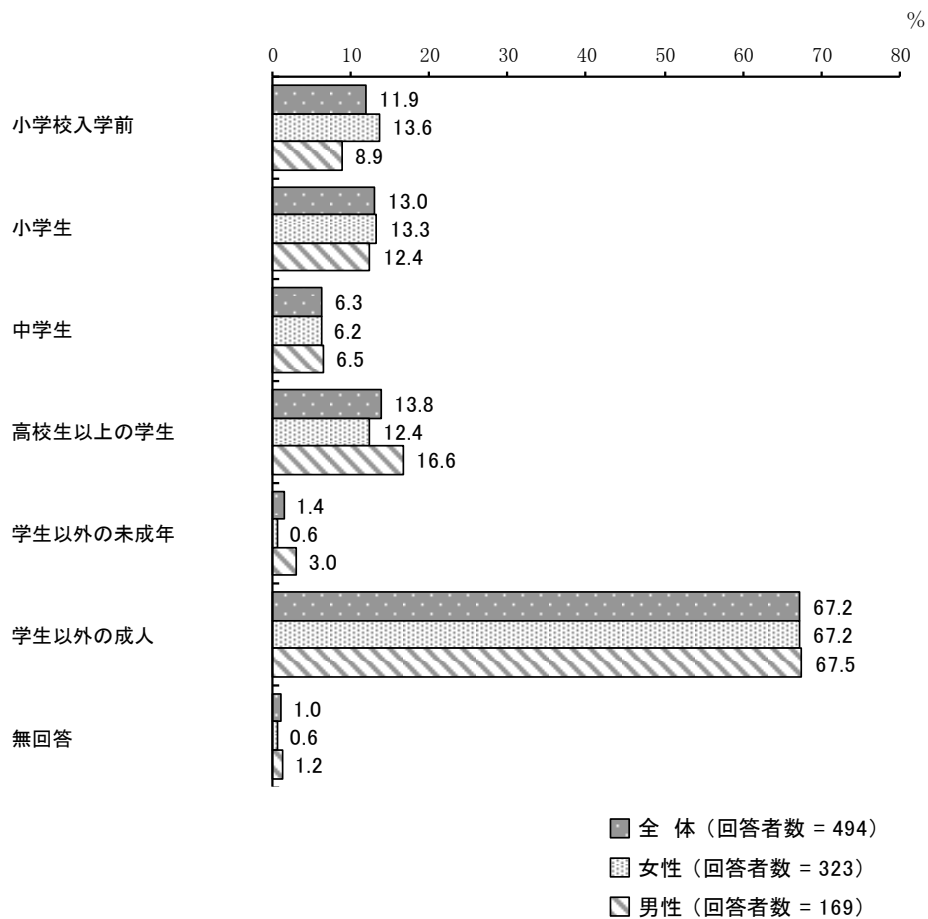
◎「成人」が約7割、「高校生以上の学生」「小学生」が約1割ずつとなっています。

◎性別による差異はみられません。

<性別>

性別でみると、大きな差異はみられません。

図表 F 4 子どもの年代 性別



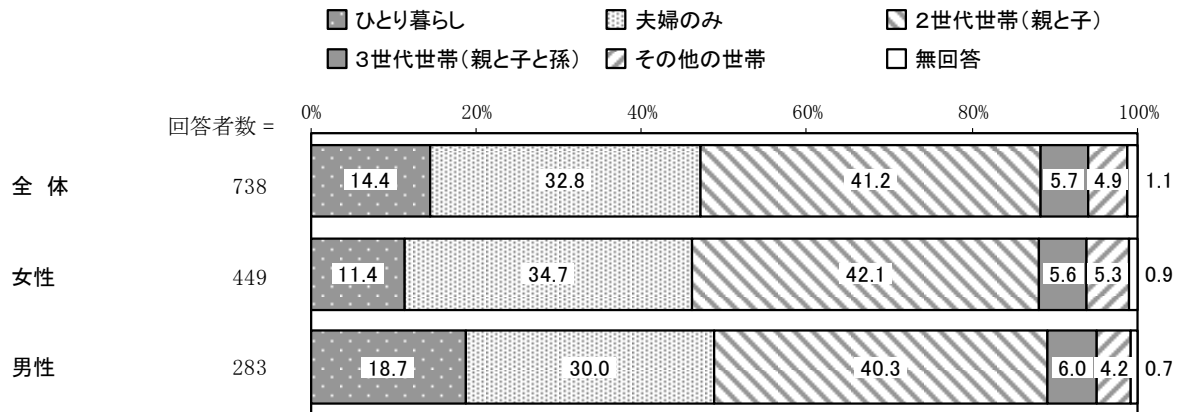
F5 世帯構成を教えてください。

◎親子の「2世代世帯」が約4割、「夫婦のみ」が約3割となっています。
 ◎男性で「ひとり暮らし」が多くなっています。

<性別>

性別で見ると、女性に比べ、男性で「ひとり暮らし」の割合が高く、約2割となっています。

図表 F5 世帯構成 性別



F6 仕事をしていますか。

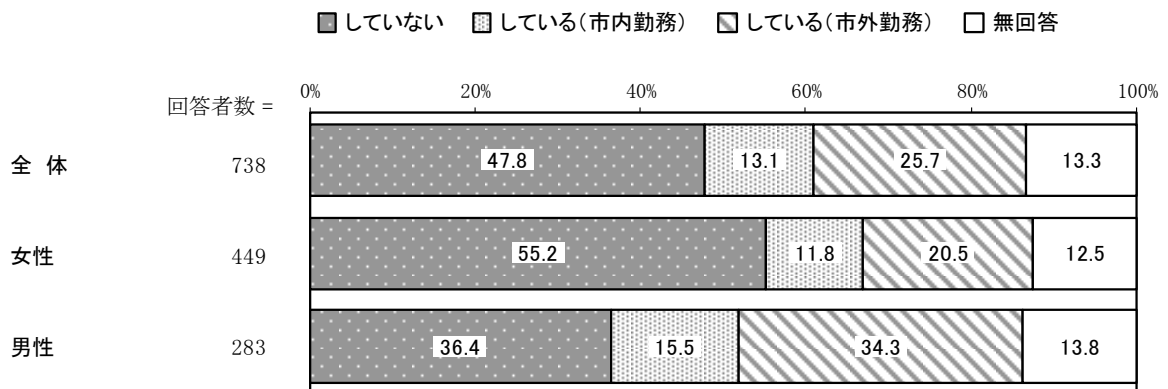
■回答者の状況

- ◎就業していない人は約5割、市外・市内勤務をあわせた“就業している”人は約4割となっています。
- ◎女性では就業「していない」が過半数を占めています。
- ◎男性では“就業している”人が約半数となっています。

<性別>

性別で見ると、男性に比べ、女性で「していない」の割合が高く、5割半ばとなっています。女性に比べ、男性で「している（市内勤務）」と「している（市外勤務）」をあわせた“就業している”人の割合が高く、約5割となっています。

図表 F6 仕事 性別



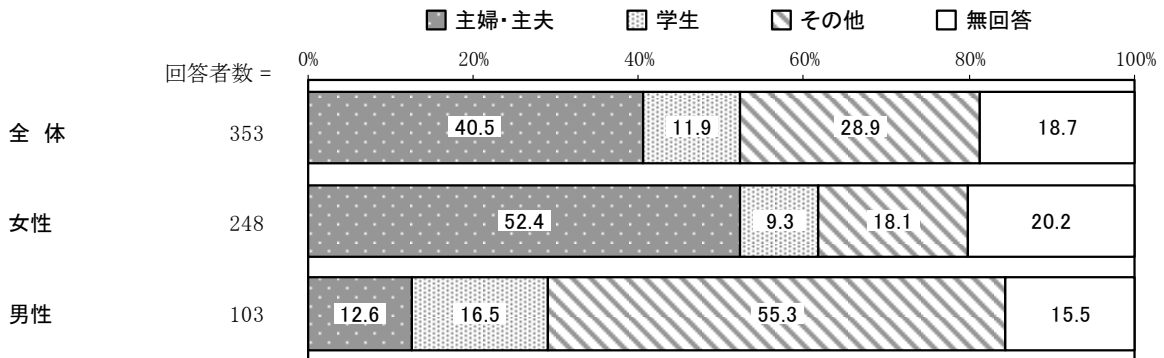
■就労していない方の状況

- ◎「主婦・主夫」が約4割となっています。
- ◎女性では「主婦・主夫」が約半数を占めています。

<性別>

性別でみると、男性に比べ、女性で「主婦・主夫」の割合が高く、約5割となっています。また、女性に比べ、男性で「学生」の割合が高く、1割半ばとなっています。

図表 F 6 就労していない方の状況 性別



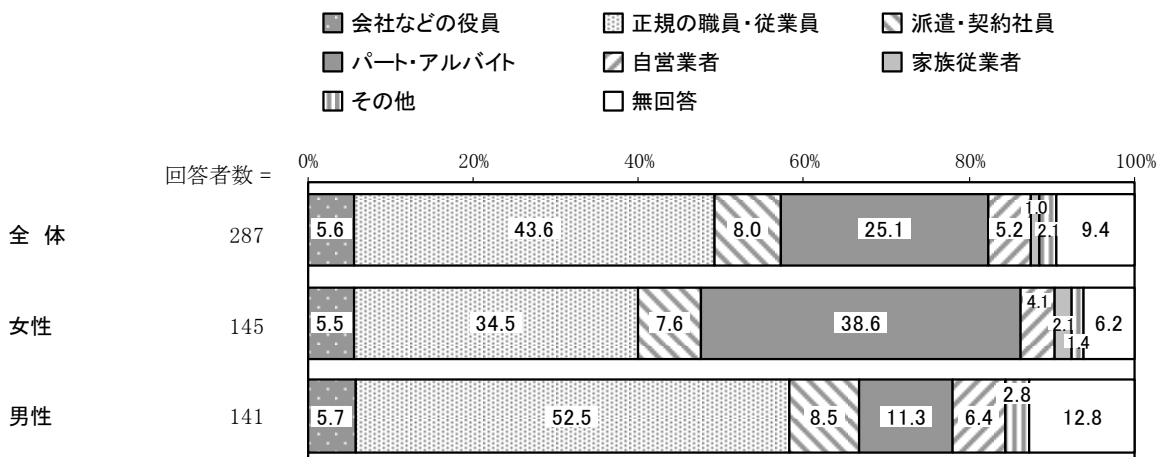
■就労している方の就業形態

- ◎「正規の職員・従業員」が約4割、「パート・アルバイト」が2割半ばとなっています。
- ◎女性では「パート・アルバイト」が最も高く、約4割となっています。
- ◎男性では「正規の職員・従業員」が最も高く、約5割となっています。

<性別>

性別でみると、男性に比べ、女性で「パート・アルバイト」の割合が高く、約4割となっています。また、女性に比べ、男性で「正規の職員・従業員」の割合が高く、約5割となっています。

図表 F 6 就労している方の就業形態 性別



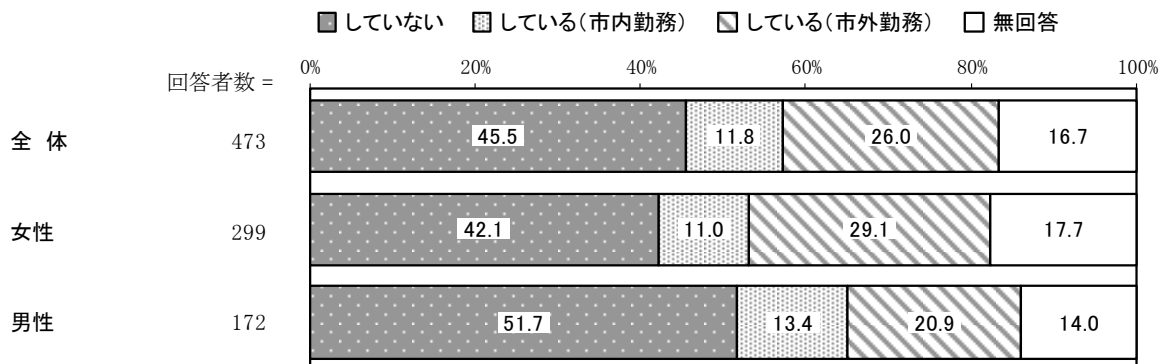
■配偶者の状況

- ◎就業していない人が4割半ば、市外・市内勤務を合わせた“就業している人”は約4割となっています。
- ◎女性では、夫が「している（市外勤務）」が高く、約3割となっています。
- ◎男性では、妻が就業「していない」が高く、約半数となっています。

<性別>

性別でみると、男性に比べ、女性で「している（市外勤務）」の割合が高く、約3割となっています。また、女性に比べ、男性で「していない」の割合が高く、約5割となっています。

図表 F 6 配偶者の状況 性別



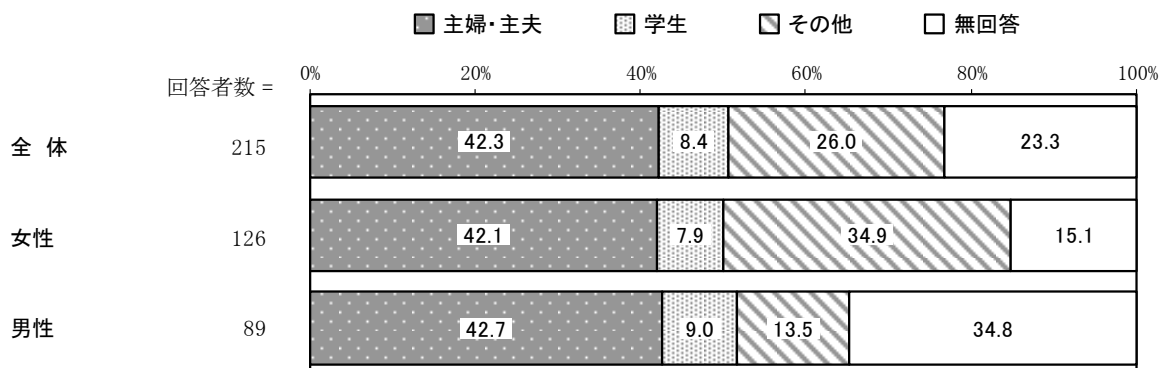
■就労していない配偶者の状況

- ◎「主婦・主夫」が約4割となっています。
- ◎性別による大きな差異はみられません。

<性別>

性別でみると、「その他」を除くと、大きな差異はみられません。

図表 F 6 就労していない配偶者の状況 性別



■就労している配偶者の就業形態

◎「正規の職員・従業員」が4割半ば、「パート・アルバイト」が約3割となっています。

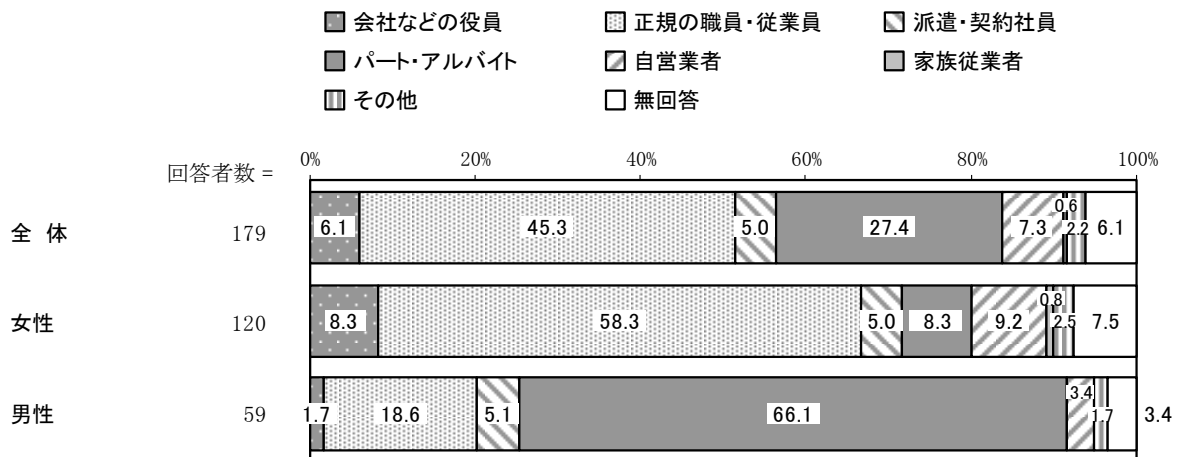
◎女性では、夫が「正規の職員・従業員」が約6割となっています。

◎男性では、妻が「パート・アルバイト」が高く、6割半ばを占めています。

<性別>

性別で見ると、男性に比べ、女性で「会社などの役員」「正規の職員・従業員」「自営業者」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「パート・アルバイト」の割合が高く、6割半ばとなっています。

図表 F 6 就労している配偶者の就業形態 性別



F7 介護が必要なご家族はいますか。

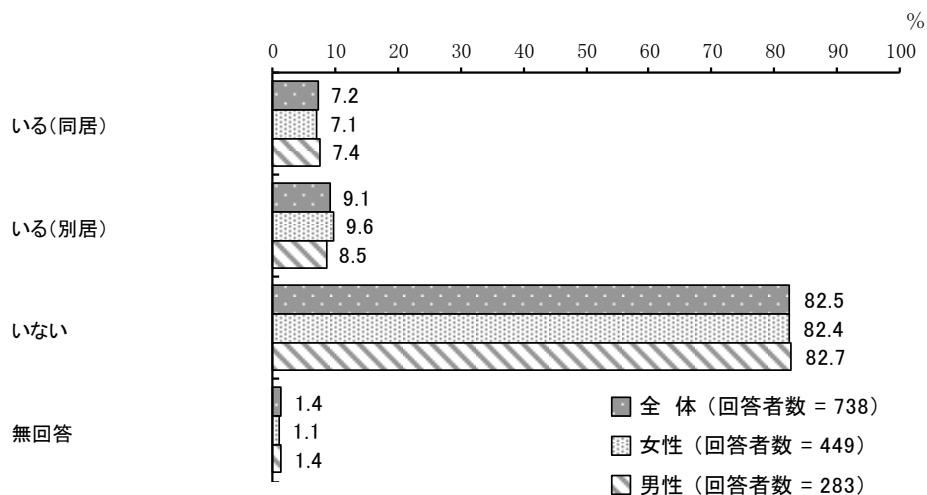
◎介護が必要な家族が「いない」人は約8割となっています。

◎性別による大きな差異はみられません。

<性別>

性別でみると、大きな差異はみられません。

図表 F7 性別



■介護が必要な方の続き柄

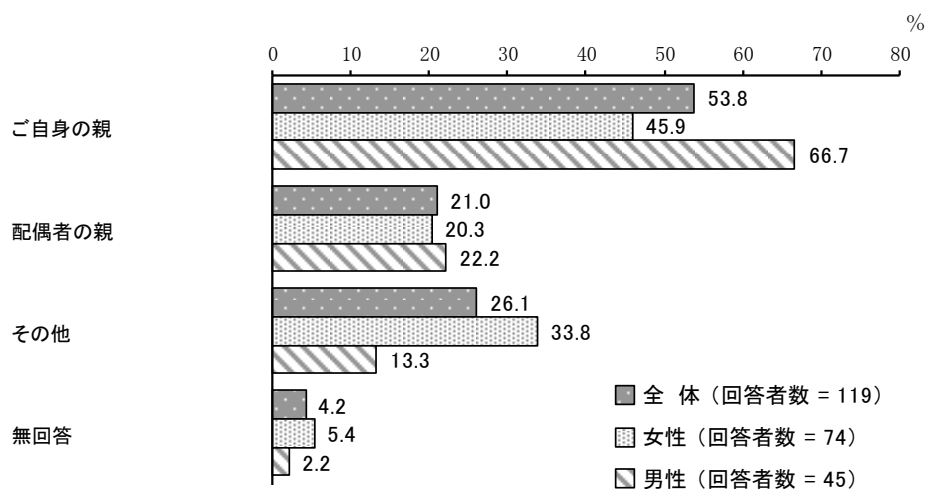
◎「ご自身の親」が約5割、「配偶者の親」が約2割となっています。

◎男性で「ご自身の親」が高く、6割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、女性に比べ、男性で「ご自身の親」の割合が高く、6割半ばとなっています。

図表 F6 介護が必要な方の続き柄 性別



2 男女平等に関する意識について

問1 あなたは次の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。1～8の各項目について、あてはまるものを選んでください。(項目ごとに○を1つ)

◎「平等」は『学校教育』で約5割と高くなっています。

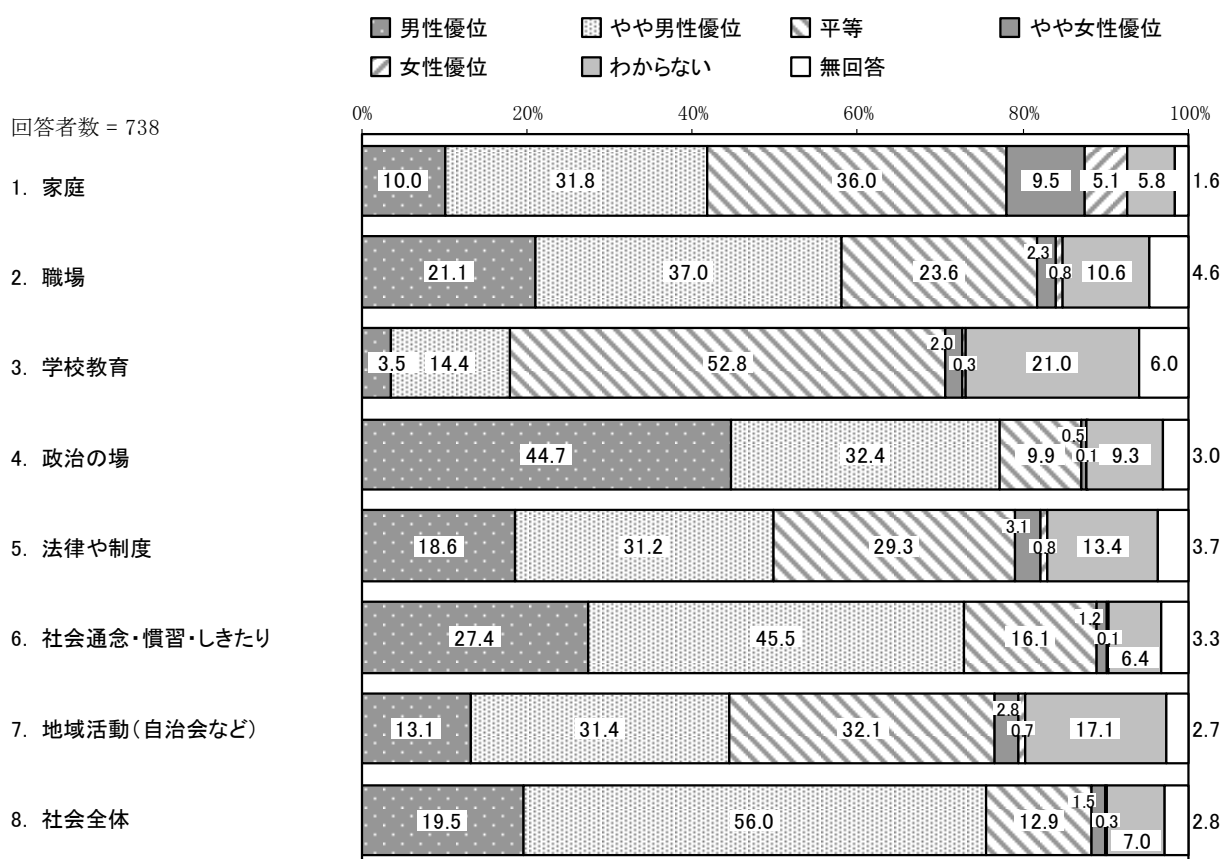
◎『政治の場』『社会通念・慣習・しきたり』『社会全体』で“男性優位”が高く、7割を超えています。

「平等」の割合が最も高いのは『学校教育』で、約5割を占めています。続いて「平等」の割合が高いのは『家庭』『地域活動（自治会など）』ですが、3割台と低くなっています。

また、『学校教育』以外の項目ではすべて“男性優位”（「男性優位」と「やや男性優位」の合計）の割合が最も高く、特に『政治の場』『社会通念・慣習・しきたり』『社会全体』の3分野では7割を超えるなど、社会の多くの分野で男性優位となっている実情が垣間見えています。

なお、“女性優位”の割合は、すべての項目で低くなっており、最も高い『家庭』でも1割半ばとなっています。

図表 問1 全体



1. 家庭

- ◎ “男性優位” が約 4 割、「平等」が 3 割半ば、“女性優位” が 1 割半ばとなっています。
- ◎性別による平等感に大きな差がみられます。
- ◎女性で “男性優位” の割合が高いものの、女性の若年層では意識変化がみられます。
- ◎国調査と比べ「女性優位」が多く、「平等」が低くなっています。

<性 別>

性別でみると、女性で “男性優位” の割合が約 5 割と高く、男性よりも 16.1 ポイント高くなっています。一方、男性では「平等」が女性よりも 9.3 ポイント高く、性別による大きな差がみられます。

<性・年齢別>

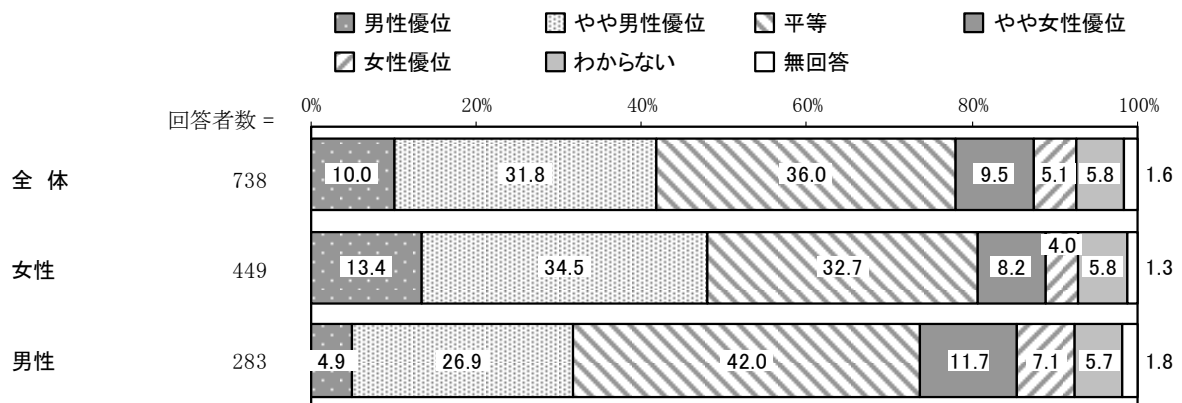
性・年齢別でみると、女性の 30 歳代以上では「平等」より “男性優位” の割合が高くなっているのに対し、男性の 30 歳代から 60 歳代では “男性優位” より「平等」の割合が高く、同じ世代でも男女による意識の違いが大きくなっています。なお、女性の 29 歳以下では「平等」の割合が最も高く、若年層での意識変化がみられます。

<国・県調査との比較>

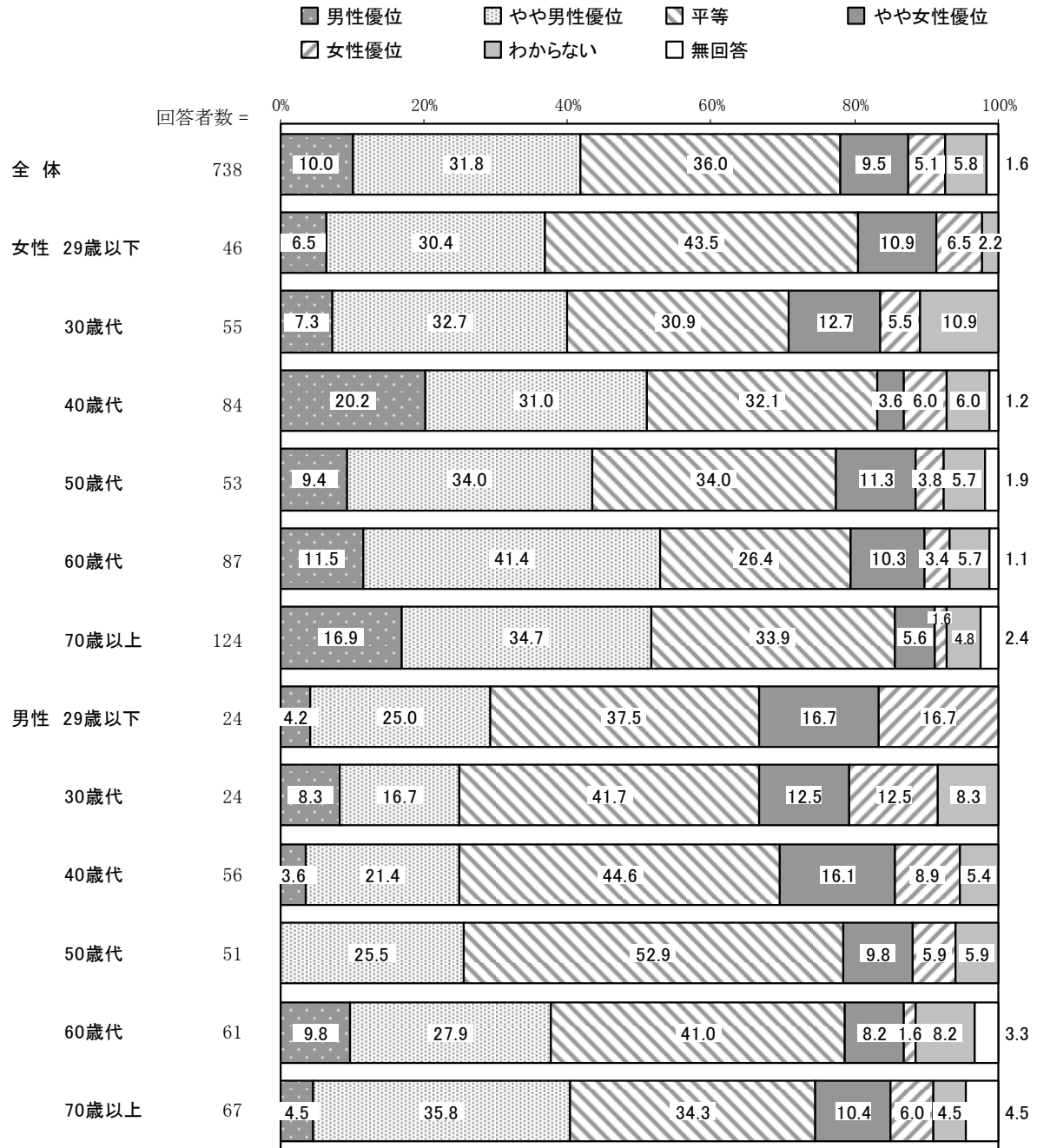
国調査と比較すると、「女性優位」と「やや女性優位」の合計が 7.4 ポイント多い一方で、「平等」が 9.5 ポイント低く、国に比べ、本市においては家庭における男女平等が進んでいないことが伺えます。

神奈川県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

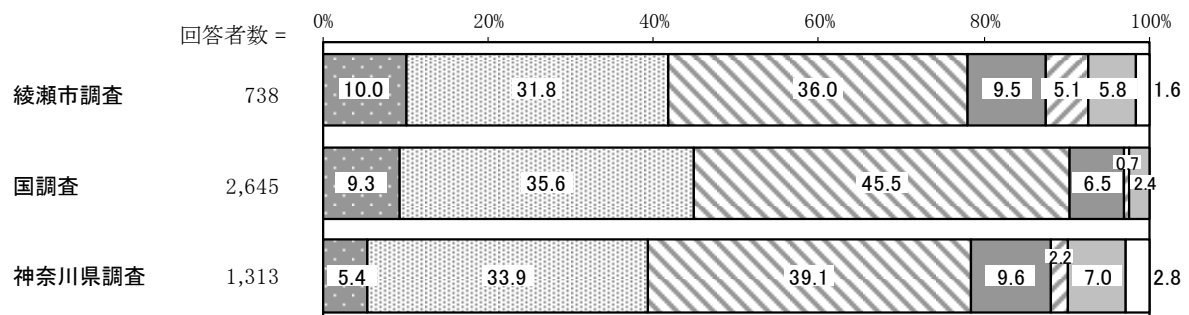
図表 問 1 家庭 性別



図表 問1 家庭性・年齢別



図表 問1 家庭性 国・県調査との比較



2. 職場

- ◎ “男性優位” が約6割、「平等」が約2割となっています。
- ◎性別では、男女とも“男性優位”が半数を超えています。
- ◎女性の50歳代で“男性優位”が7割半ばと多くなっています。
- ◎国調査と比べ「男性優位」が多く、「平等」が少なくなっています。

<性別>

性別で見ると、“男性優位”の割合が男女とも約6割と半数を超えています。また、「平等」の割合は、男性より女性で低くなっています。

<性・年齢別>

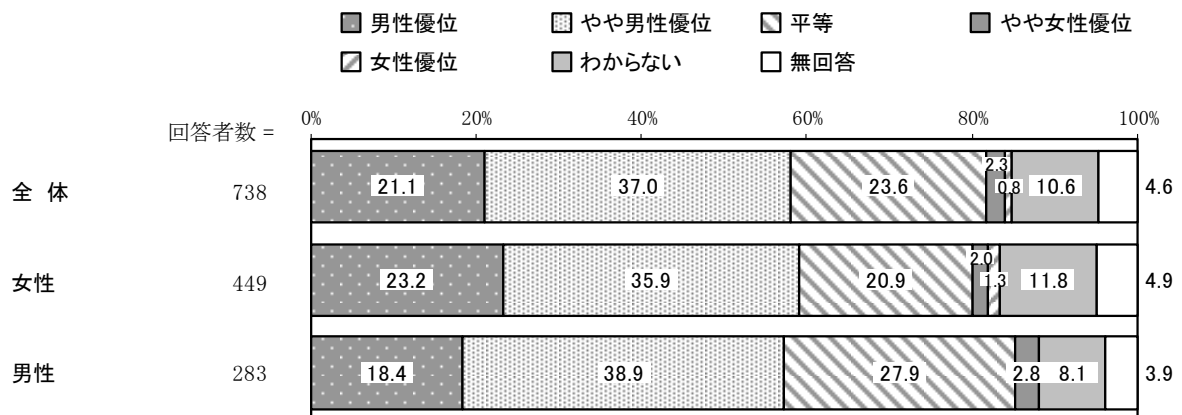
性・年齢別で見ると、男女とも年代にかかわらず“男性優位”が最も高く、特に女性の50歳代では7割半ばと、男性の50歳代よりも18.7ポイント高く、男女の意識差が表れています。

「平等」の割合は、男性では年代による差は大きくないものの、女性では50歳代以上に比べ、40歳代以下で高くなっており、年齢による意識の変化がみられます。

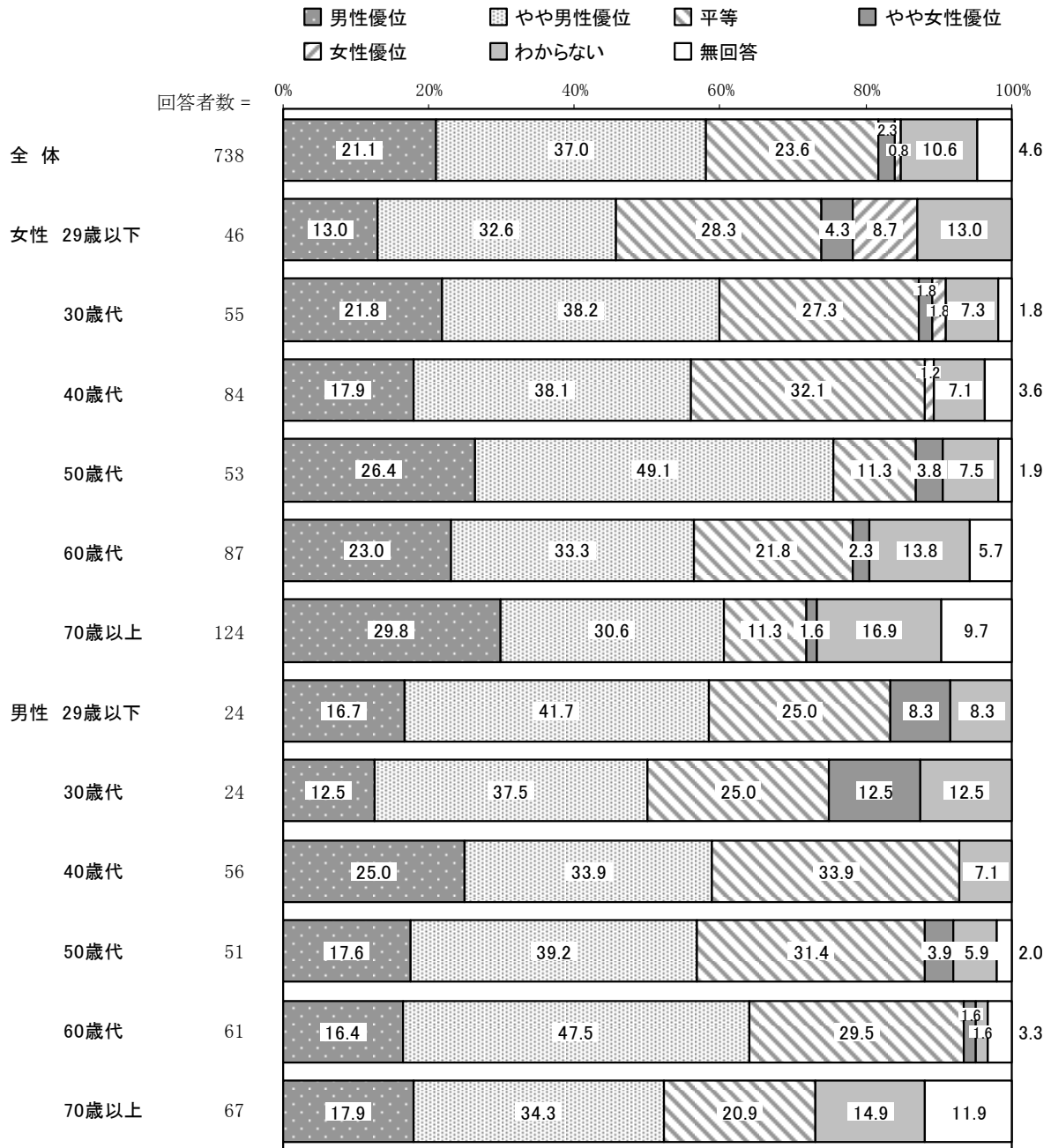
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、「平等」が7.1ポイント低く、「男性優位」が7.5ポイント高くなっています。神奈川県調査との比較でも、「男性優位」が7.8ポイント高くなっています。

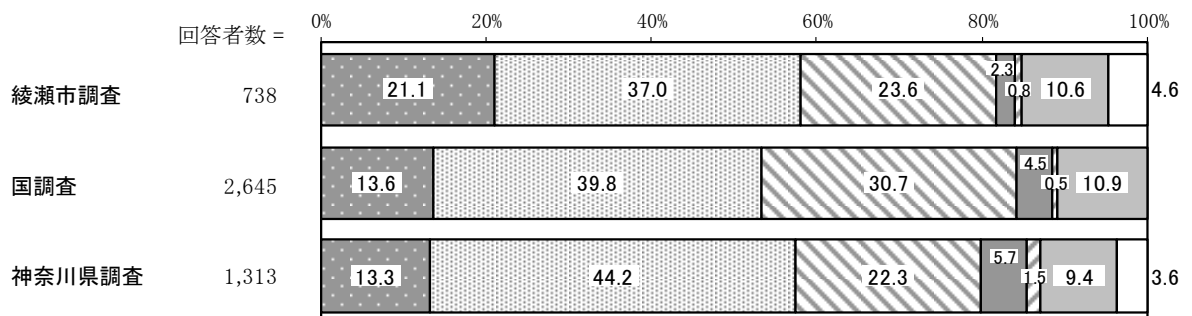
図表 問1 職場 性別



図表 問1 職場 性・年齢別



図表 問1 職場 国・県調査との比較



3. 学校教育

- ◎ “男性優位” が約2割、「平等」が5割半ばとなっています。
- ◎ 男性より女性で「平等」の割合が低くなっています。
- ◎ 「平等」の割合は、女性では年齢が下がるほど、男性は年齢が上がるほど高くなっています。
- ◎ 国調査に比べ、「平等」が低くなっています。

<性 別>

性別でみると、男性では「平等」が約6割と最も高くなっています。一方、女性では「平等」の割合は約5割と男性に比べ低くなっているとともに、“男性優位”が約2割と高くなっています。

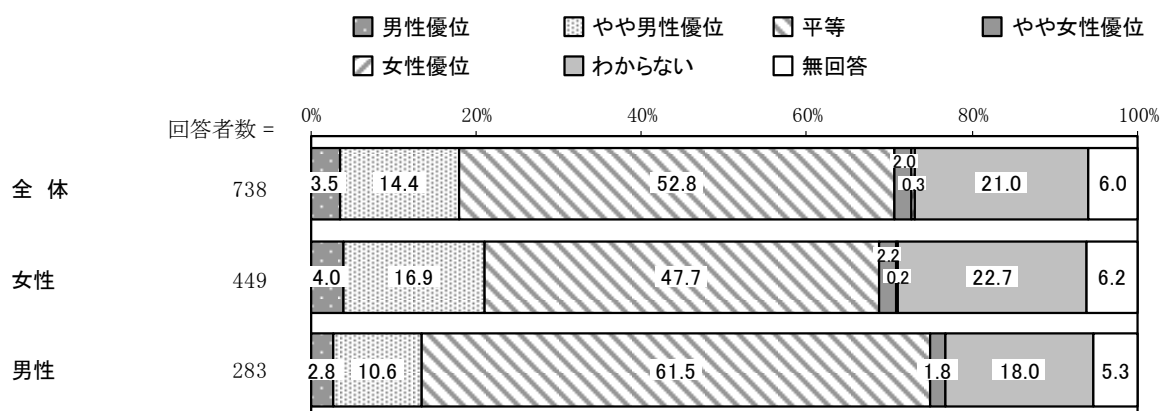
<性・年齢別>

性・年齢別でみると、「平等」の割合が、女性では年齢が下がるにつれ高くなる傾向がある一方、男性では年齢が下がるにつれ低くなる傾向となっており、29歳以下では男女で同程度となっています。また、男性の29歳以下では“男性優位”が2割半ばと、高くなっています。

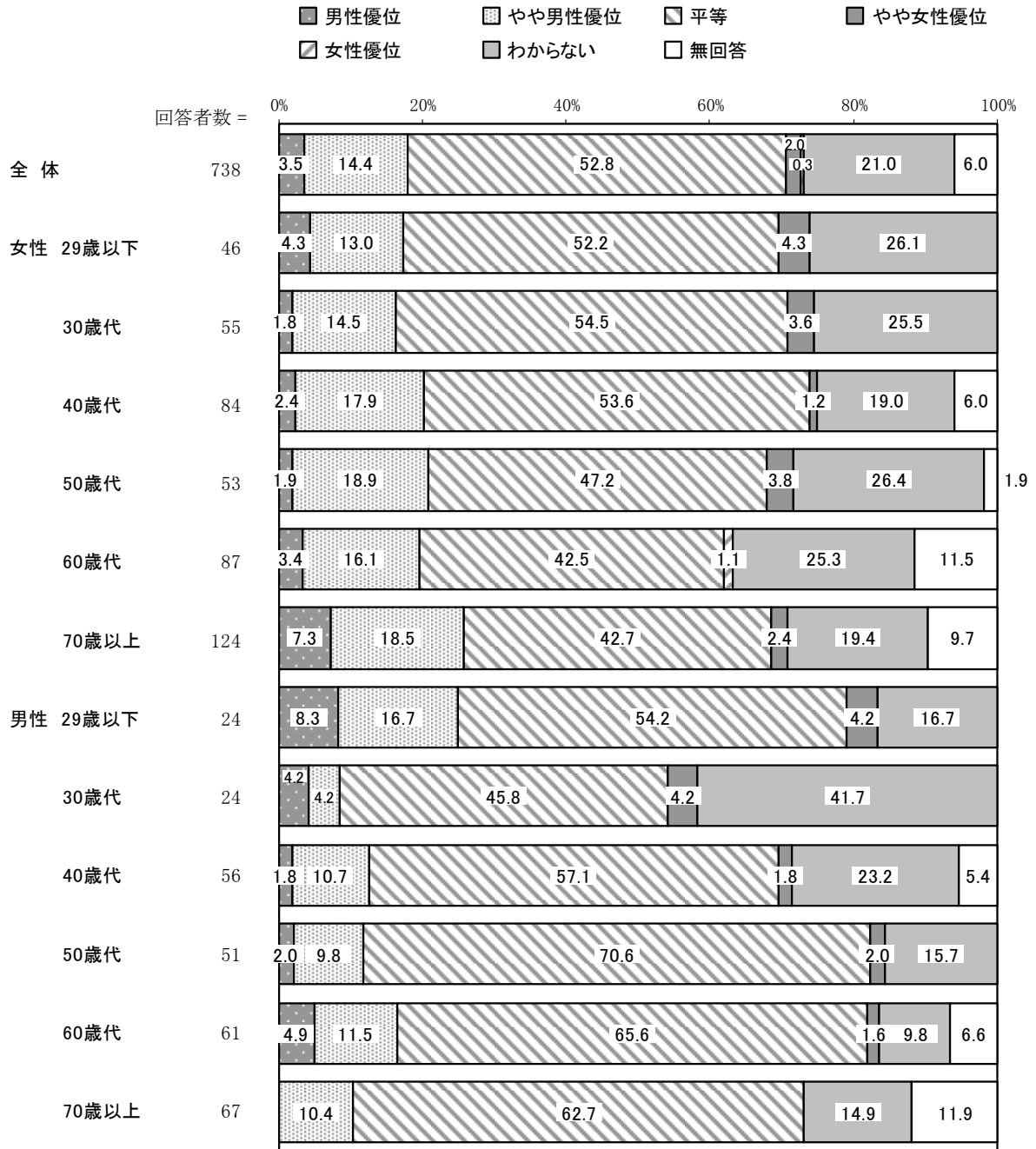
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、“男性優位”の割合は同程度であるものの、「平等」が8.4ポイント低くなっています。神奈川県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

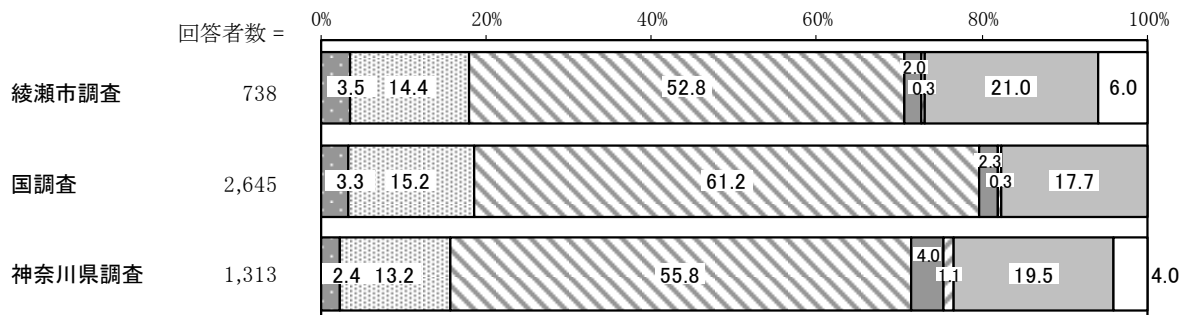
図表 問1 学校教育 性別



図表 問1 学校教育 性・年齢別



図表 問1 学校教育 国・県調査との比較



4. 政治の場

- ◎ “男性優位” が約8割、「平等」が約1割となっています。
- ◎男女とも“男性優位”が7割台後半を占めています。
- ◎女性の30歳代から60歳代で“男性優位”が高くなっています。
- ◎国・県調査と比較して「男性優位」が多くなっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに“男性優位”が7割台後半を占めており、性別による大きな差はみられません。

<性・年齢別>

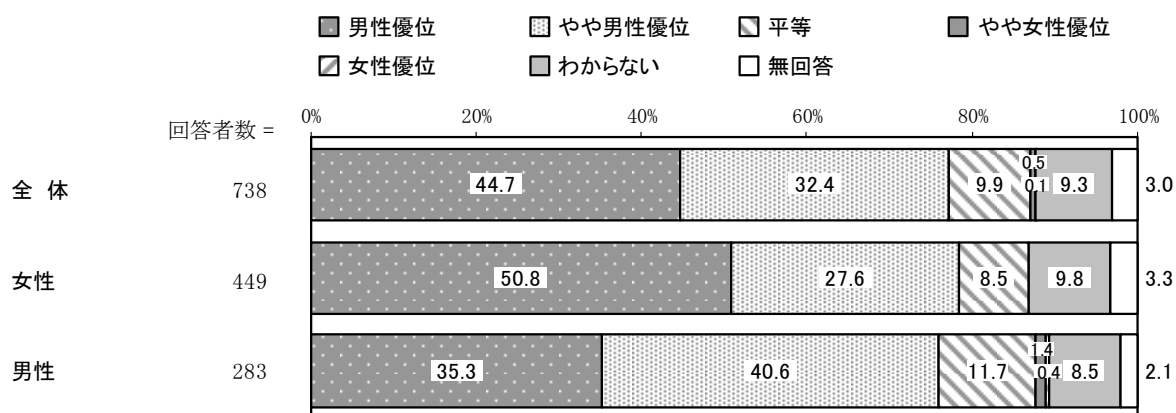
性・年齢別でみると、女性の30歳代から60歳代では“男性優位”が約8割から8割半ばと高くなっている一方、女性の29歳以下では“男性優位”の割合は低くなっており、若年層での意識変化がみられます。

また、男性では、29歳以下、30歳代で“男性優位”が40歳代以上に比べてやや低く、男性でも意識の変化がみられます。

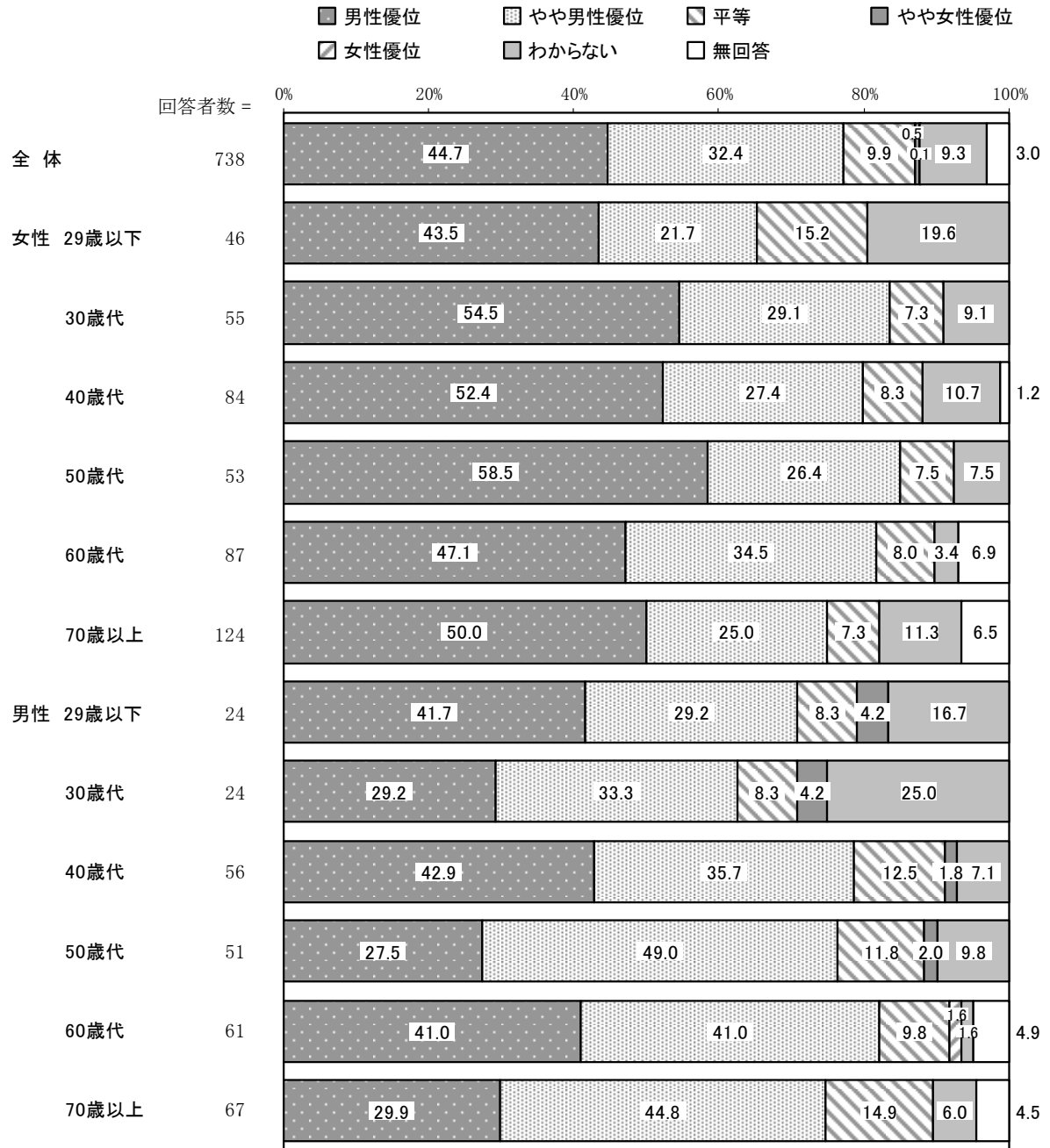
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、「男性優位」が9.7ポイント高くなっています。また、神奈川県調査と比較すると、「平等」が8.7ポイント低く、「男性優位」が27.6ポイント高くなっています。

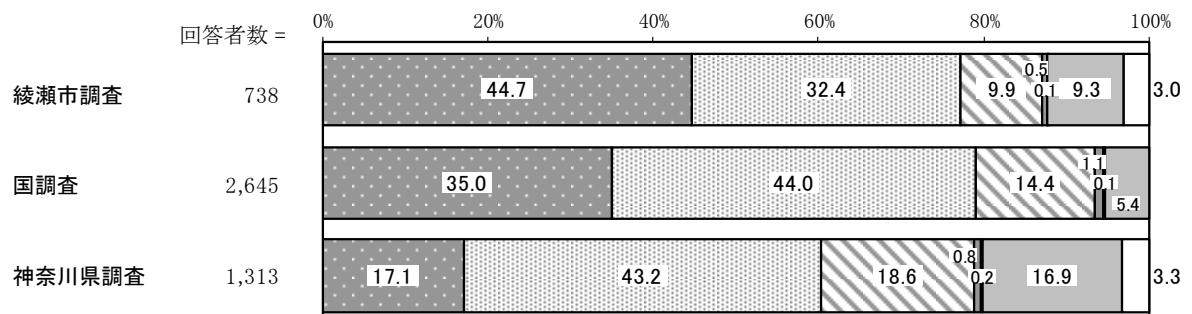
図表 問1 政治の場 性別



図表 問1 政治の場 性・年齢別



図表 問1 政治の場 国・県調査との比較



5. 法律や制度

- ◎ “男性優位” が約5割、「平等」が約3割となっています。
- ◎性別で“男性優位”の割合に大きな差がみられます。
- ◎女性では年齢が低くなるにつれ「平等」が多くなっています。
- ◎国調査よりも「男性優位」が多く、「平等」が低くなっています。

<性別>

性別でみると、“男性優位”の割合は、男性では約4割であるのに対し、女性では5割半ばと大きな差が開いており、女性で不平等感が大きくなっていることが伺えます。

<性・年齢別>

性・年齢別でみると、“男性優位”の割合は女性の40歳代から60歳代で高く、約6割の人が不平等を感じています。

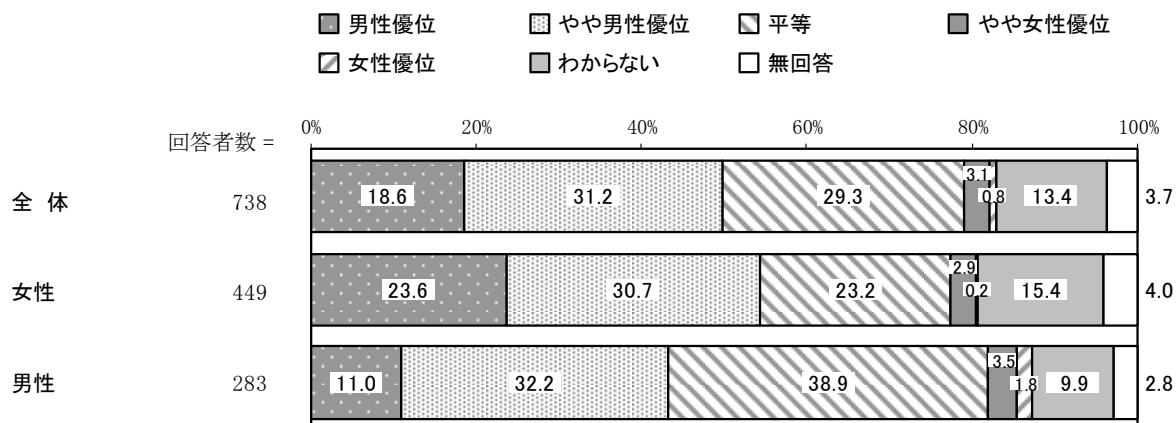
「平等」の割合は、女性で年齢が低い層で高くなっており、女性の29歳以下、30歳代で約3割と、同年代の男性に比べ高くなっており、女性の若年層で意識が変わっていることが伺えます。

なお、男性の29歳以下、30歳代で“女性優位”の割合が比較的高くなっています。

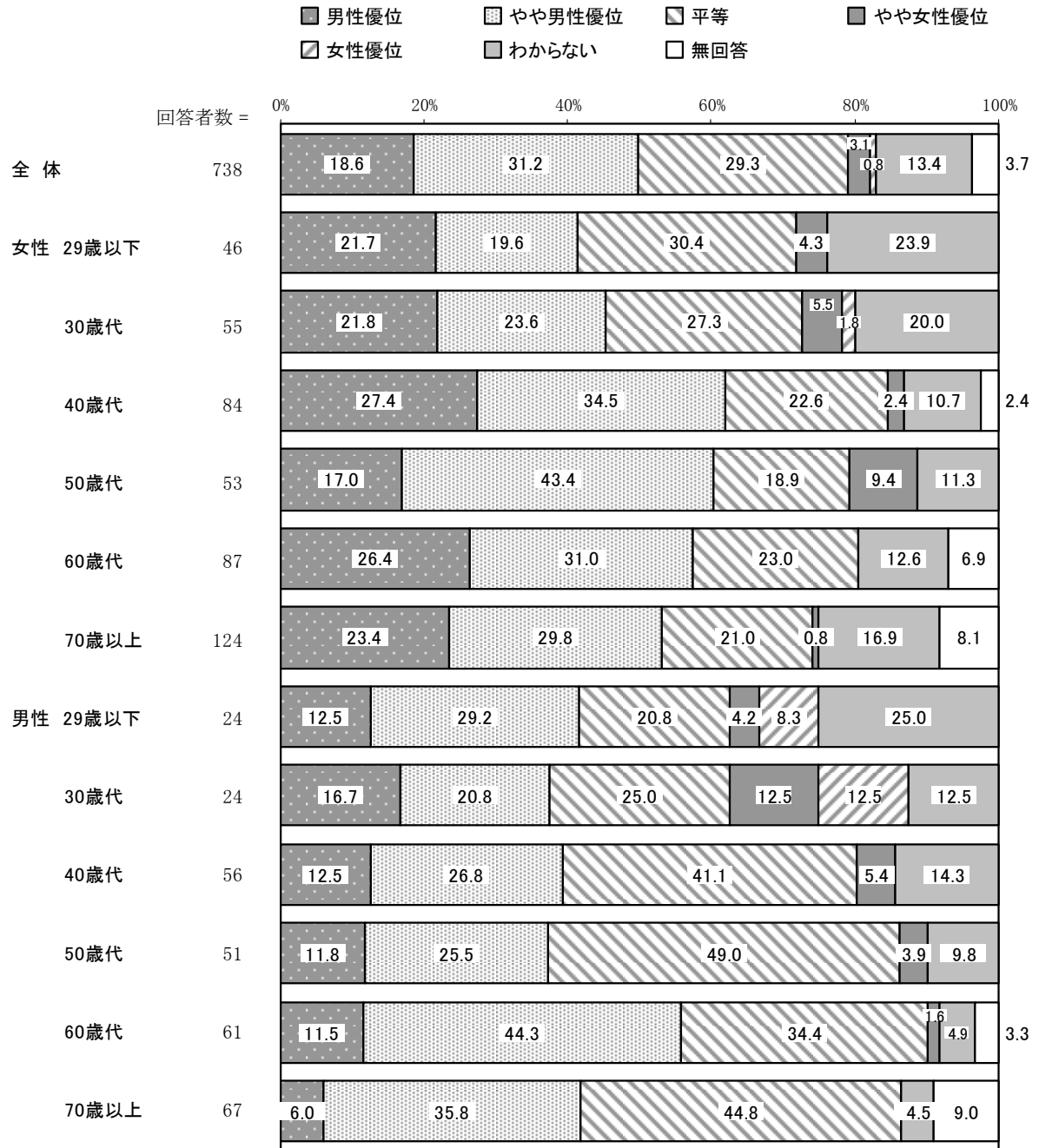
<国調査との比較>

国調査と比較すると、「男性優位」が8.3ポイント高くなっていると同時に「平等」が10.4ポイント低くなっています。

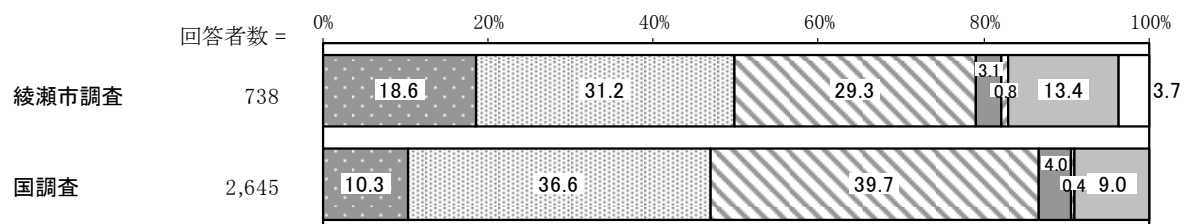
図表 問1 法律や制度 性別



図表 問1 法律や制度 性・年齢別



図表 問1 法律や制度 国調査との比較



6. 社会通念・慣習・しきたり

- ◎ “男性優位” が約7割、「平等」が1割半ばとなっています。
- ◎ “男性優位” は女性で高くなっています。
- ◎ すべての年代で男性より女性で“男性優位”の割合が高く、特に30歳代、40歳代では男女の差が大きくなっています。
- ◎ 国・県調査よりも「男性優位」が多くなっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも“男性優位”の割合が最も高いものの、男性よりも女性で7.3ポイント高くなっています。また、「平等」も、男性より女性で10.1ポイント低く、女性の平等感は低くなっています。

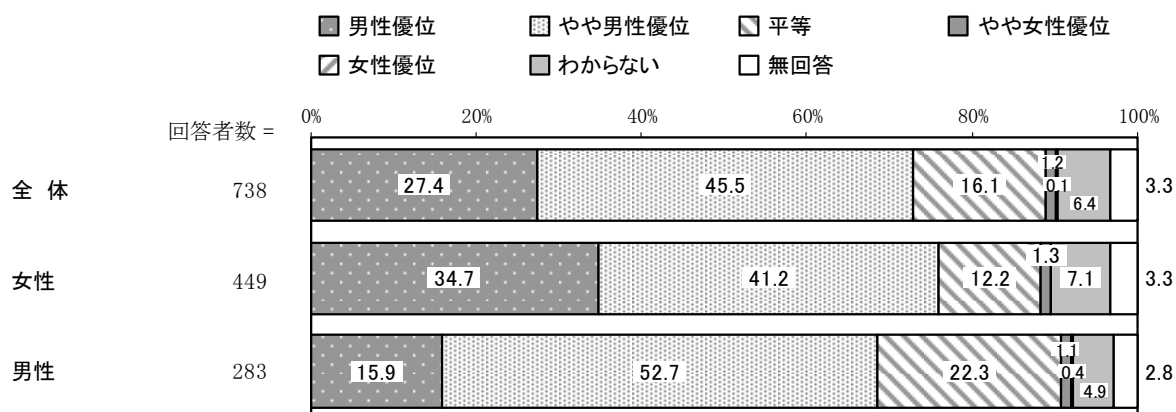
<性・年齢別>

性・年齢別で見ると、すべての年代で男性に比べ、女性で“男性優位”の割合が高く、特に30歳代、40歳代では10ポイント以上の差がみられ、子育て世代での不平等感が高くなっています。

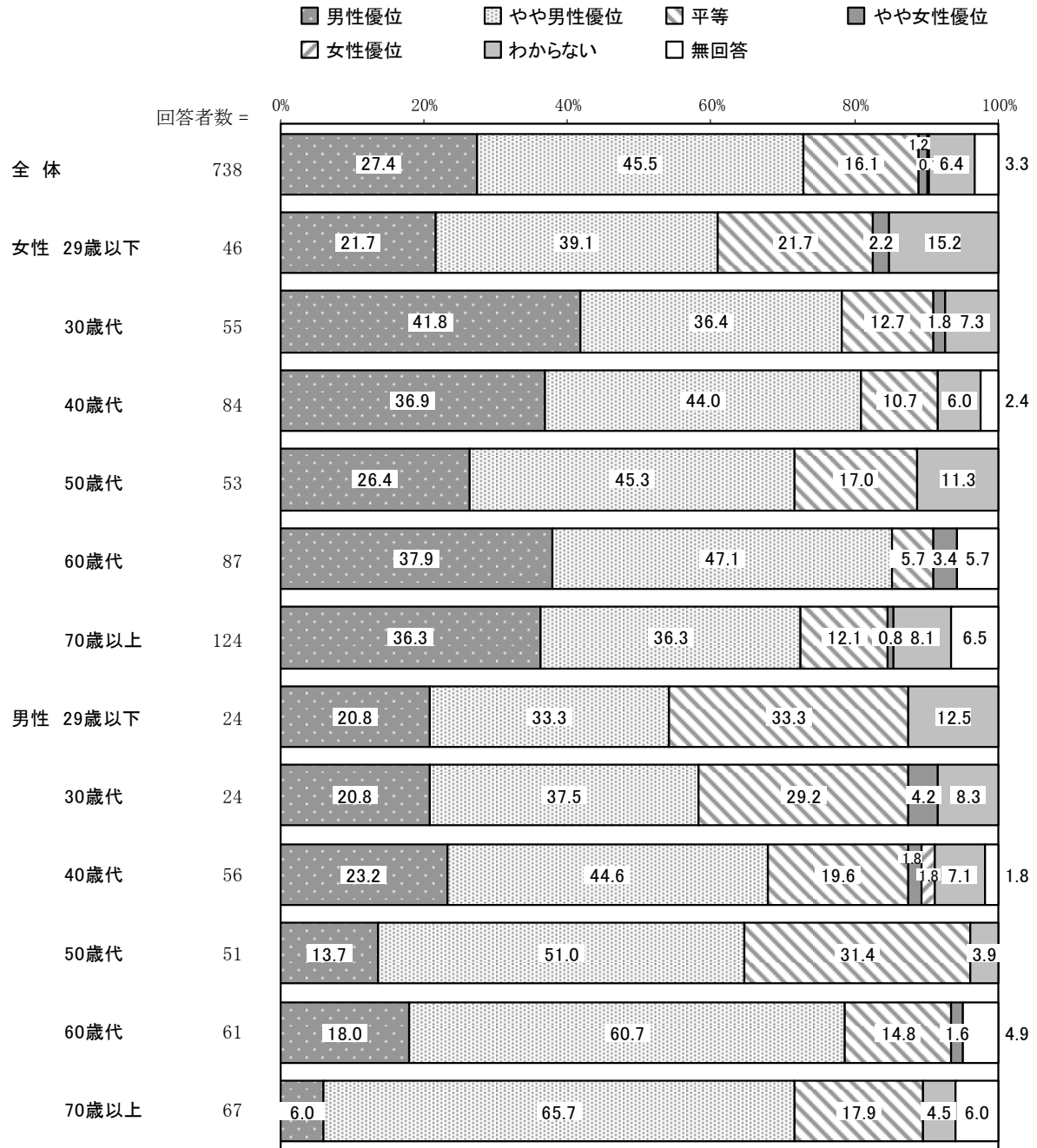
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、「男性優位」が8.3ポイント高く、また、県調査と比較しても「男性優位」が10.8ポイント高くなっています。

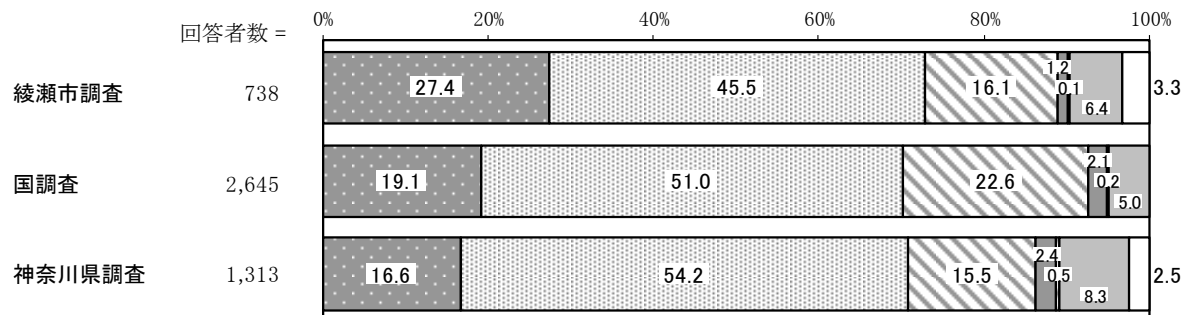
図表 問1 社会通念・慣習・しきたり 性別



図表 問1 社会通念・慣習・しきたり 性・年齢別



図表 問1 社会通念・慣習・しきたり 国・県調査との比較



7. 地域活動（自治会など）

- ◎ “男性優位” が4割半ば、「平等」が約3割となっています。
- ◎ 女性では“男性優位”が約5割を占めています。
- ◎ 年齢が下がると“男性優位”の割合が低くなるものの、男女差がみられます。
- ◎ 国・県調査よりも「男性優位」が多く、「平等」が低くなっています。

<性別>

性別でみると、男性では“男性優位”と「平等」が同程度となっているのに対し、女性では“男性優位”が約5割と高く、女性で不平等感が高くなっています。

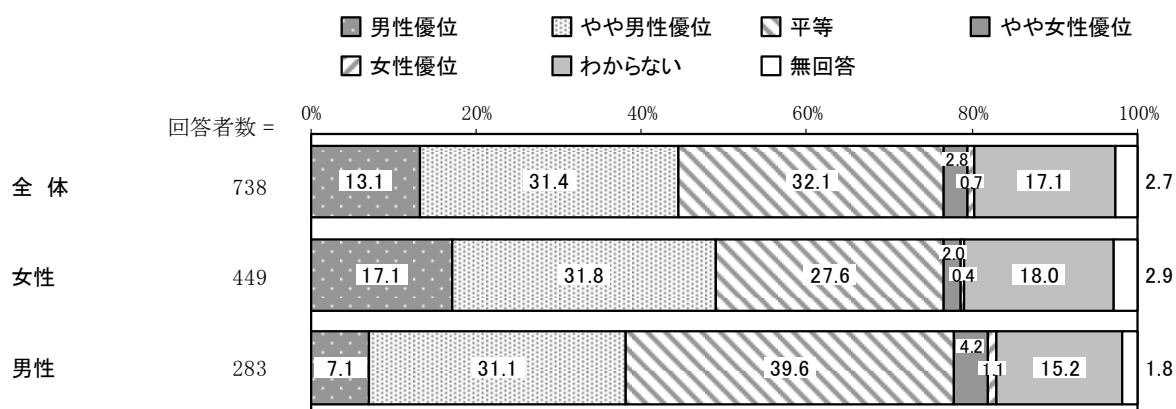
<性・年齢別>

性・年齢別でみると、“男性優位”の割合は、男女ともに年齢が下がるにつれ低くなる傾向がみられます。もっとも、男女の差をみると、29歳以下では、“男性優位”の割合が、男性よりも女性で20.1ポイント高く、男女の意識差がみられます。

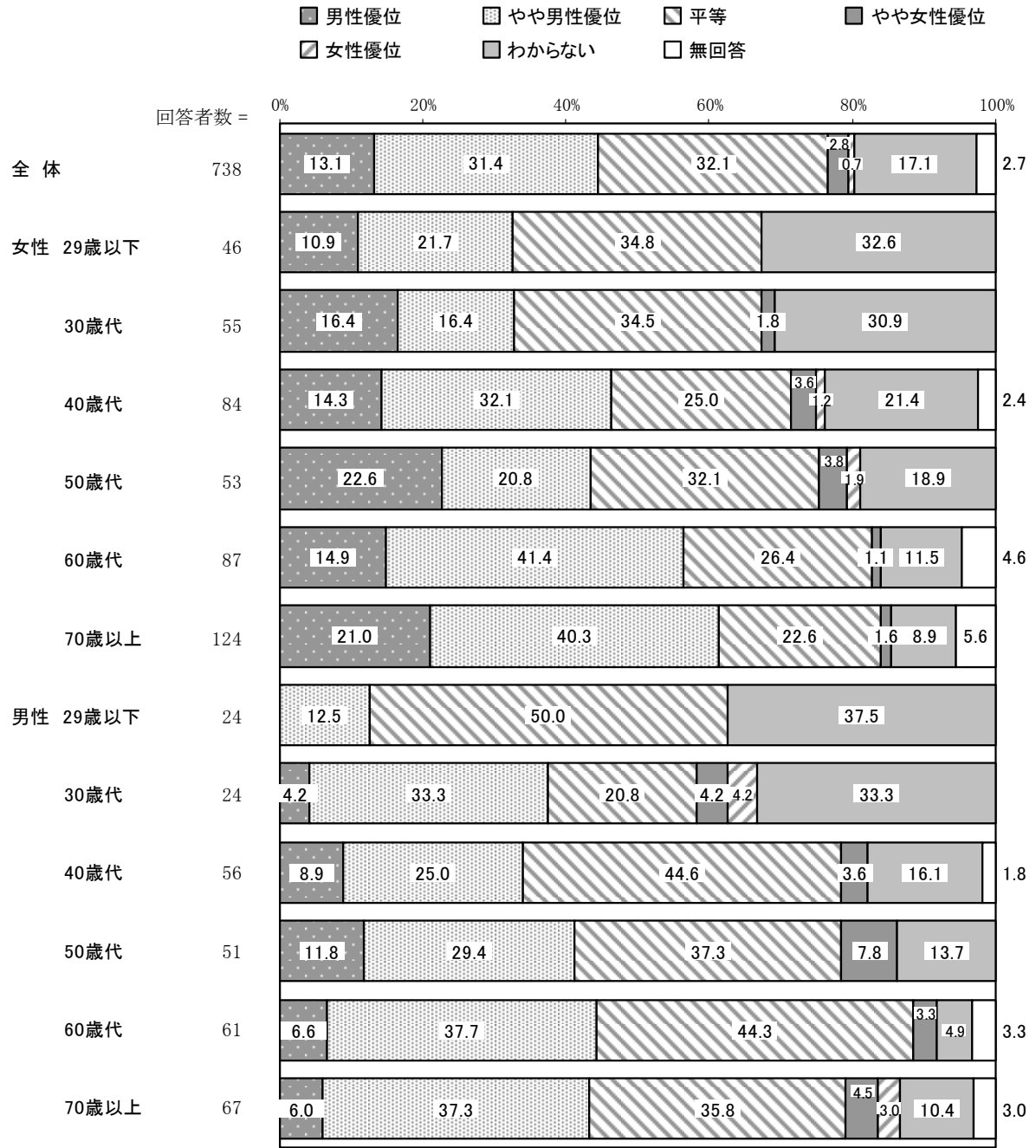
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、「男性優位」が6.1ポイント高く、「平等」が14.4ポイント、“女性優位”が6.8ポイント低くなっています。また、県調査と比較しても「男性優位」が8.7ポイント高く、「平等」が12.8ポイント、“女性優位”が6.1ポイント低くなっています。

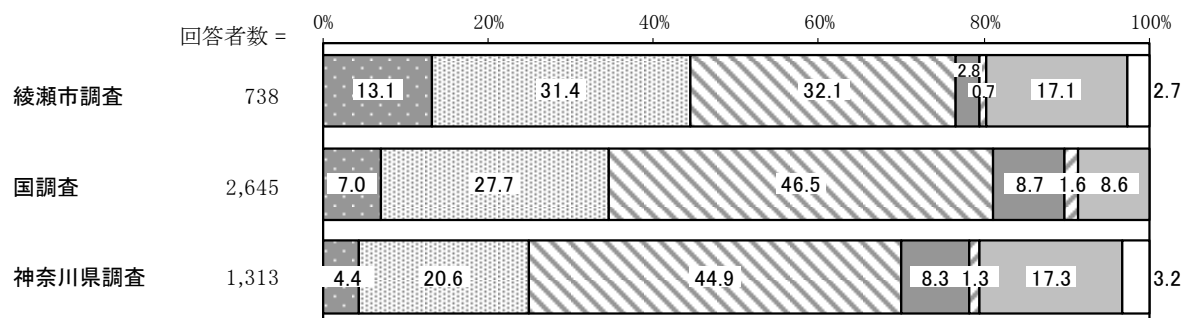
図表 問1 地域活動 性別



図表 問1 地域活動 性・年齢別



図表 問1 地域活動 国・県調査との比較



8. 社会全体

- ◎ “男性優位” が7割半ば、「平等」が約1割となっています。
- ◎男女とも“男性優位”が高く、特に女性で約8割を占めています。
- ◎年代を問わず男性より女性で“男性優位”の割合が高くなっています。
- ◎国・県調査よりも「男性優位」が多くなっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも“男性優位”の割合が最も高くなっているものの、男性では約7割、女性では約8割を占めており、男女差が大きくみられます。

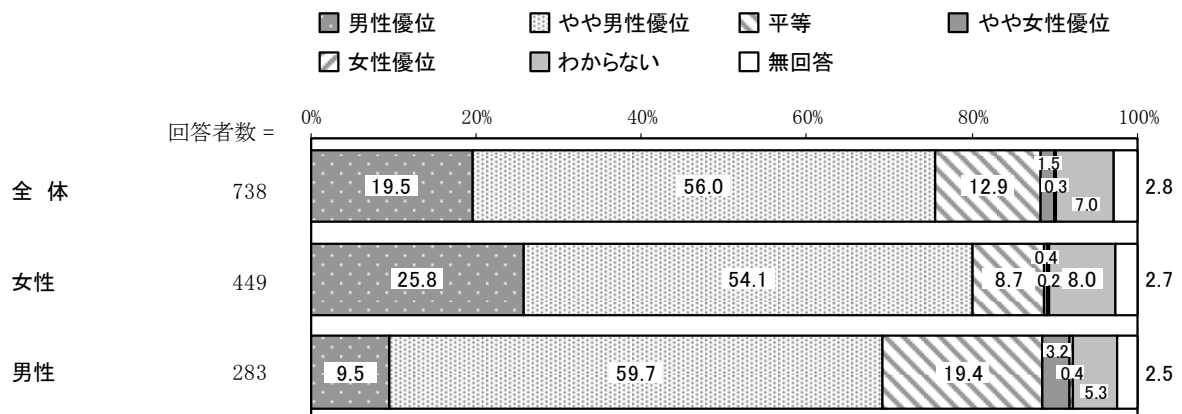
<性・年齢別>

性・年齢別で見ると、すべての年代で男性に比べ女性で“男性優位”の割合が高くなっており、年代を問わず女性で不平等感が高くなっています。また、「平等」の割合は、男性は年齢が下がるにつれ高くなるのに対し、女性は年代で大きな差異はみられず、男女差がみられます。

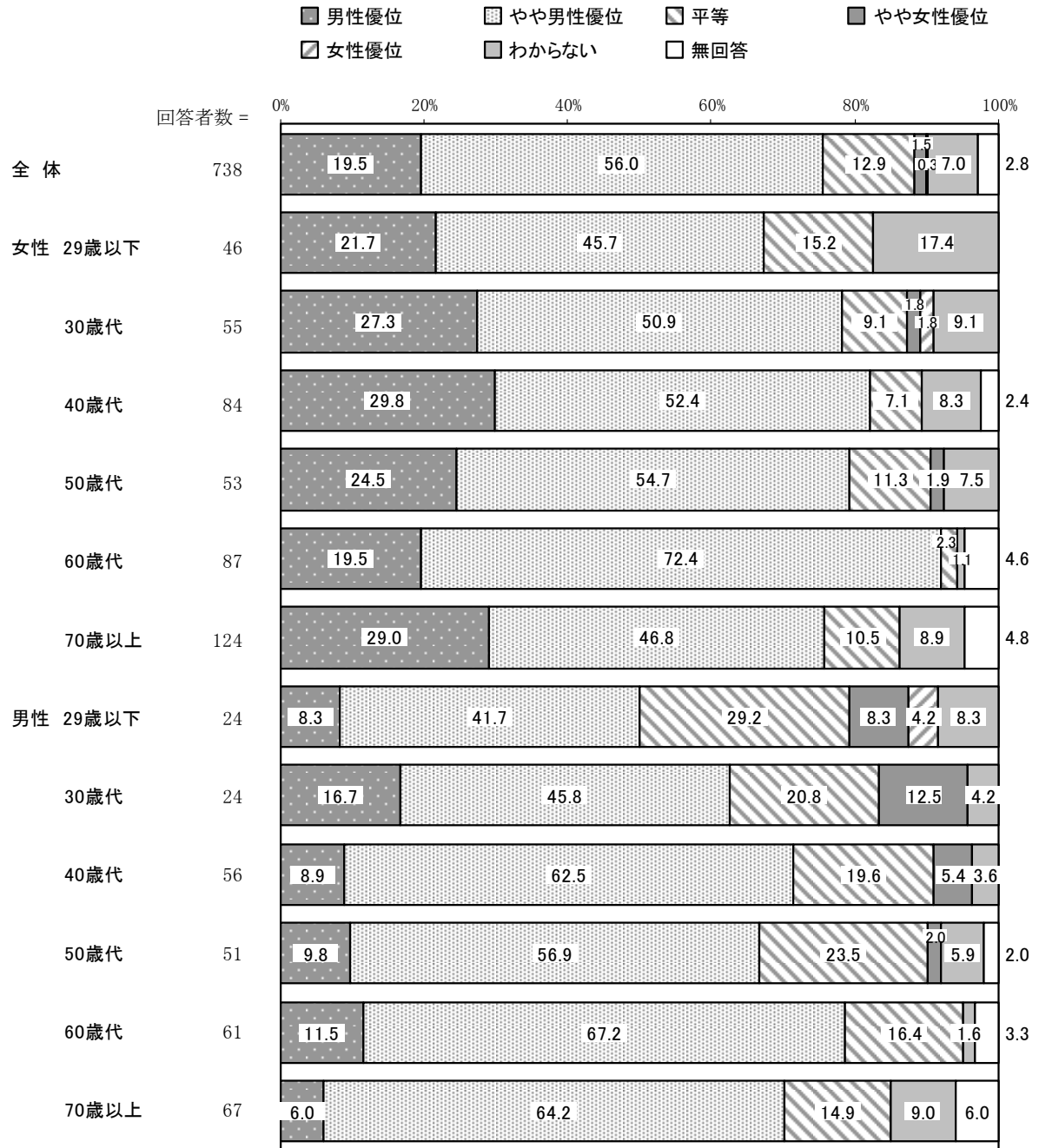
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、「男性優位」が8.2ポイント高く、「平等」が8.3ポイント低くなっています。また、県調査と比較しても「男性優位」が8.0ポイント高くなっています。

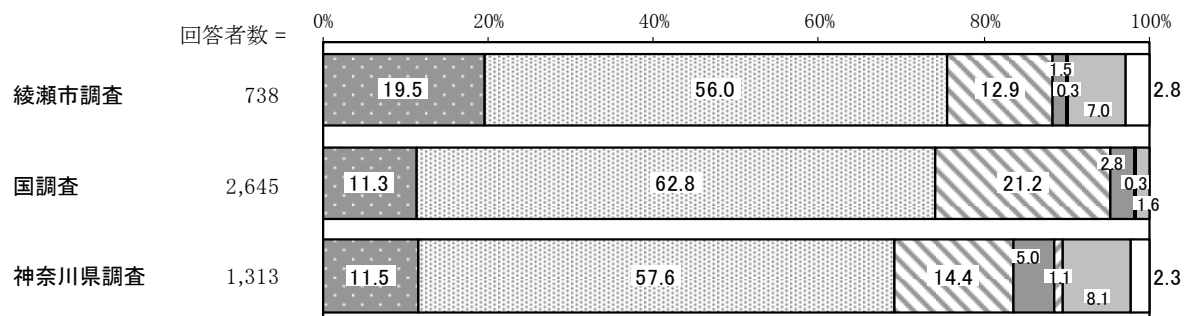
図表 問1 社会全体 性別



図表 問1 社会全体 性・年齢別



図表 問1 社会全体 国・県調査との比較



問2 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものの番号を選んでください。(あてはまるものすべてに○)

- ◎「セクハラ」「DV」が約9割、「男女雇用機会均等法」が約8割となっています。
- ◎男性で「男女共同参画社会」「男女雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」の認知度が高くなっています。
- ◎「セクハラ」「DV」は性別・年代にかかわらず認知度が高くなっています。
- ◎国・県調査よりも「LGBT」「DV」の認知度が高くなっています。

<性別>

性別でみると、女性に比べ、男性で「男女共同参画社会」「男女雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」の認知度が高くなっています。

<性・年齢別>

性・年齢別でみると、性別、年代にかかわらず「セクハラ（性的いやがらせ）」「DV（配偶者や恋人等からの暴力）」の認知度が高く、8割半ばより高くなっています。

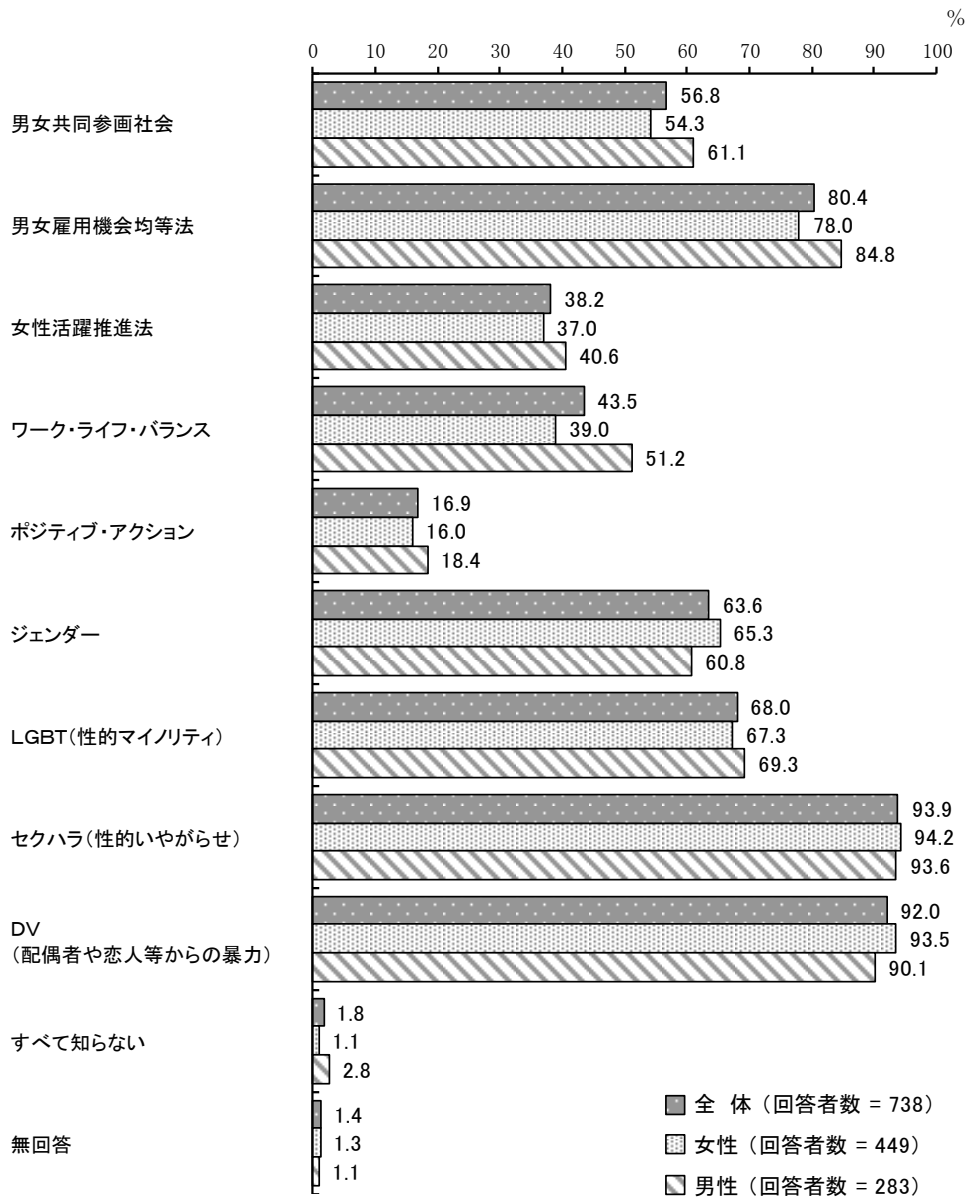
「LGBT（性的マイノリティ）」の割合は、男女とも年齢が下がるにつれ高くなる傾向がみられます。一方、「男女雇用機会均等法」の割合は、男女とも40歳以上では8割以上と認知度が高いのに対し、29歳以下、30歳代では認知度が6割台から7割台と低くなっています。

<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、「ジェンダー」が7.8ポイント、「DV（配偶者や恋人等からの暴力）」が10.5ポイント高く、「男女共同参画社会」が7.5ポイント低くなっています。また、県調査と比較すると、「LGBT（性的マイノリティ）」が18.4ポイント。「DV（配偶者や恋人等からの暴力）」が6.2ポイント高く、「ワーク・ライフ・バランス」が7.2ポイント低くなっています。

このように、国・県よりも「DV（配偶者や恋人等からの暴力）」の認知度が高く、また後述する（問19）DVを受けた人の割合も国より低いことから、本市ではDVについての意識が高くなっていることが伺えます。

図表 問2 性別

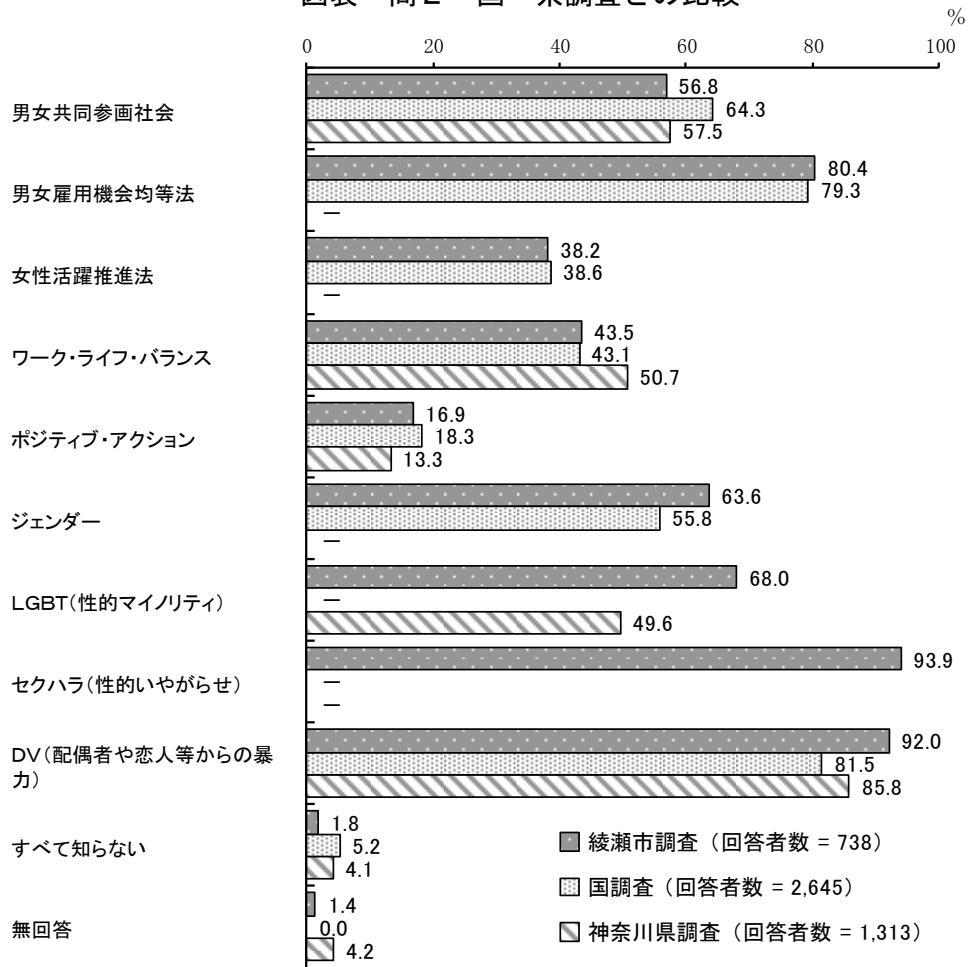


図表 問2 性・年齢別

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女共同参画社会	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法	ワーク・ライフ・バランス	ポジティブ・アクション	ジェンダー	LGBT (性的マイノリティ)	セクハラ (性的いやがらせ)	DV(配偶者や恋人等 からの暴力)	すべて知らない	無回答
全 体	738	56.8	80.4	38.2	43.5	16.9	63.6	68.0	93.9	92.0	1.8	1.4
女性 29歳以下	46	69.6	60.9	47.8	63.0	10.9	87.0	78.3	95.7	97.8	—	—
30歳代	55	49.1	70.9	36.4	41.8	12.7	85.5	89.1	92.7	92.7	1.8	3.6
40歳代	84	54.8	85.7	36.9	50.0	9.5	76.2	76.2	95.2	95.2	1.2	2.4
50歳代	53	30.2	84.9	52.8	37.7	15.1	60.4	73.6	90.6	88.7	3.8	—
60歳代	87	60.9	82.8	28.7	27.6	20.7	65.5	57.5	96.6	95.4	—	1.1
70歳以上	124	56.5	75.8	32.3	29.8	21.0	42.7	51.6	93.5	91.9	0.8	0.8
男性 29歳以下	24	58.3	66.7	20.8	58.3	8.3	79.2	83.3	95.8	87.5	4.2	—
30歳代	24	50.0	62.5	37.5	58.3	4.2	83.3	83.3	95.8	95.8	4.2	—
40歳代	56	66.1	85.7	42.9	67.9	14.3	67.9	73.2	94.6	92.9	1.8	—
50歳代	51	58.8	94.1	43.1	68.6	21.6	66.7	82.4	98.0	92.2	—	—
60歳代	61	54.1	88.5	39.3	34.4	24.6	50.8	59.0	91.8	90.2	3.3	3.3
70歳以上	67	70.1	88.1	46.3	34.3	22.4	44.8	55.2	89.6	85.1	4.5	1.5

図表 問2 国・県調査との比較



※国調査には「LGBT(性的マイノリティ)」「セクハラ(性的いやがらせ)」の選択肢はありません。
 また、県調査には「男女雇用機会均等法」「女性活躍推進法」「ジェンダー」「セクハラ(性的いやがらせ)」の選択肢はありません。

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに近いものを選んでください。(1つに○)

- ◎ “賛成” が3割半ば、“反対” が約5割となっています。
- ◎ 性別による差異はみられません。
- ◎ 男性の29歳以下では“賛成” が1割未満。50歳代では、女性より男性で“反対” の割合が高くなっています。
- ◎ 結婚している人、していた人では“賛成” の割合が高くなっています。
- ◎ 国調査と比較して“反対” が少なくなっています。

<性別>

性別でみると、大きな差異はみられず、男女とも“賛成” が3割半ば、“反対” が約5割となっています。

<性別・年齢別>

性別・年齢別でみると、男女とも年代により“賛成” “反対” の割合にばらつきがみられるものの、男性の70歳以上では“賛成” が5割半ばを占めているのに対し、男性の29歳以下では“賛成” は1割未満と低くなっており、年代によって大きな差異がみられます。また、50歳代では“反対” の割合が、男性では約6割、女性では約4割と、女性よりも男性で“反対” の割合が高くなっています。

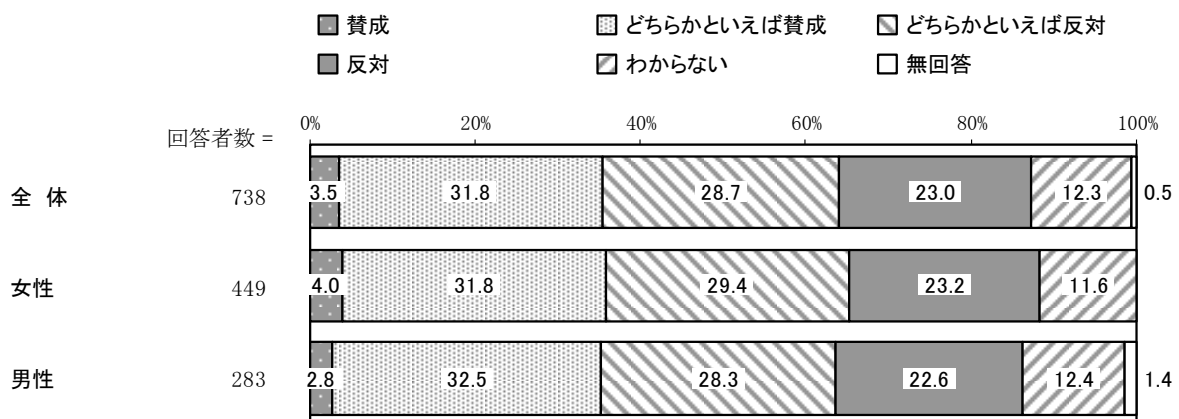
<婚姻状況別>

婚姻状況別でみると、結婚していない人より、結婚を経験している人で“賛成” の割合が高くなっており、特に結婚している人では約4割が“賛成” となっています。

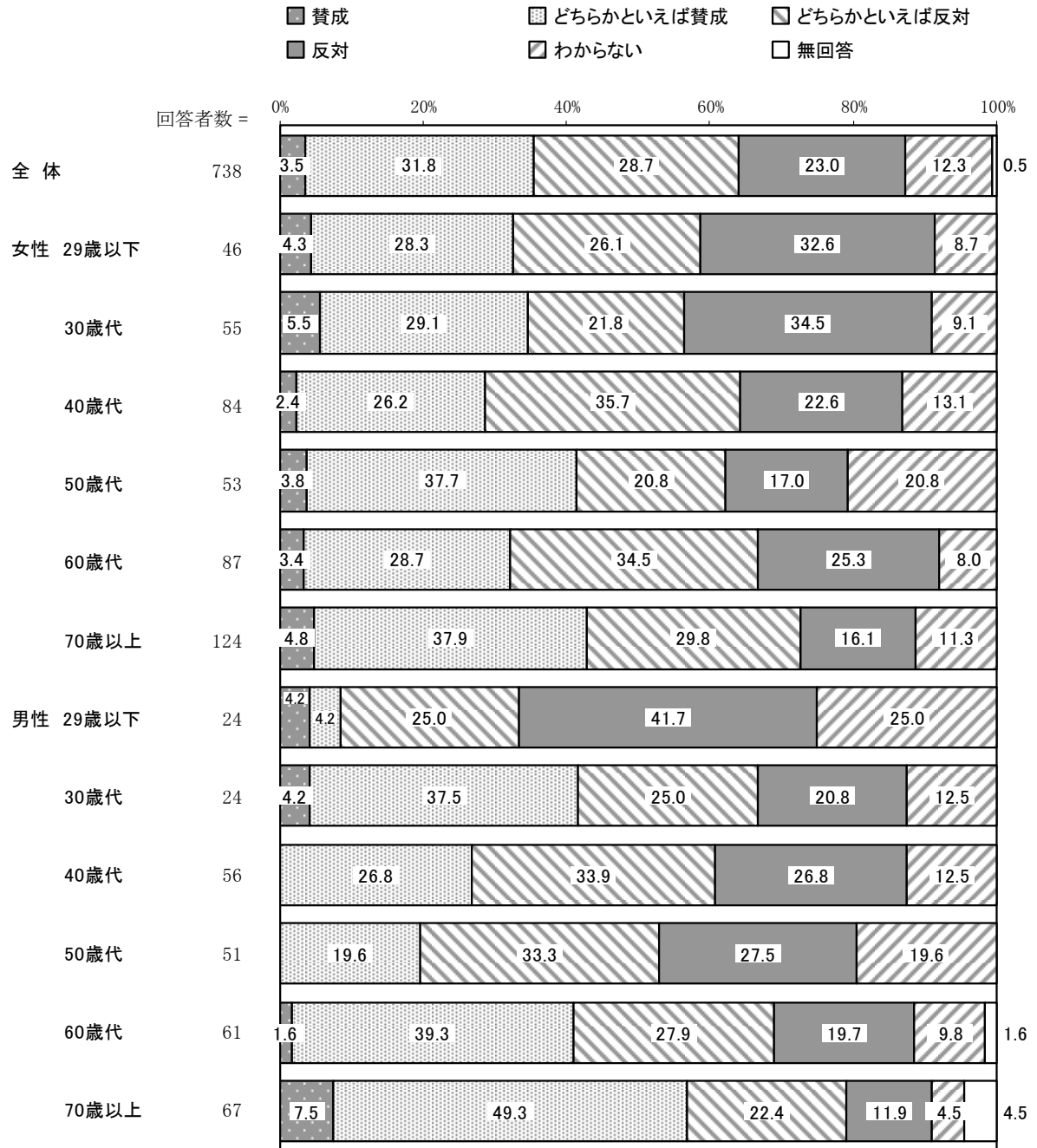
<国調査との比較>

国調査と比較すると、“反対” が8.1ポイント低いものの、“賛成” は同程度となっており、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方への意識は国と同様になっていると考えられます。

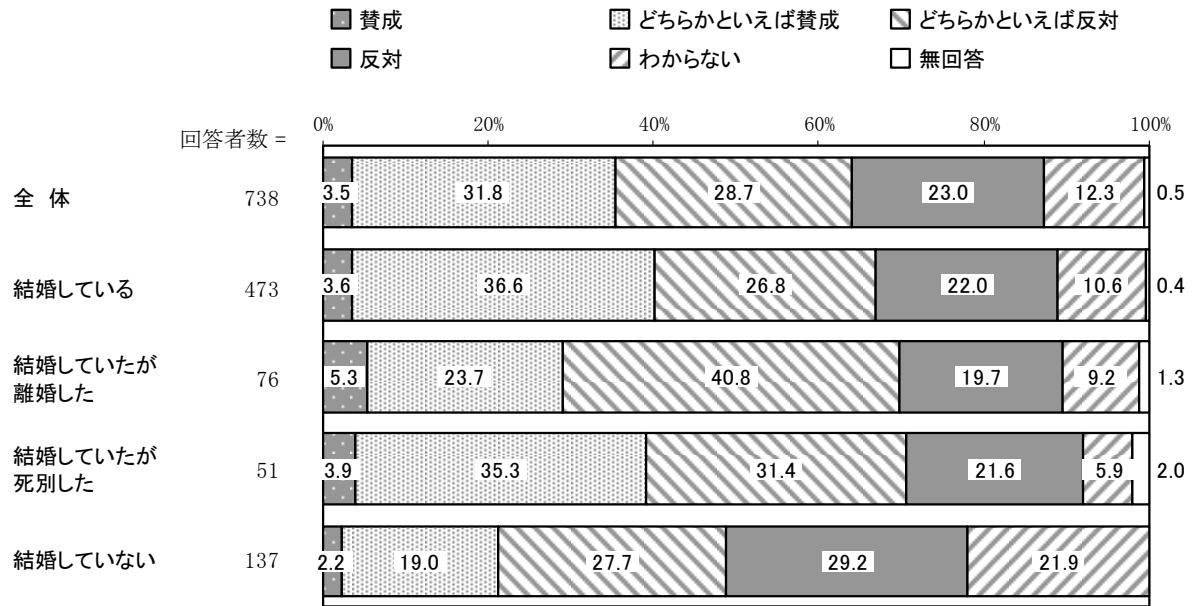
図表 問3 性別



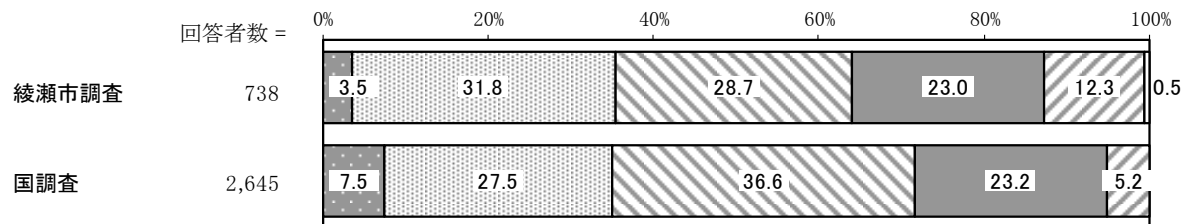
図表 問3 性・年齢別



図表 問3 婚姻状況別



図表 問3 国調査との比較



問4 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを選んでください。
(1つに○)

- ◎「性差に配慮して育てた方がよい」が約5割、「区別なく育てた方がよい」が約3割となっています。
- ◎男女とも『男らしさ』『女らしさ』を強調しないが、性差に配慮して育てた方がよい」が最も高くなっています。
- ◎男性の60歳以上で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」の割合が高くなっています。
- ◎配偶者と死別した人で「性差に配慮して育てた方がよい」が6割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女とも『男らしさ』『女らしさ』を強調しないが、性差に配慮して育てた方がよい」が最も高いものの、女性では5割半ば、男性では4割半ばと性別による差がみられます。また、男性では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」の割合が女性に比べ高くなっています。

<性・年齢別>

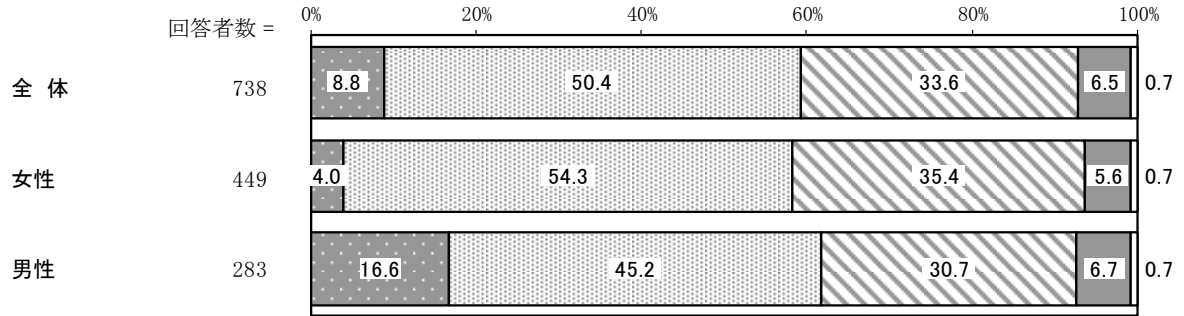
性・年齢別でみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」の割合は、女性では年代による差はみられないものの、男性では60歳代、70歳以上で高くなっています。また、男性では年齢が下がるにつれ『男の子』あるいは『女の子』を意識せず、区別なく育てた方がよい」の割合が高くなる傾向がみられます。

<婚姻状況別>

婚姻状況別でみると、結婚していたが死別したで『男らしさ』『女らしさ』を強調しないが、性差に配慮して育てた方がよい」の割合が高く、6割半ばとなっています。

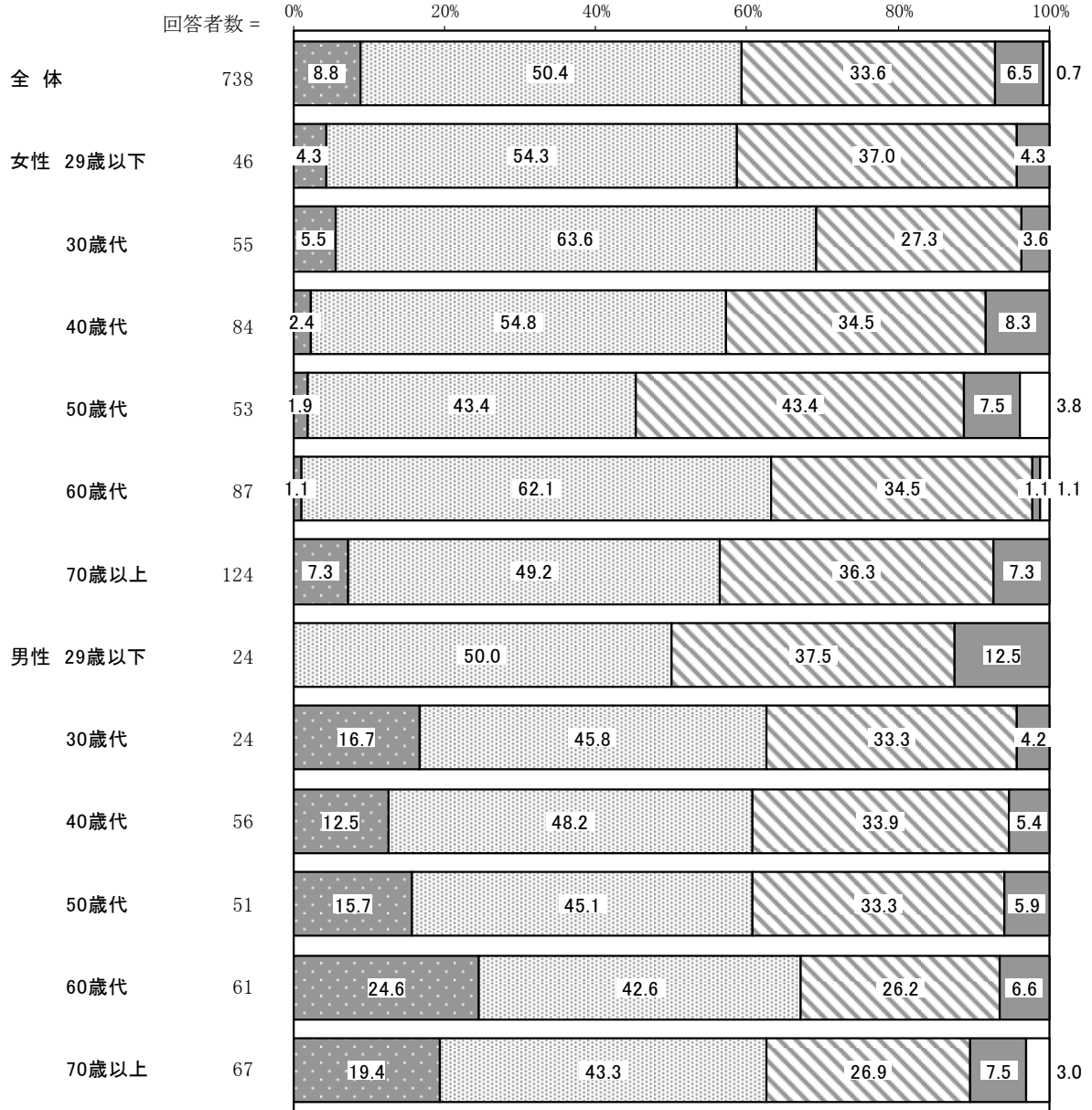
図表 問4 性別

- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい
- ▨ 「男らしさ」「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てた方がよい
- ▩ 「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい
- わからない
- 無回答

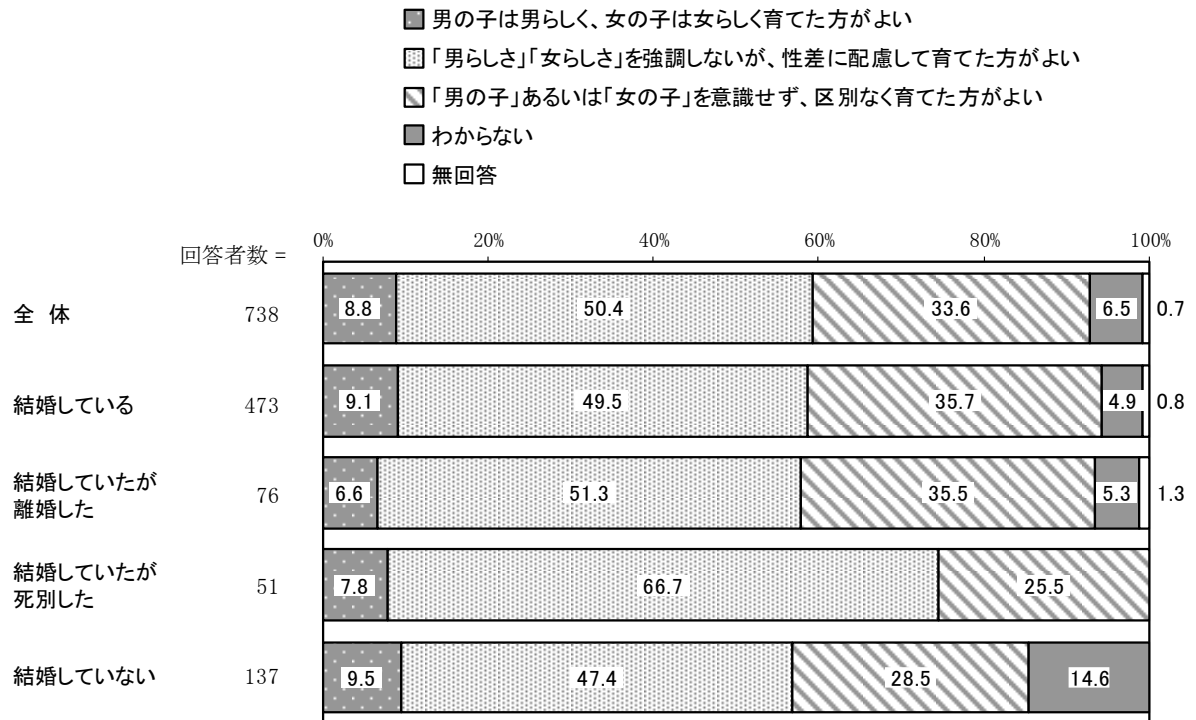


図表 問4 性・年齢別

- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい
- ▨ 「男らしさ」「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てた方がよい
- ▩ 「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい
- わからない
- 無回答



図表 問4 婚姻状況別



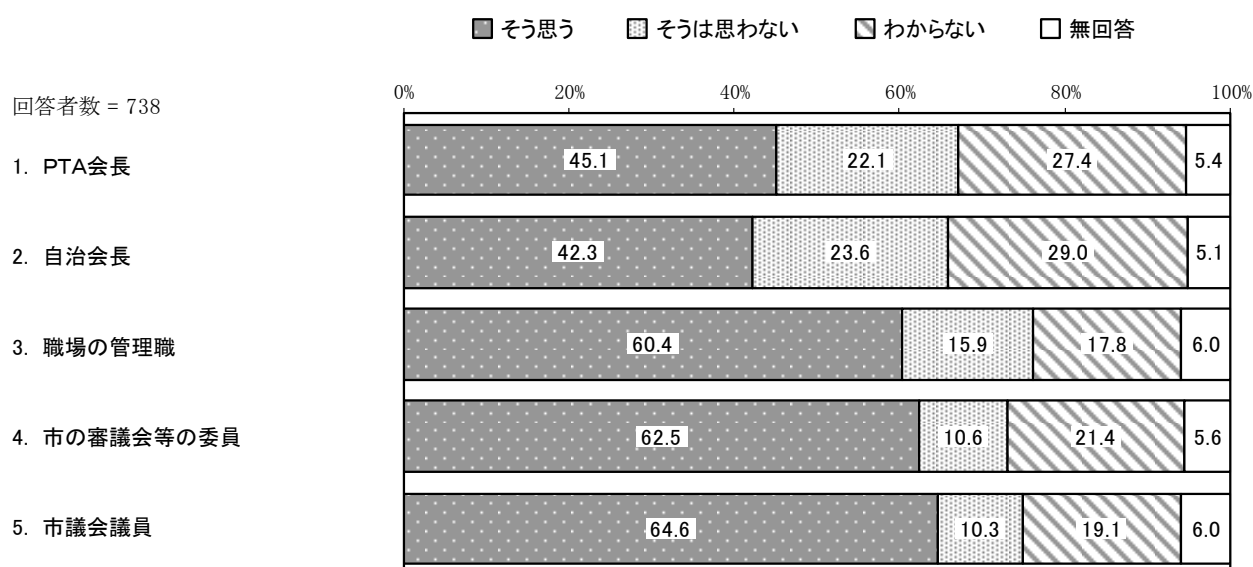
3 女性の社会参画について

問5-1 次の役職等に「女性がもっと就任した方がよい」と思いますか。1～5の各項目について、あなたの考えに近いものを選んでください。
(項目ごとに○を1つ)

◎女性がもっと就任した方がよいものは『職場の管理職』『市の審議会等の委員』『市議会議員』が6割を超えています。

『職場の管理職』『市の審議会等の委員』『市議会議員』では、「そう思う」の割合が高く、6割を超えており、『PTA会長』『自治会長』に比べ、高くなっています。

図表 問5-1 全体



1. PTA会長

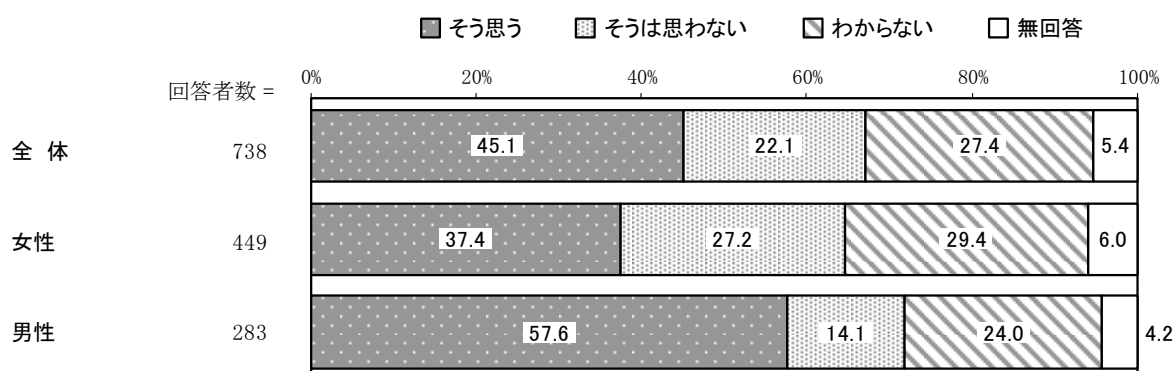
◎「そう思う」が4割半ば、「そうは思わない」が約2割となっています。

◎男女で「そう思う」の割合に約20ポイントの差がみられます。

<性別>

性別でみると、「そう思う」の割合は男性より女性で20.2ポイント低く、男女差が大きくなっています。

図表 問5-1 PTA会長 性別



2. 自治会長

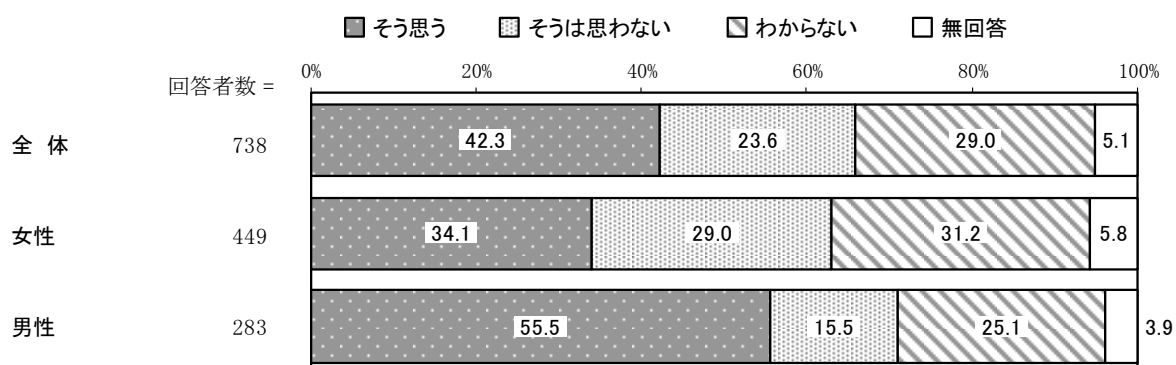
◎「そう思う」が約4割、「そうは思わない」が約2割となっています。

◎男女で「そう思う」の割合に21.4ポイントの差がみられます。

<性別>

性別でみると、「そう思う」の割合は男性より女性で21.4ポイント低く、男女差が大きくなっています。

図表 問5-1 自治会長 性別



3. 職場の管理職

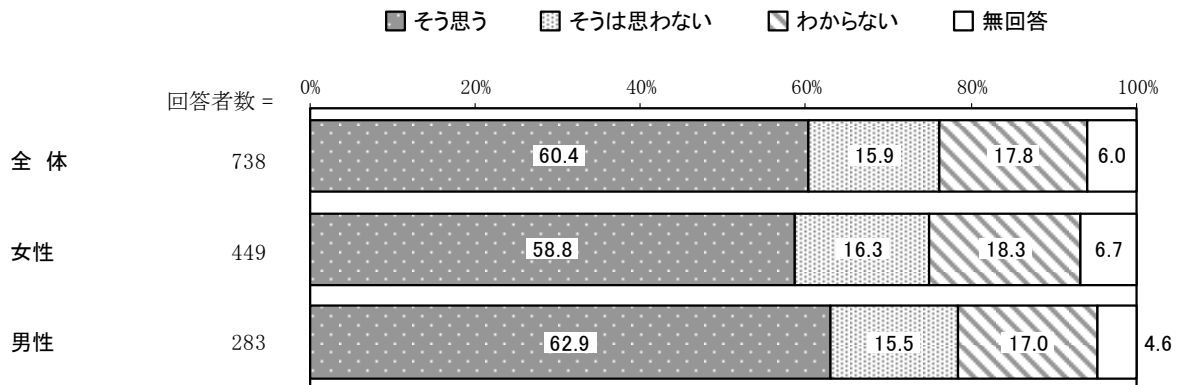
◎「そう思う」が約6割、「そうは思わない」が1割半ばとなっています。

◎性別による大きな差異はみられません。

<性別>

性別でみると、大きな差異はみられず、男女とも「そう思う」の割合が約6割となっています。

図表 問5-1 職場の管理職 性別



4. 市の審議会等の委員

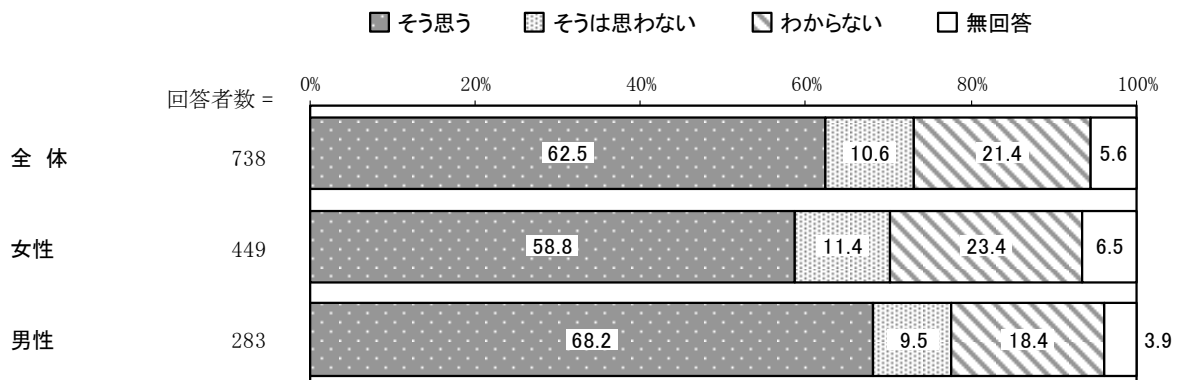
◎「そう思う」が約6割、「そうは思わない」が約1割となっています。

◎「そう思う」の割合には男女差がみられます。

<性別>

性別でみると、男女とも「そう思う」の割合が半数を超えているものの、男性より女性では9.4ポイント低くなっています。

図表 問5-1 市の審議会等の委員 性別



5. 市議会議員

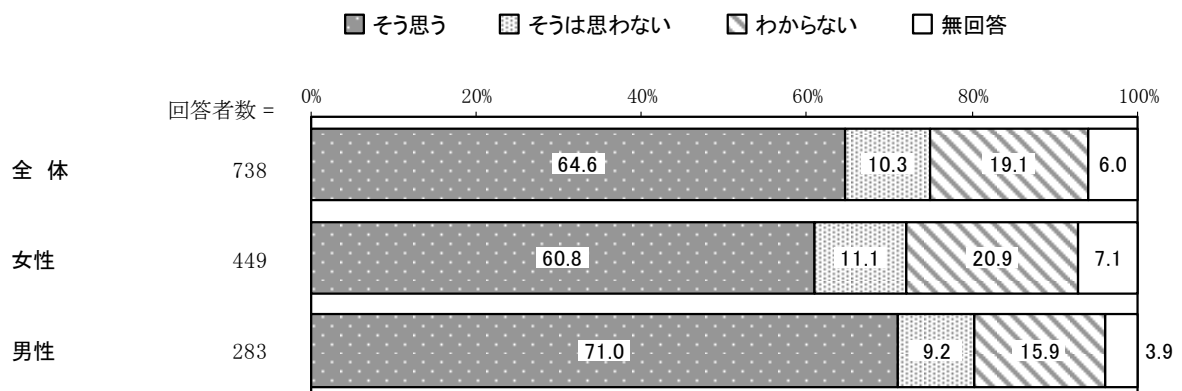
◎「そう思う」が6割半ば、「そうは思わない」が約1割となっています。

◎「そう思う」の割合は、性別で10.2ポイントの差がみられます。

<性別>

性別でみると、男女とも「そう思う」の割合が6割を超えているものの、男性より女性では10.2ポイント低くなっています。

図表 問5-1 市議会議員 性別



問5-2 もしも、1～5の役職等に就任や立候補を依頼されたらどうしますか。
 ・あなたが女性の場合は、ご自身が承諾するかどうか
 ・あなたが男性の場合には、配偶者（いない方は、いることを想定して）について賛成するかどうか
 あなたの考えはどちらですか。1～5の各項目について、あてはまるものを選んでください。（AからBのどちらかを選択）
 また、「B 承諾・賛成しない」に○をした場合は、その理由を①～⑩の中から1つ選び、○をつけてください。（1つに○）

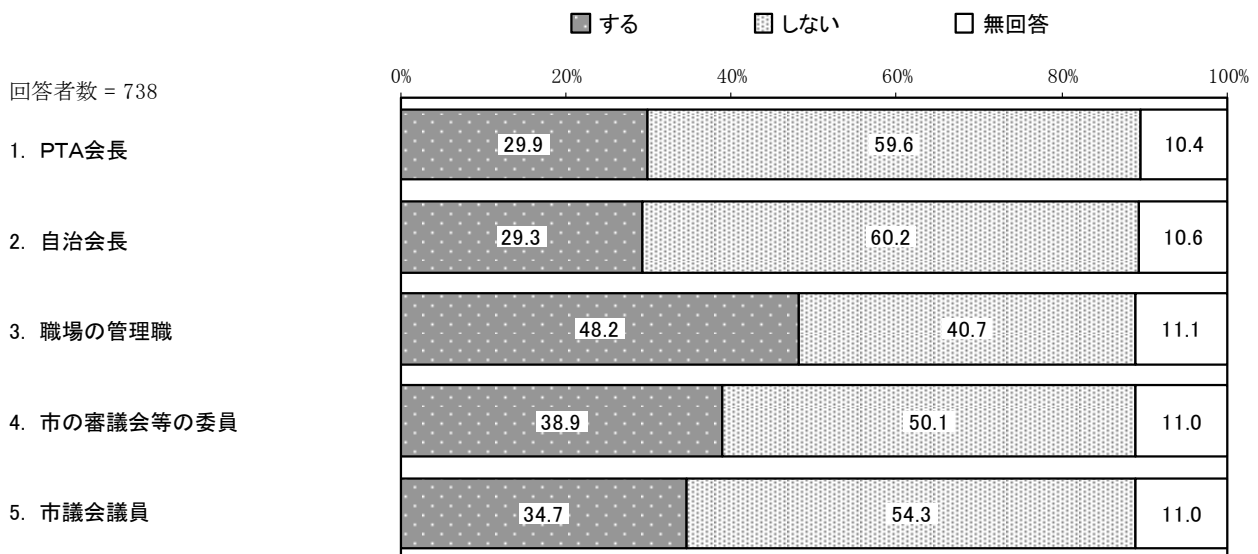
■就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否

- ◎ “職場の管理職” では「する」の割合が約5割と高くなっています。
- ◎ “PTA会長” “自治会長” では「しない」の割合が約6割と高くなっています。

“職場の管理職” では、「する」の割合が高く、約5割となっています。一方、“PTA会長”、“自治会長” では「しない」の割合が高く、約6割となっています。

問5-1の「女性が増えたらよいと思う」割合と比較すると、すべての項目で、「する」の割合が低く、女性が増えるのには賛成ではあるものの、自分や配偶者がその立場になるのには躊躇する人が多くなっています。

図表 問5-2 就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否 全体



1. P T A会長

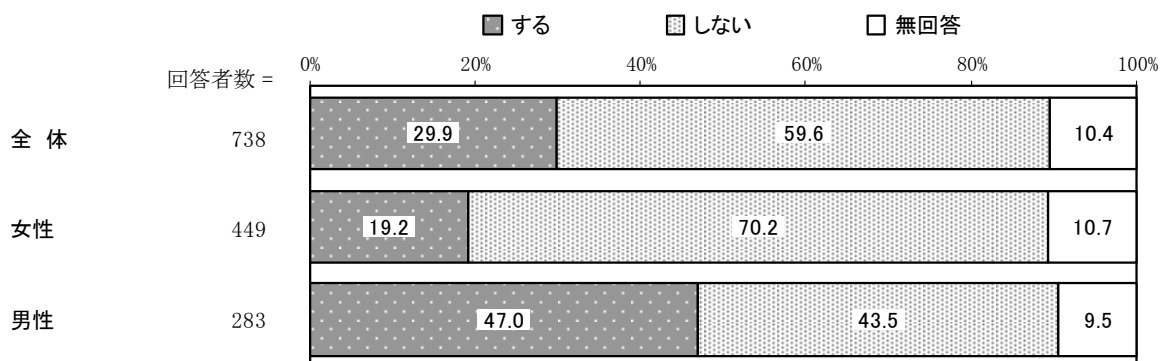
◎「する」の割合が約3割、「しない」の割合が約6割となっています。

◎男女とも自身や配偶者がP T A会長になるのは積極的ではありません。

<性 別>

性別でみると、「しない」の割合は、女性で約7割、男性でも約4割となっており、P T A会長に自身、あるいは配偶者になるのには積極的でない人が多くなっています。

図表 問5-2 就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否 P T A会長 性別



2. 自治会長

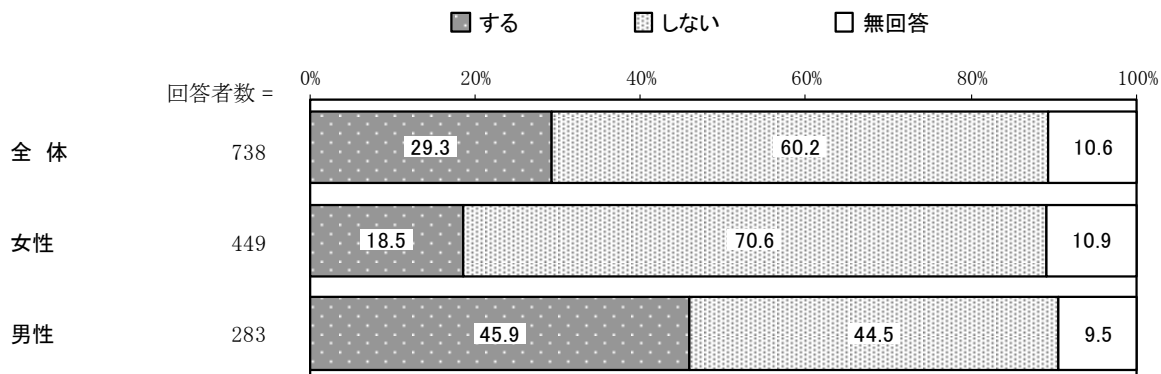
◎「する」の割合が約3割、「しない」の割合が約6割となっています。

◎男女とも自身や配偶者が自治会長になるのは積極的ではありません。

<性 別>

性別でみると、「しない」の割合は、女性で約7割、男性でも4割半ばとなっており、自治会長に自身、あるいは配偶者になるのには積極的でない人が多くなっています。

図表 問5-2 就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否 自治会長 性別



3. 職場の管理職

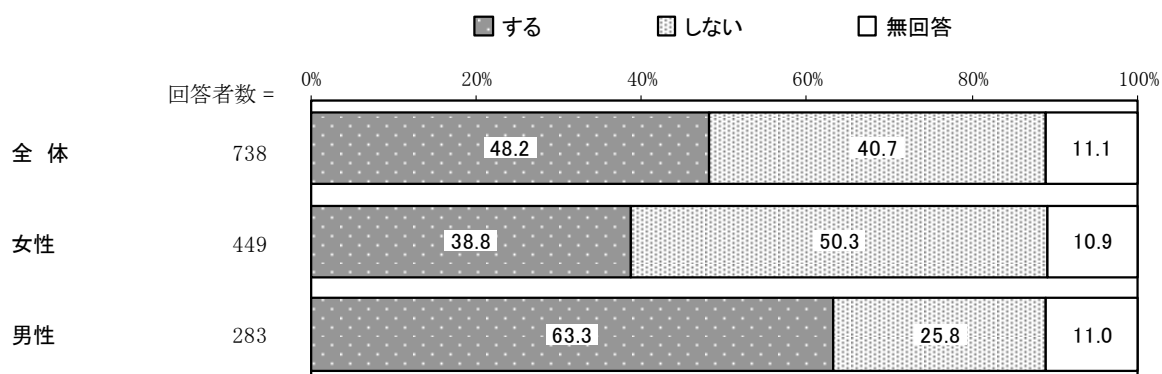
◎「する」の割合が約5割、「しない」の割合が約4割となっています。

◎女性では「しない」が半数程度となっています。

<性別>

性別でみると、「しない」の割合は、女性で約5割と、管理職になることに積極的でない人が多くなっています。一方、男性では配偶者が管理職になるのを承諾「する」人が多く、約6割となっています。

図表 問5-2 就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否 職場の管理職 性別



4. 市の審議会等の委員

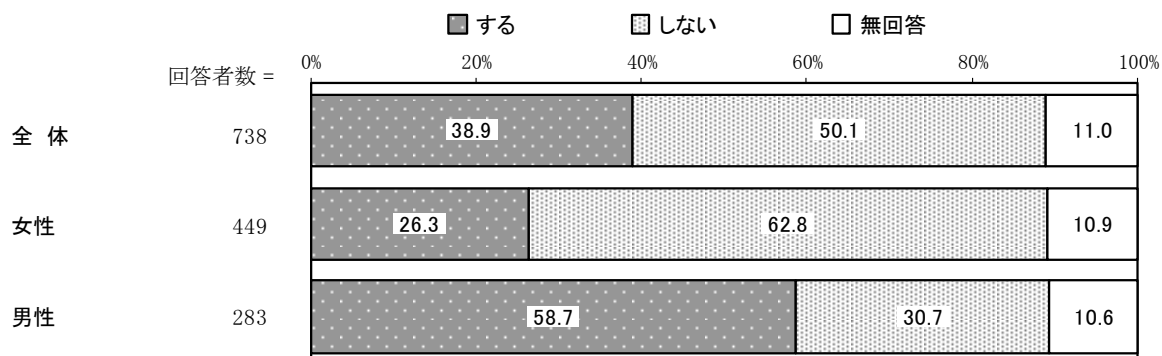
◎「する」の割合が約4割、「しない」の割合が約5割となっています。

◎女性で「しない」の割合が約6割となっています。

<性別>

性別でみると、「しない」の割合は、男性で約3割であるのに対し、女性では約6割と、自身が委員になることに積極的ではない人が多くなっています。

図表 問5-2 就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否 市の審議会等の委員 性別



5. 市議会議員

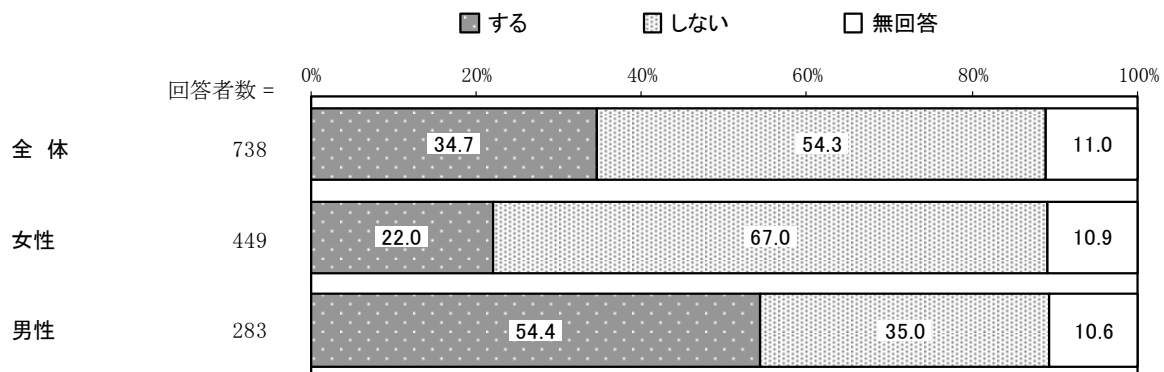
◎「する」の割合が3割半ば、「しない」の割合が5割半ばとなっています。

◎女性で「しない」の割合が約7割となっています。

<性別>

性別で見ると、「しない」の割合は、男性では3割半ばであるのに対し、女性では約7割と高くなっており、自身が市議会議員に立候補することに積極的でない人が多数を占めています。

図表 問5-2 就任や立候補を依頼された場合の諾否・賛否 市議会議員 性別

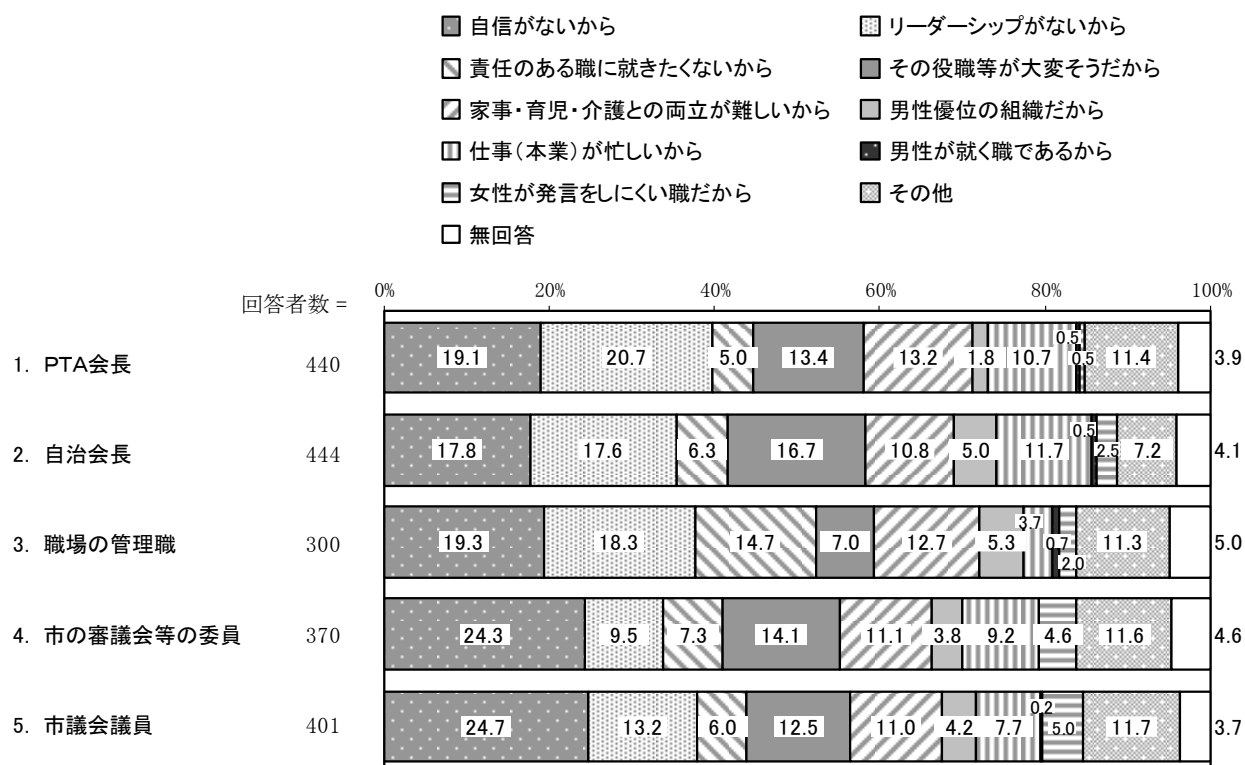


「B 承諾・賛成しない」理由

◎『PTA会長』以外の項目では「自信がないから」が最も多くなっています。

『PTA会長』では「リーダーシップがないから」が最も高く、その他の項目では「自信がないから」の割合が最も高くなっており、女性の自信のなさが、女性が増えない理由と考えられます。

図表 問5-2 承諾・賛成しない理由 市議会議員 全体



1. PTA会長

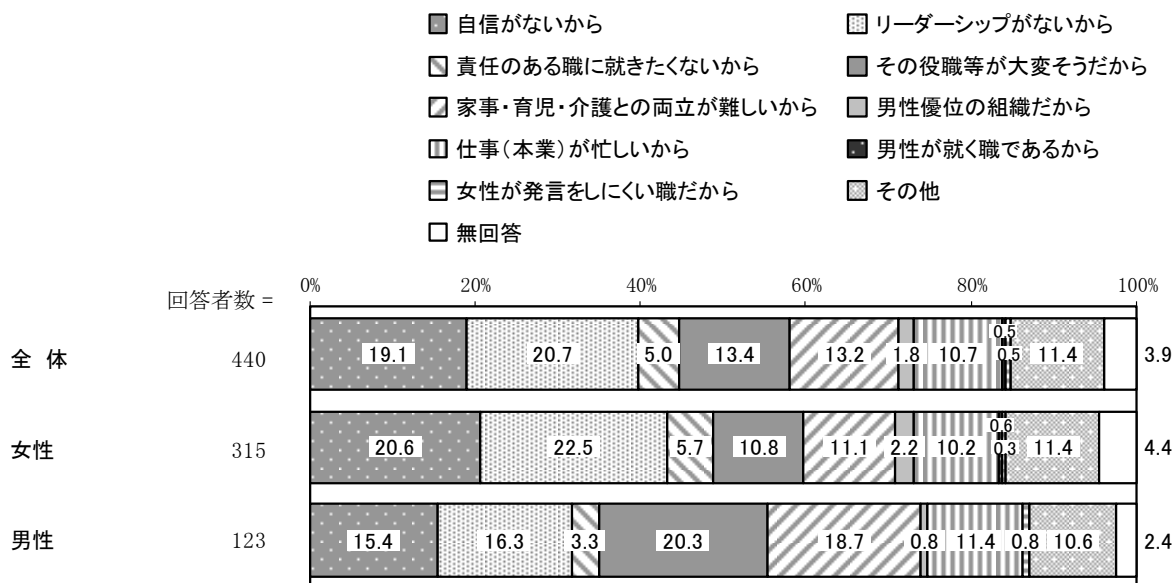
◎「自信がないから」「リーダーシップがないから」が約2割となっています。

◎女性では自信、リーダーシップのなさ、男性では大変さ、家庭等との両立が問題となっています。

<性別>

性別でみると、女性では「自信がないから」「リーダーシップがないから」の割合がそれぞれ2割、男性では「その役職等が大変そうだから」「家事・育児・介護との両立が難しいから」の割合がそれぞれ2割と、女性では自身の問題が、男性では役職の問題が大きくなっていると考えられます。

図表 問5-2 承諾・賛成しない理由 PTA会長 性別



2. 自治会長

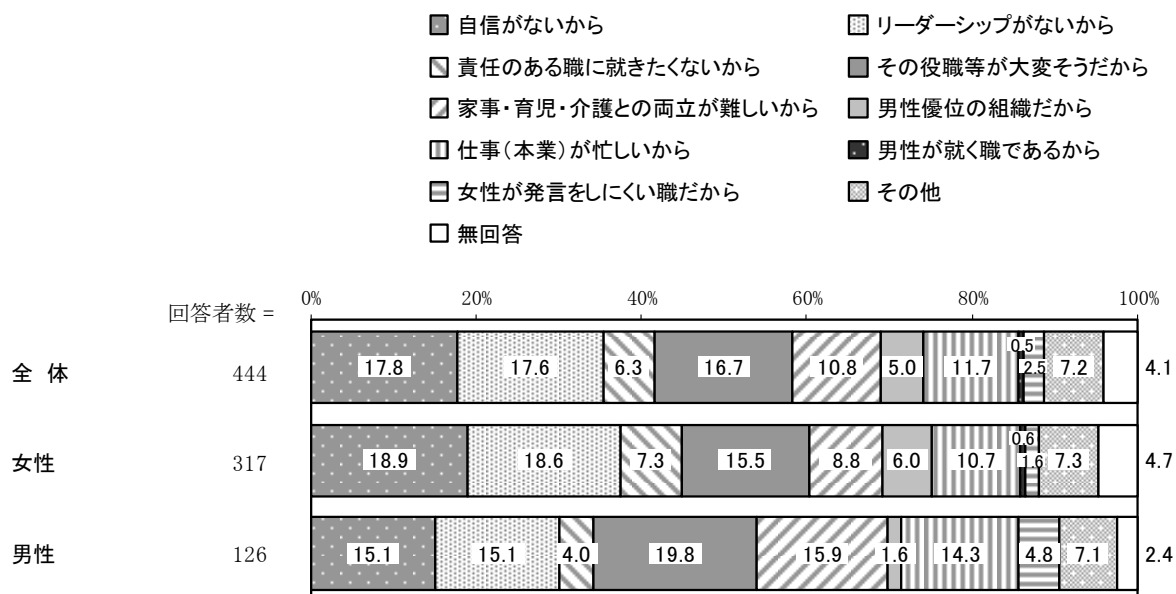
◎「自信がないから」「リーダーシップがないから」が約2割となっています。

◎女性では自信、リーダーシップのなさが、男性では役職の負担が原因となっています。

<性別>

性別でみると、女性では「自信がないから」「リーダーシップがないから」の割合がそれぞれ2割、男性では「その役職等が大変そうだから」の割合がそれぞれ2割と、女性では自身の問題が、男性では役職の負担が大きくなっていると考えられます。

図表 問5-2 承諾・賛成しない理由 自治会長 性別



3. 職場の管理職

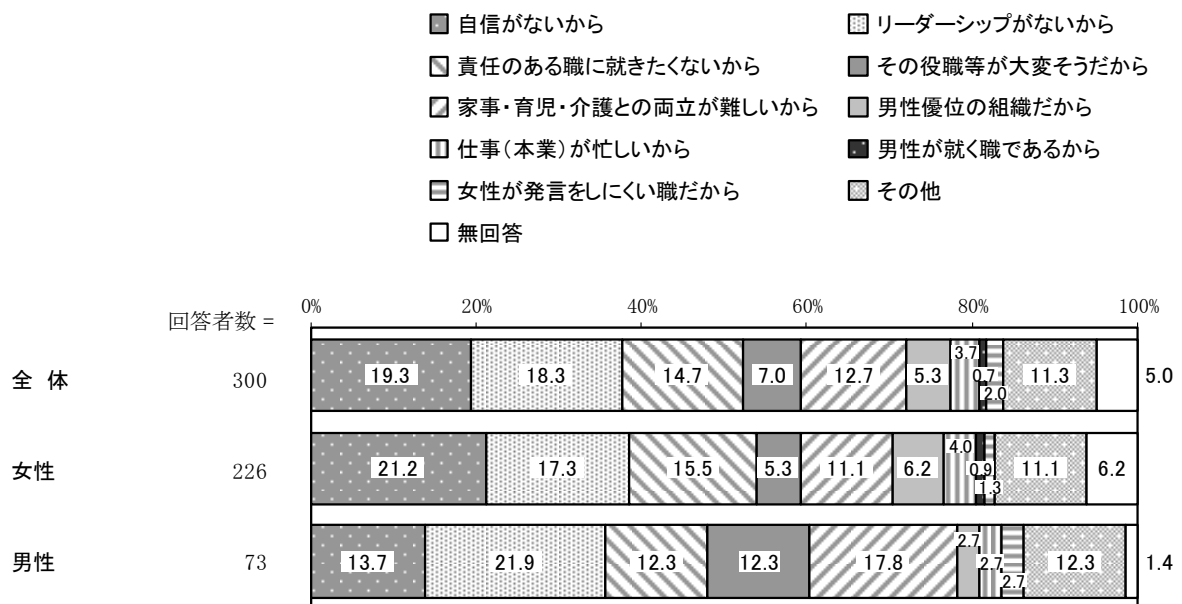
◎「自信がないから」「リーダーシップがないから」が約2割となっています。

◎男女ともに「リーダーシップのなさ」が原因となっています。

<性別>

性別でみると、女性では「自信がないから」「リーダーシップがないから」の割合がそれぞれ2割、男性では「リーダーシップがないから」「家事・育児・介護との両立が難しいから」の割合がそれぞれ2割と、女性では自身の問題が原因であるのに対し、男性では女性自身の問題とともに家庭との両立が原因となっていると考えられます。

図表 問5-2 承諾・賛成しない理由 職場の管理職 性別



4. 市の審議会等の委員

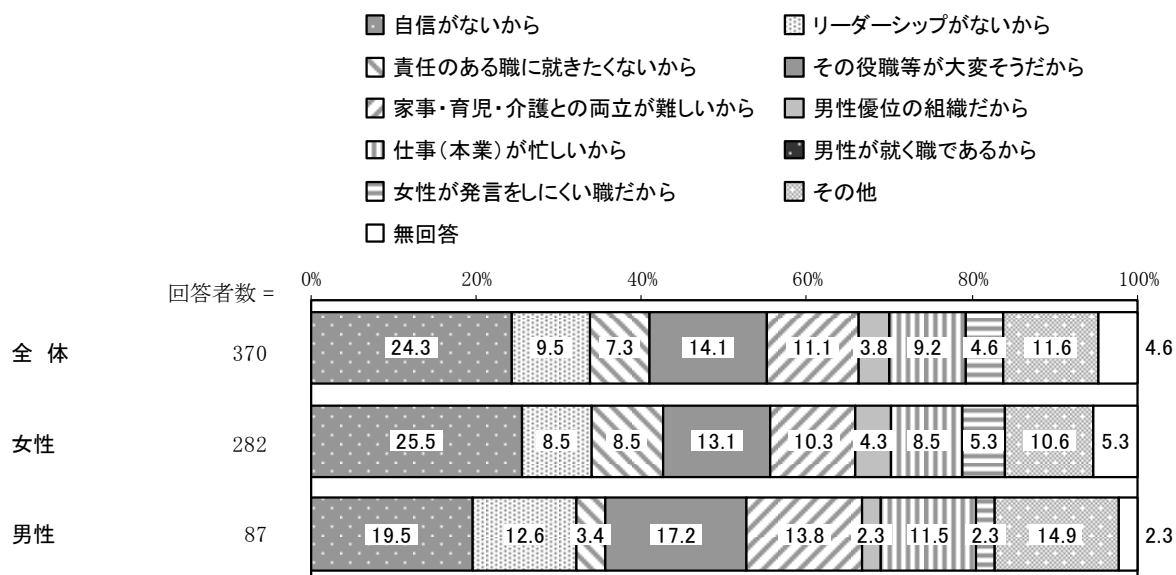
◎「自信がないから」が2割半ばとなっています。

◎男女とも「自信がないから」の割合が最も高くなっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも「自信がないから」の割合が最も高くなっており、女性自身の問題が原因となっています。

図表 問5-2 承諾・賛成しない理由 市の審議会等の委員 性別



5. 市議会議員

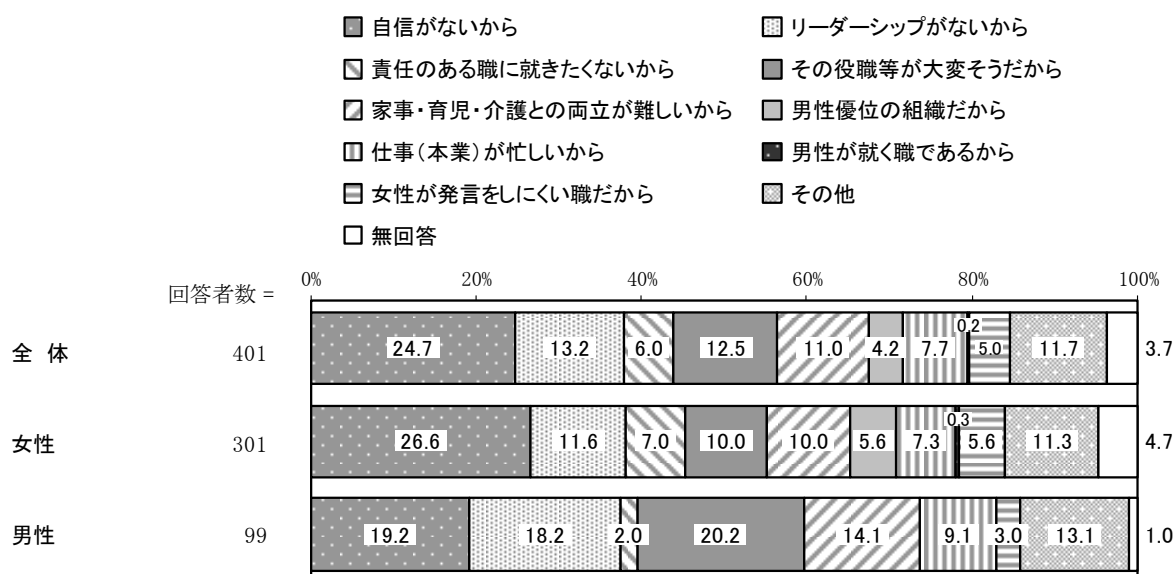
◎「自信がないから」が2割半ばとなっています。

◎女性では「自信がないから」が、男性では「その役職等が大変そうだから」が多くなっています。

<性別>

性別でみると、最も割合が高いものは、女性では「自信がないから」、男性では「その役職等が大変そうだから」となっており、女性では自身の問題が、男性では役職の負担が原因となっています。

図表 問5-2 承諾・賛成しない理由 市議会議員 性別



4 家庭生活について

問6 【※配偶者と同居されている方に伺います】
次にあげる家庭の役割はどなたが担っていますか。「現実」と「理想」のともにあてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに○)

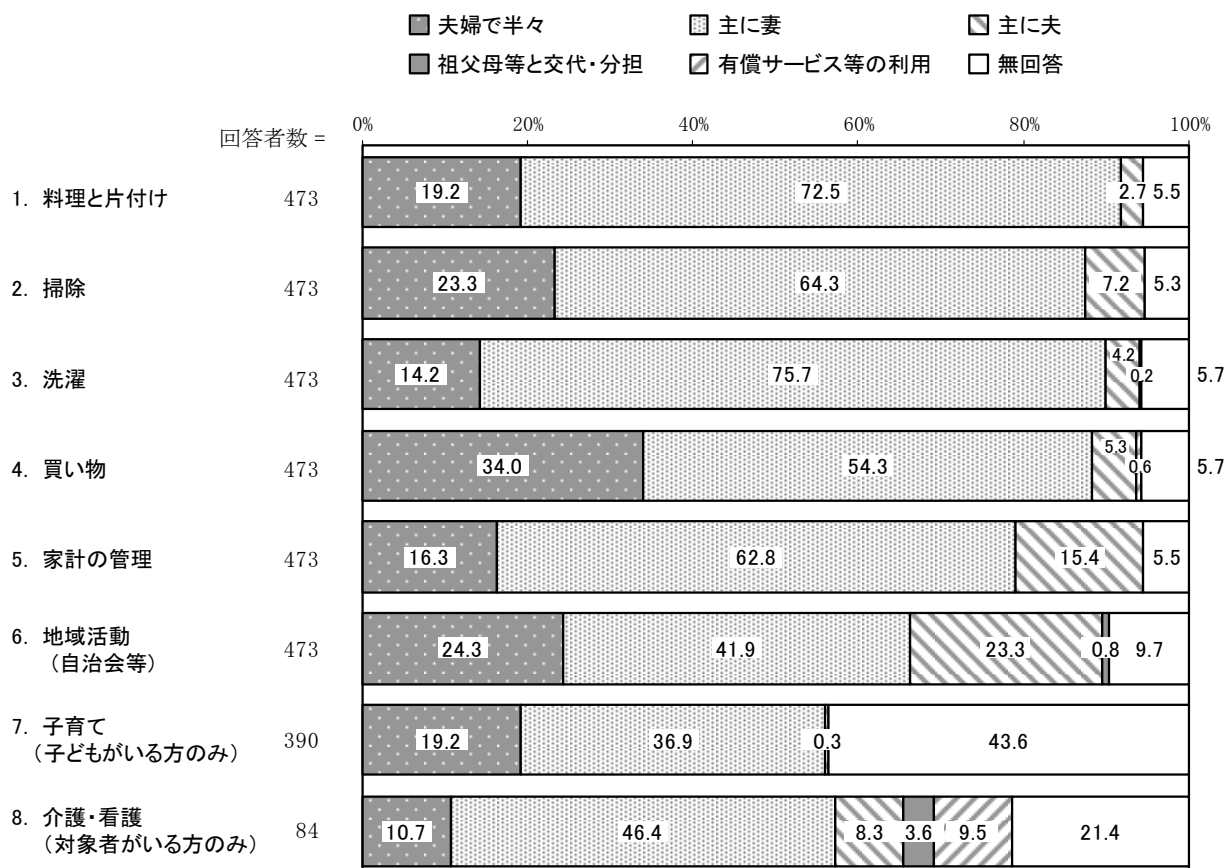
①現実

- ◎すべての項目で「主に妻」の割合が最も高くなっています。
- ◎特に、“料理と片付け”“洗濯”では「主に妻」が7割を超えています。
- ◎“地域活動”では「主に夫」が他の項目より高くなっています。

すべての項目で「主に妻」の割合が最も高くなっており、特に『料理と片付け』『洗濯』では7割を超えており、家事の大半を妻が担っていることが伺われます。

また、P58の②理想と比較すると、「主に妻」の割合は、すべての項目で②理想より①現実で高く、特に『料理と片付け』『掃除』では45ポイント以上の差があり、理想と現実が大きく乖離していることがわかります。

図表 問6 ①現実 全体



1. 料理と片付け

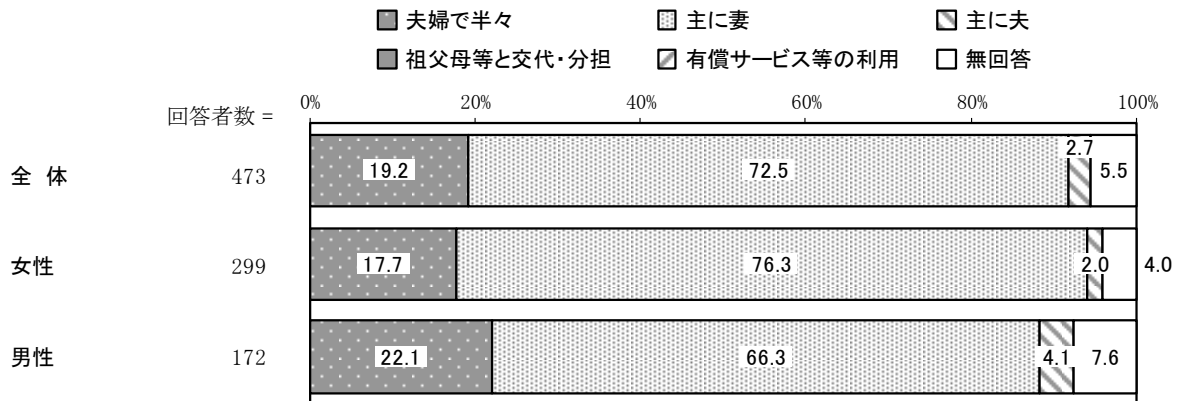
◎「主に妻」が約7割、「夫婦で半々」が約2割となっています。

◎女性で「主に妻」が7割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では7割半ばと男性より10.0ポイント高くなっています。「夫婦で半々」の割合は、男女とも約2割にとどまっています。

図表 問6 ①現実 料理と片付け 性別



2. 掃除

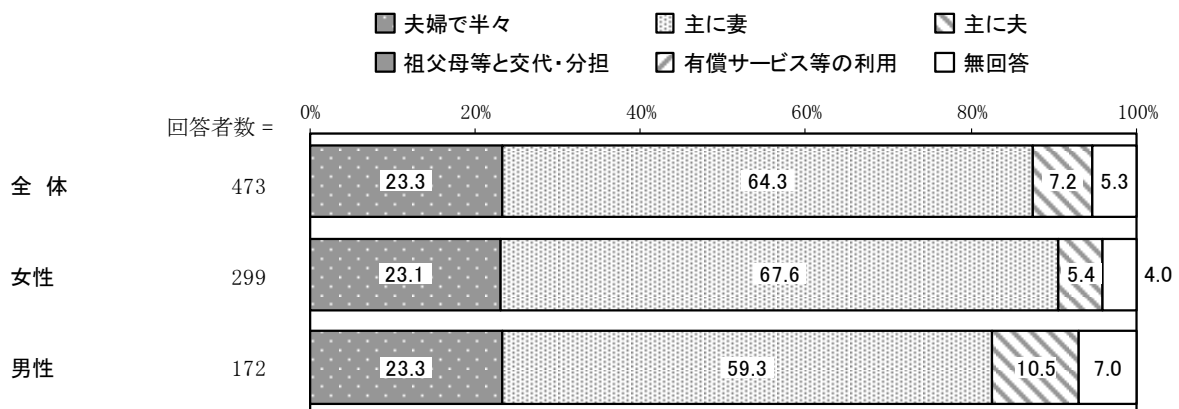
◎「主に妻」が6割半ば、「夫婦で半々」が約2割となっています。

◎女性で「主に妻」が約7割となっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では約7割と男性より8.3ポイント高くなっています。「夫婦で半々」は、男女とも約2割となっています。

図表 問6 ①現実 掃除 性別



3. 洗濯

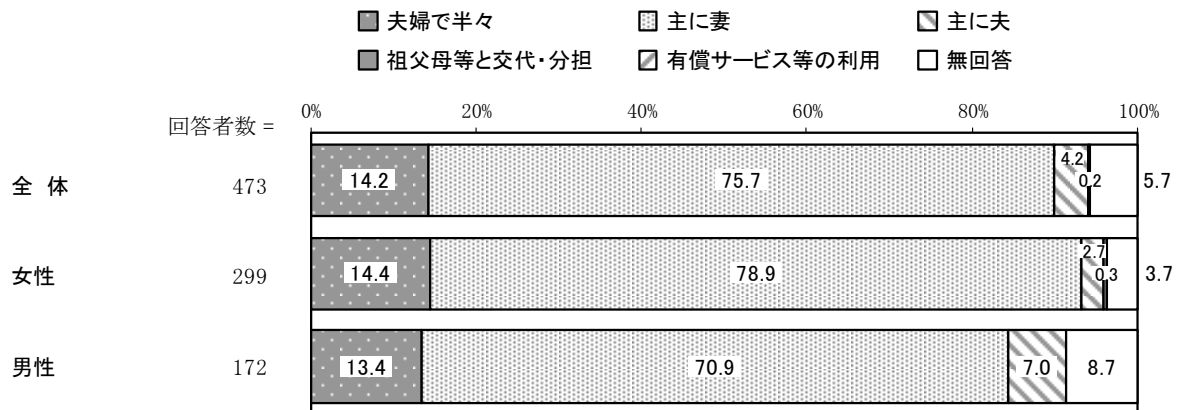
◎「主に妻」が7割半ば、「夫婦で半々」が約1割となっています。

◎女性で「主に妻」が約8割となっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では約8割と男性より8.0ポイント高くなっています。「夫婦で半々」の割合は、男女とも1割台となっています。

図表 問6 ①現実 洗濯 性別



4. 買い物

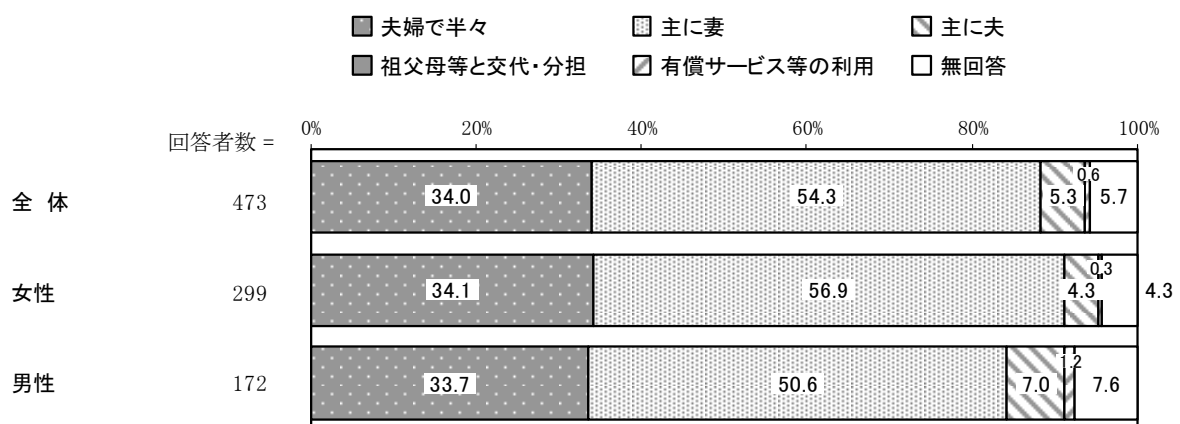
◎「主に妻」が5割半ば、「夫婦で半々」が3割半ばとなっています。

◎女性で「主に妻」が高くなっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では5割半ばと男性より6.3ポイント高くなっています。また、「夫婦で半々」は男女とも3割半ばと大きな差異はみられません。

図表 問6 ①現実 買い物 性別



5. 家計の管理

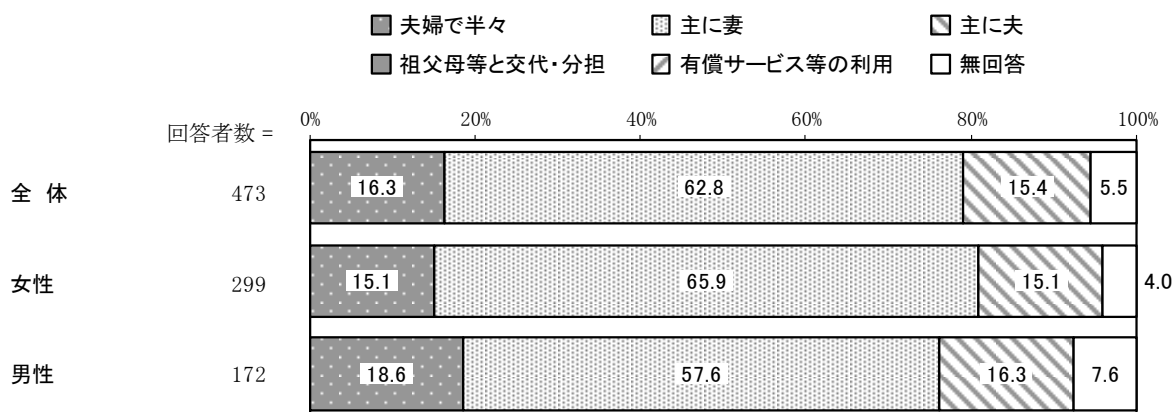
◎「主に妻」が約6割、「夫婦で半々」「主に夫」が1割半ばとなっています。

◎女性で「主に妻」が6割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では6割半ばと男性より8.3ポイント高くなっています。「夫婦で半々」「主に夫」は男女ともに1割台と低くなっています。

図表 問6 ①現実 家計の管理 性別



6. 地域活動(自治会等)

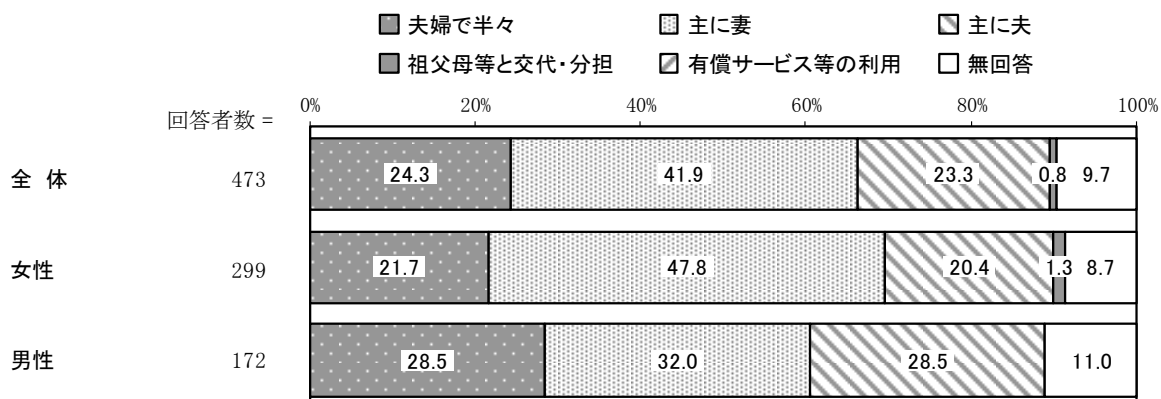
◎「主に妻」が約4割、「夫婦で半々」「主に夫」が2割台となっています。

◎女性で「主に妻」が約5割となっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では約5割と男性より15.8ポイント高くなっています。また、男性では「夫婦で半々」「主に夫」の割合が高くなっています。

図表 問6 ①現実 地域活動(自治会等) 性別



7. 子育て（子どもがいる方のみ）

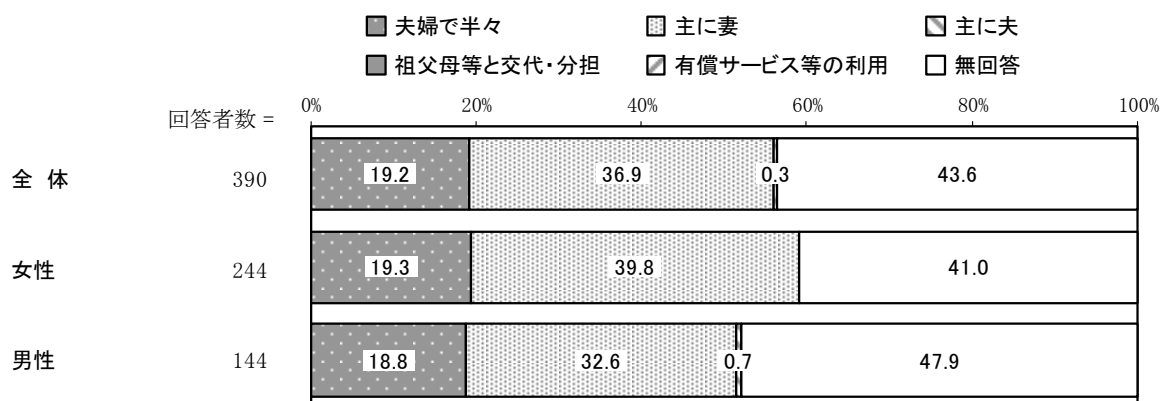
◎「主に妻」が3割半ば、「夫婦で半々」が約2割となっています。

◎女性で「主に妻」が約4割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では約4割と、男性より7.2ポイント高くなっています。「夫婦で半々」は男女とも約2割にとどまっています。

図表 問6 ①現実 子育て 性別



8. 介護・看護（対象者がいる方のみ）

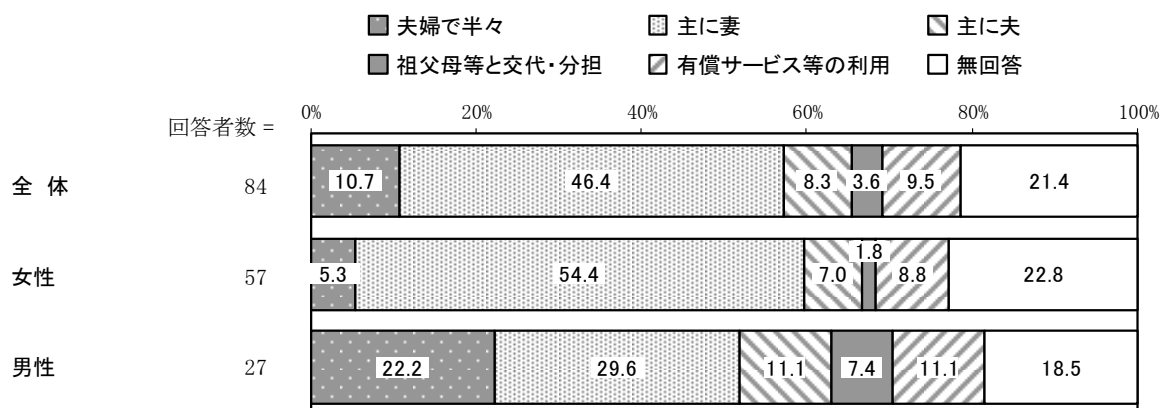
◎「主に妻」が4割半ば、「夫婦で半々」が約1割となっています。

◎女性で「主に妻」が5割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女ともに「主に妻」の割合が最も高いものの、女性では5割半ばとなっており、男性より24.8ポイント高く、性別で大きな差がみられます。また、「夫婦で半々」は男性で約2割と女性よりも16.9ポイント高くなっています。

図表 問6 ①現実 介護・看護 性別



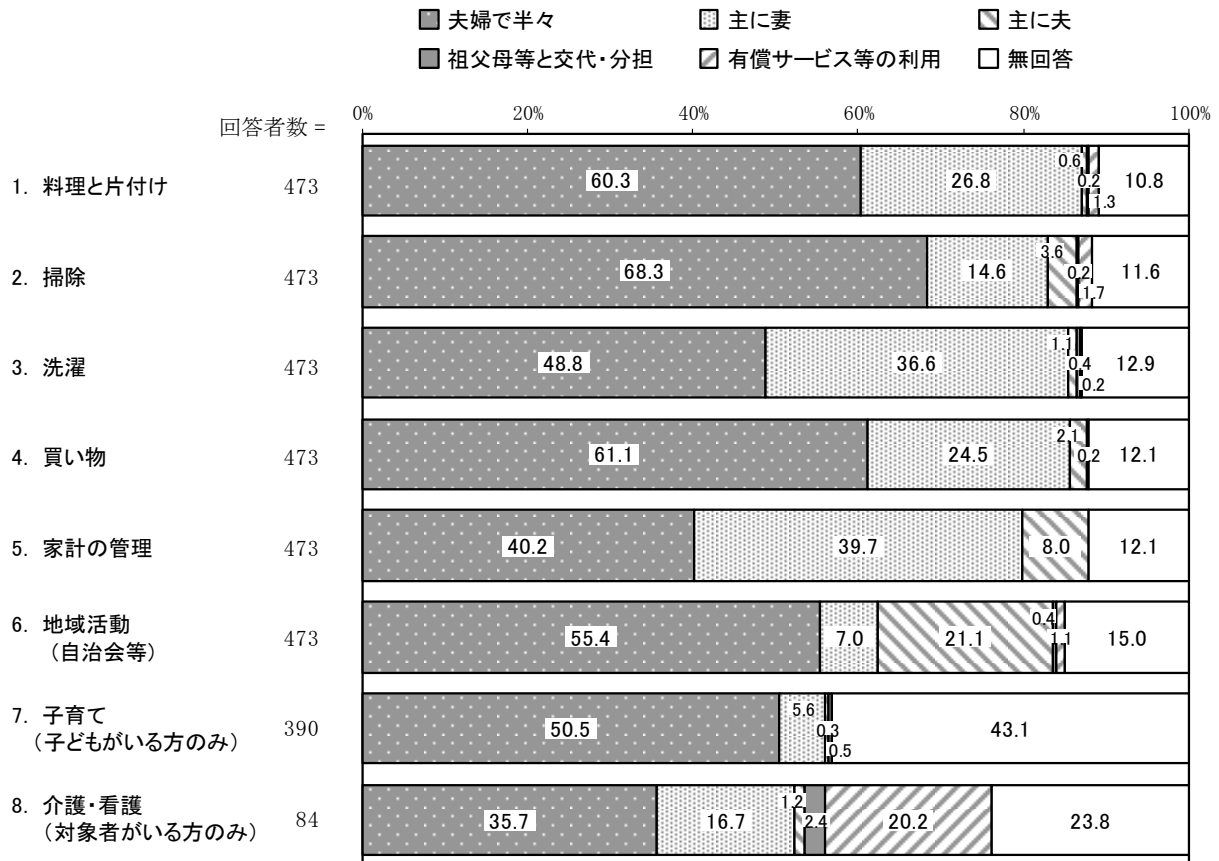
②理想

◎すべての項目で「夫婦で半々」が最も高くなっています。特に『掃除』では「夫婦で半々」が約7割と高くなっています。

◎『洗濯』『家計の管理』では「主に妻」の割合が他の項目より高くなっています。

すべての項目で『夫婦で半々』の割合が最も高くなっており、特に「掃除」で約7割を占めています。一方、『洗濯』『家計の管理』では「主に妻」が他の項目より高く、3割を超えています。

図表 問6 ②理想 全体



1. 料理と片付け

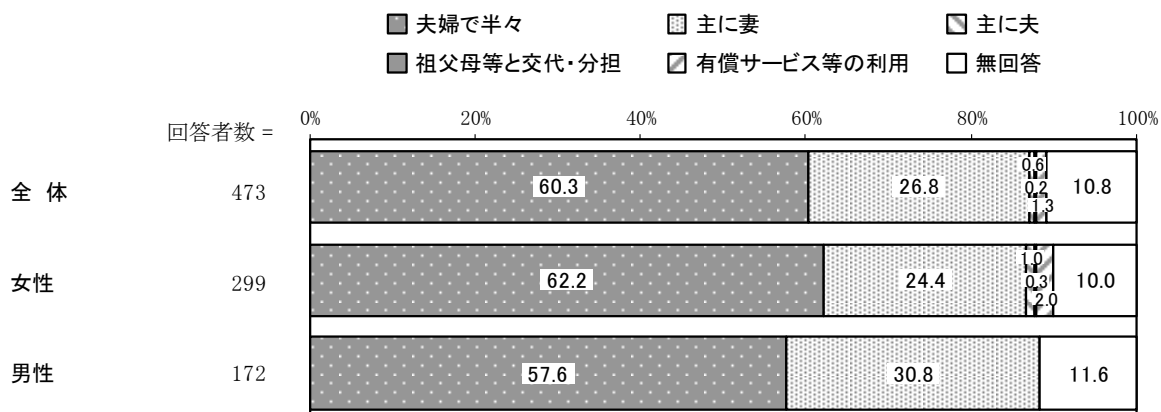
◎「夫婦で半々」が約6割、「主に妻」が2割半ばとなっています。

◎男性で「主に妻」が約3割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、それぞれ約6割となっています。また、「主に妻」の割合は、男性で高く、女性よりも6.4ポイント高くなっています。

図表 問6 ②理想 料理と片付け 性別



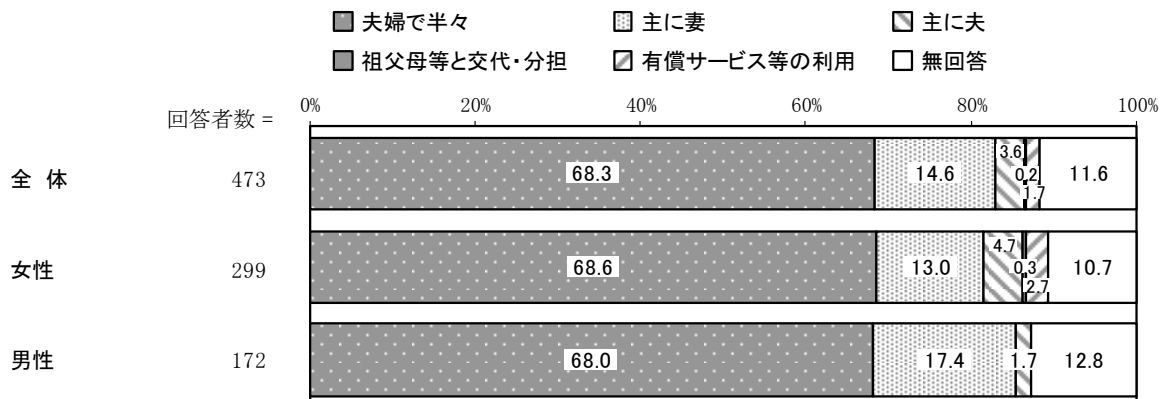
2. 掃除

◎男女とも「夫婦で半々」が約7割となっています。

<性別>

性別でみると、「夫婦で半々」の割合が男女とも約7割と最も高く、性別による大きな差異はみられません。

図表 問6 ②理想 掃除 性別



3. 洗濯

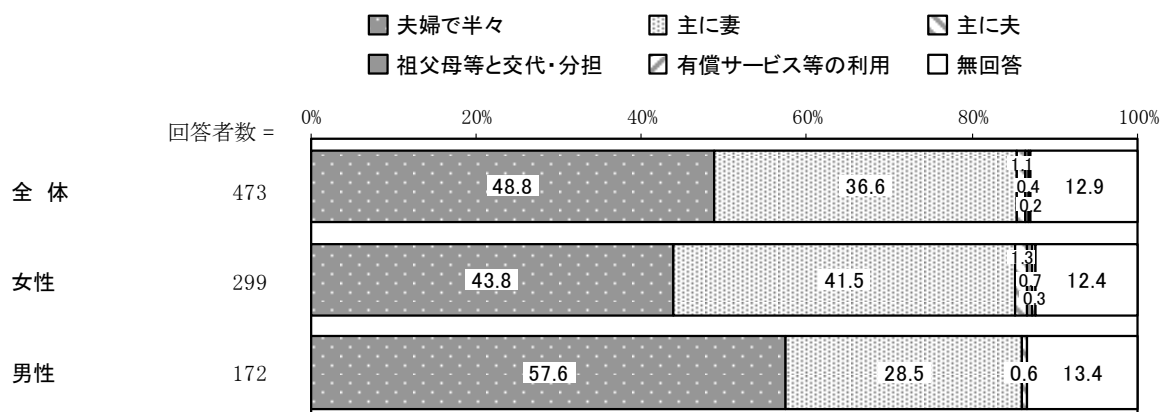
◎男女とも「夫婦半々」が最も多いものの、割合には男女差がみられます。

◎女性で「主に妻」の割合が約4割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」が最も高くなっており、特に男性では約6割と女性より13.8ポイント高くなっています。また、女性では「主に妻」が約4割と、「夫婦で半々」と同程度となっています。

図表 問6 ②理想 洗濯 性別



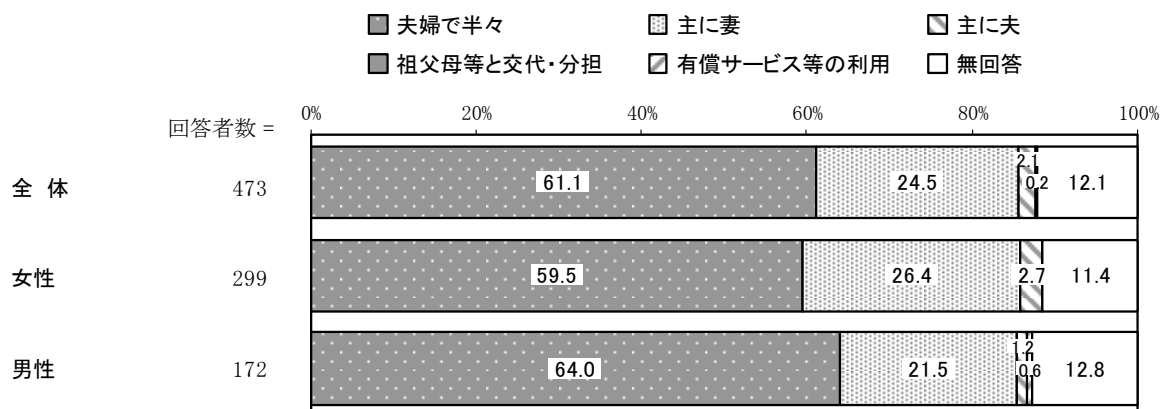
4. 買い物

◎男性で「夫婦で半々」が6割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に男性で6割半ばとなっています。

図表 問6 ②理想 買い物 性別



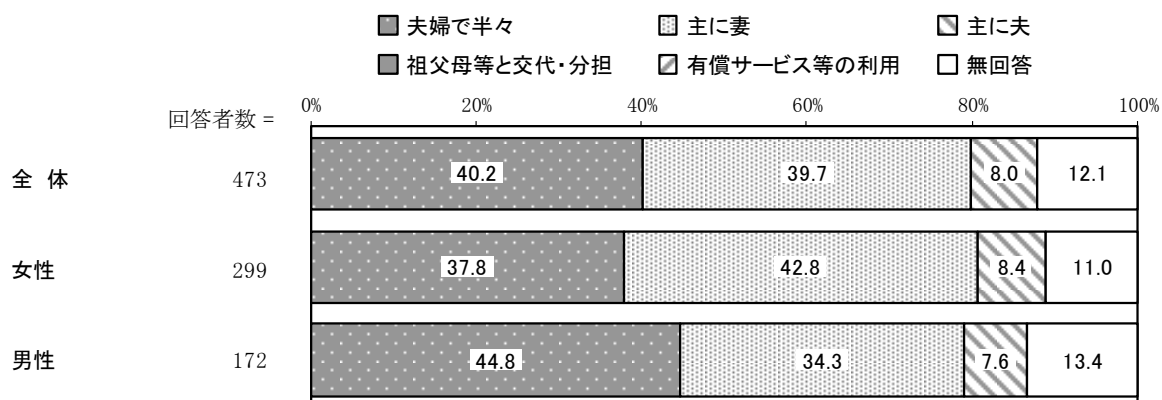
5. 家計の管理

◎女性で「主に妻」、男性で「夫婦で半々」が多くなっています。

<性別>

性別でみると、女性では「主に妻」の割合が最も高いのに対し、男性では「夫婦で半々」が最も高く、それぞれ4割を超えています。

図表 問6 ②理想 家計の管理 性別



6. 地域活動(自治会等)

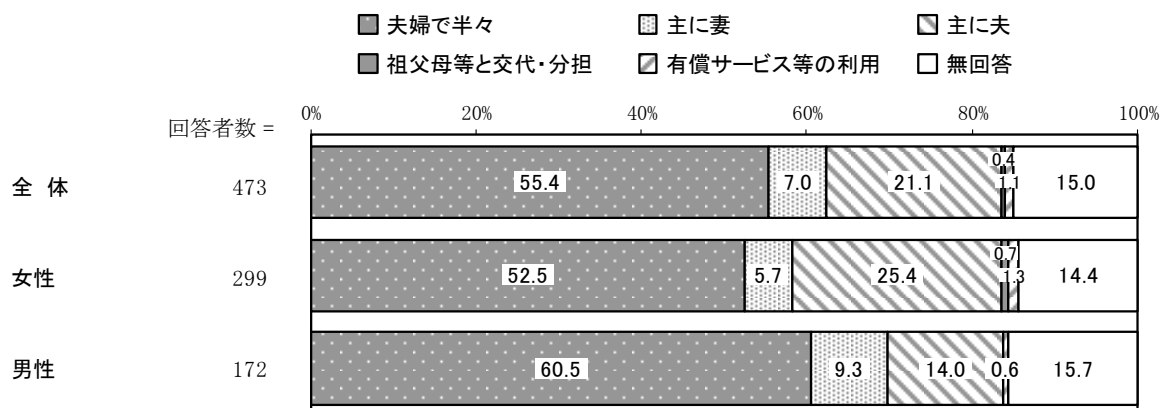
◎男女とも「夫婦で半々」が最も多くなっています。

◎女性で「主に夫」が2割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に男性では約6割と女性に比べ8.0ポイント高くなっています。また、女性では「主に夫」が2割半ばと、男性より11.4ポイント高くなっています。

図表 問6 ②理想 地域活動(自治会等) 性別



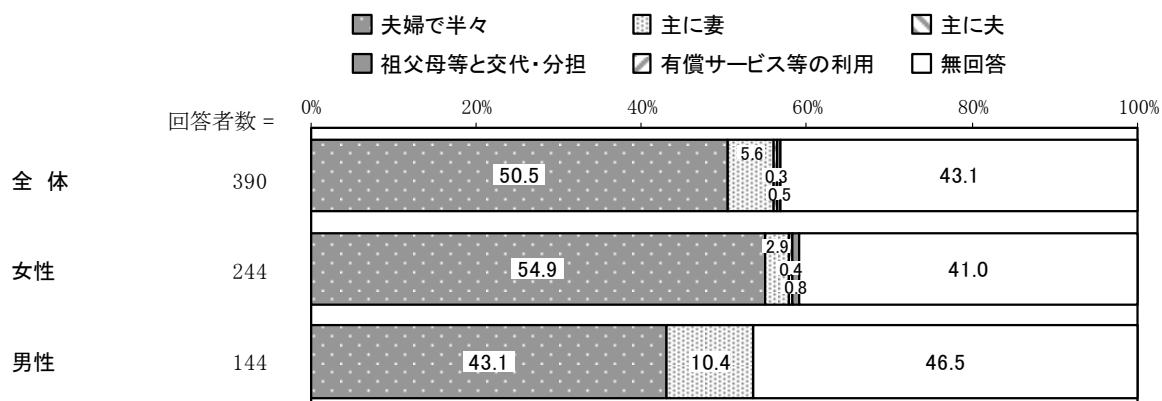
7. 子育て（子どもがいる方のみ）

◎女性で「夫婦で半々」が5割半ばとなっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に女性で5割半ばと、男性に比べ11.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高くなっています。

図表 問6 ②理想 子育て 性別



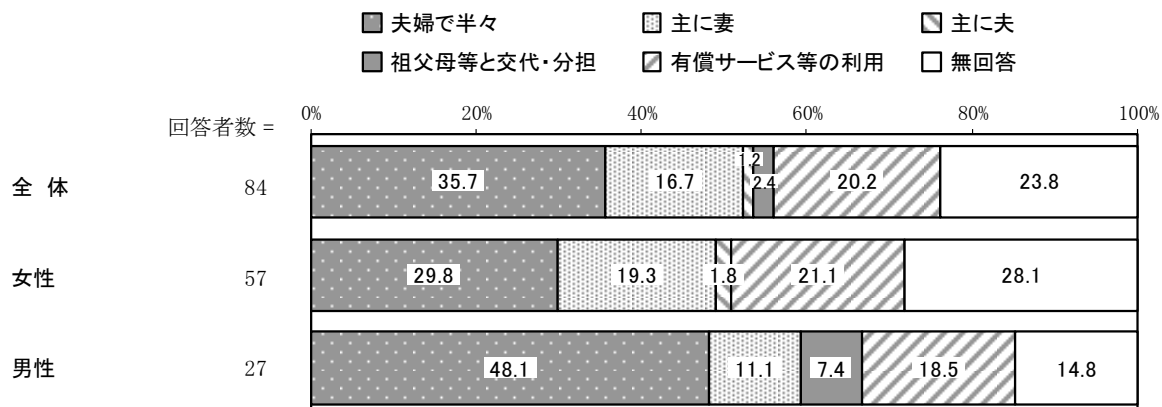
8. 介護・看護（対象者がいる方のみ）

◎男性で「夫婦で半々」が約5割と、女性と大きな差がみられます。

<性別>

性別で見ると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高いものの、男性では約5割と、女性より18.3ポイント高くなっており、性別での大きな差がみられます。また、男女とも「有償サービス等の利用」が約2割となっています。

図表 問6 ②理想 介護・看護 性別



問7 【※配偶者と同居されている方で、小学生以下のお子さんのいる方に伺います】
次にあげる子育てはどなたが担っていますか。「現実」と「理想」のともにあてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに〇)

①現実

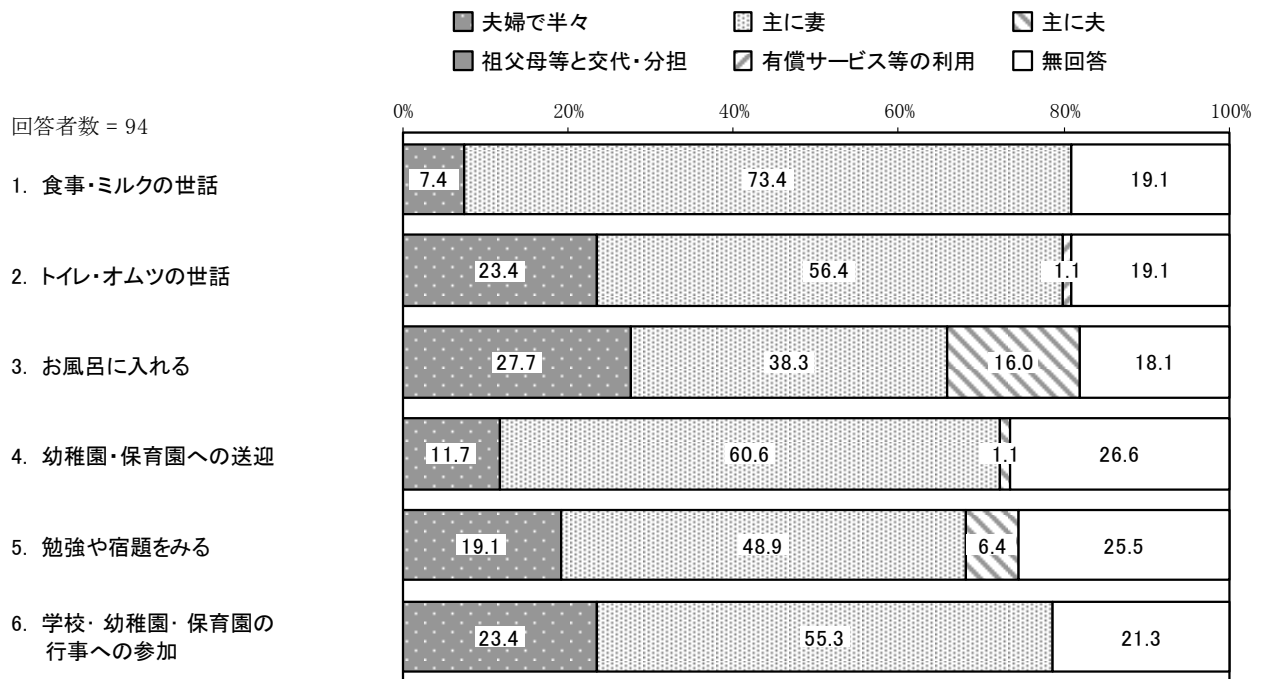
◎すべての項目で「主に妻」が最も多く、特に『食事・ミルクの世話』では約7割となっています。

◎すべての項目で理想と現実の乖離が大きくなっています。

すべての項目で「主に妻」の割合が最も高くなっており、育児の大半を妻が担っていることが伺えます。特に『幼稚園・保育園への送迎』では「主に妻」が約6割を占めています。

P67の②理想と比較すると、①現実では「夫婦で半々」の割合が、すべての項目で約40ポイント低くなっており、理想と現実の乖離が大きくなっています。

図表 問7 ①現実 全体



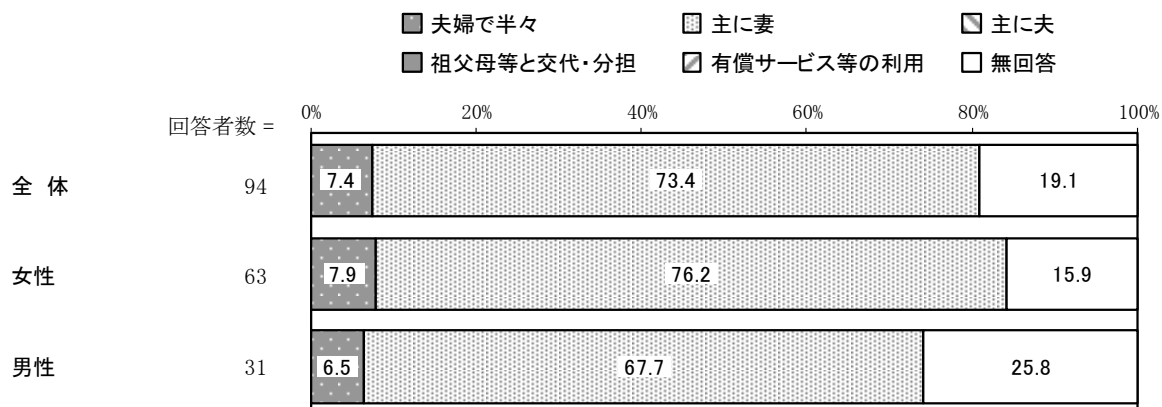
1. 食事・ミルクの世話

◎男女とも「主に妻」が多く、女性では7割半ばとなっています。

<性別>

性別で見ると、「主に妻」の割合が男女とも最も高く、女性では7割半ばと、男性より8.5ポイント高くなっています。一方、「夫婦で半々」は1割未満となっています。

図表 問7 ①現実 食事・ミルクの世話 性別



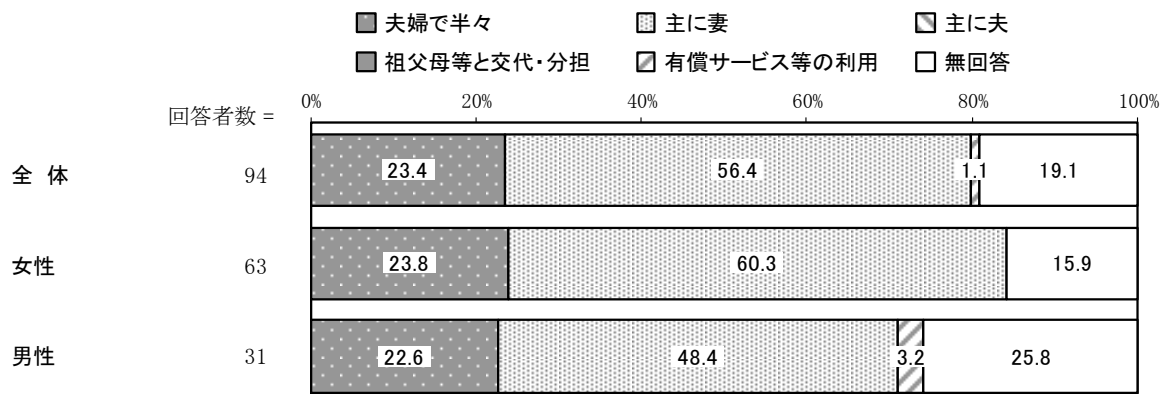
2. トイレ・オムツの世話

◎男女とも「主に妻」が多く、女性では約6割となっています。

<性別>

性別で見ると、「主に妻」が男女とも最も高く、特に女性では約6割と、男性より11.9ポイント高くなっています。

図表 問7 ①現実 トイレ・オムツの世話 性別



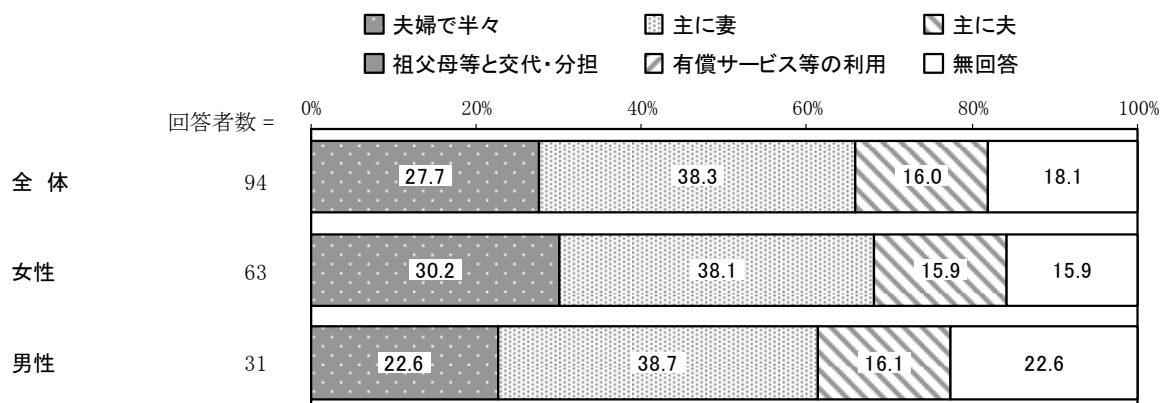
3. お風呂に入れる

◎女性で「夫婦で半々」が約3割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「主に妻」の割合が最も高くなっているものの、「夫婦で半々」「主に夫」の割合が他の育児よりも高く、特に女性では「夫婦で半々」の割合が約3割となっています。

図表 問7 ①現実 お風呂に入れる 性別



4. 幼稚園・保育園への送迎

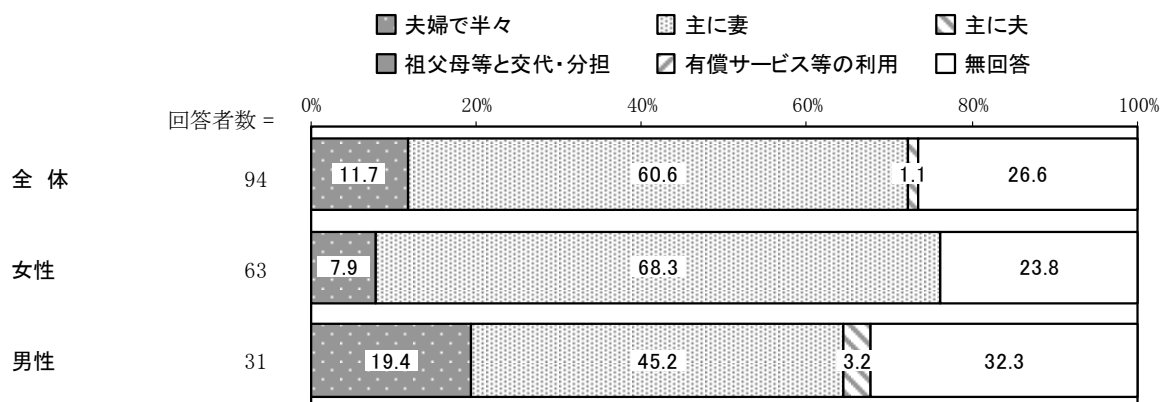
◎「主に妻」が女性約7割となっています。

◎男性で「夫婦で半々」が約2割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では約7割と、男性よりも23.1ポイント高くなっています。また、男性では「夫婦で半々」の割合が約2割と、女性より11.5ポイント高く、男女での認識に違いが伺われます。

図表 問7 ①現実 幼稚園・保育園への送迎 性別



5. 勉強や宿題をみる

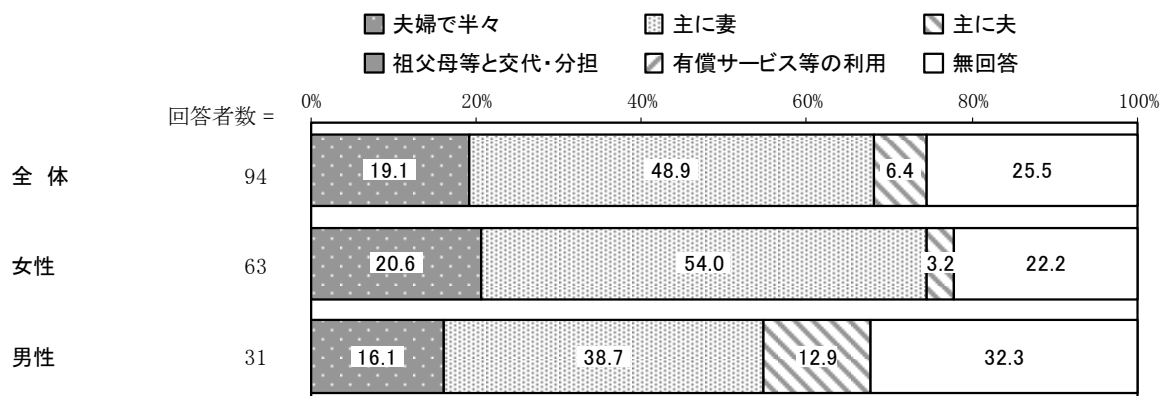
◎「主に妻」が約5割、「夫婦で半々」が約2割となっています。

◎男性で「主に夫」が約1割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「主に妻」の割合が最も高く、特に女性で5割半ばと、男性より15.3ポイント高く、男女での差が大きくなっています。また、男性では「主に夫」が約1割と、女性よりも高くなっています。

図表 問7 ①現実 勉強や宿題をみる 性別



6. 学校・幼稚園・保育園の行事への参加

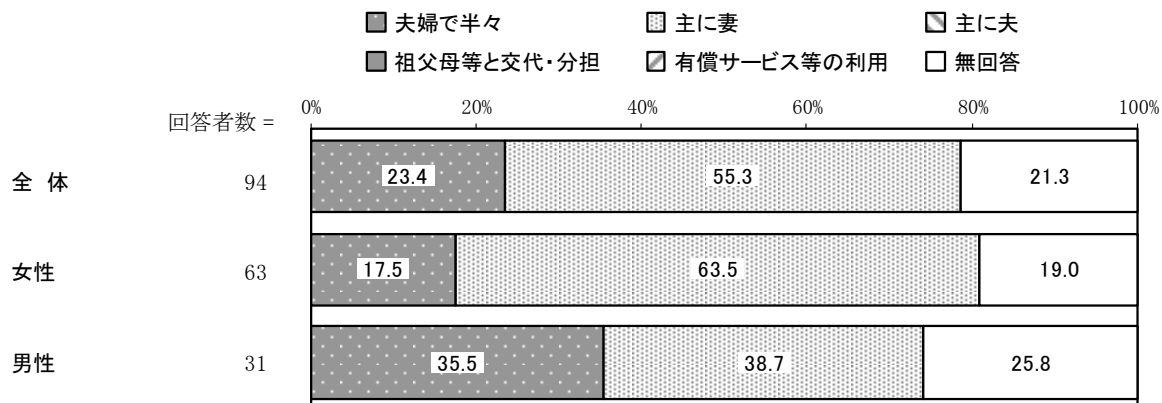
◎「主に妻」が5割半ば、「夫婦で半々」が約2割となっています。

◎男性で「夫婦で半々」「主に妻」が同程度となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「主に妻」の割合が最も高く、特に女性では約6割と、男性より24.8ポイント高く、男女で大きな差がみられます。また、男性では「夫婦で半々」が3割半ばと、「主に妻」と同程度となっています。

図表 問7 ①現実 学校・幼稚園・保育園の行事への参加 性別



②理想

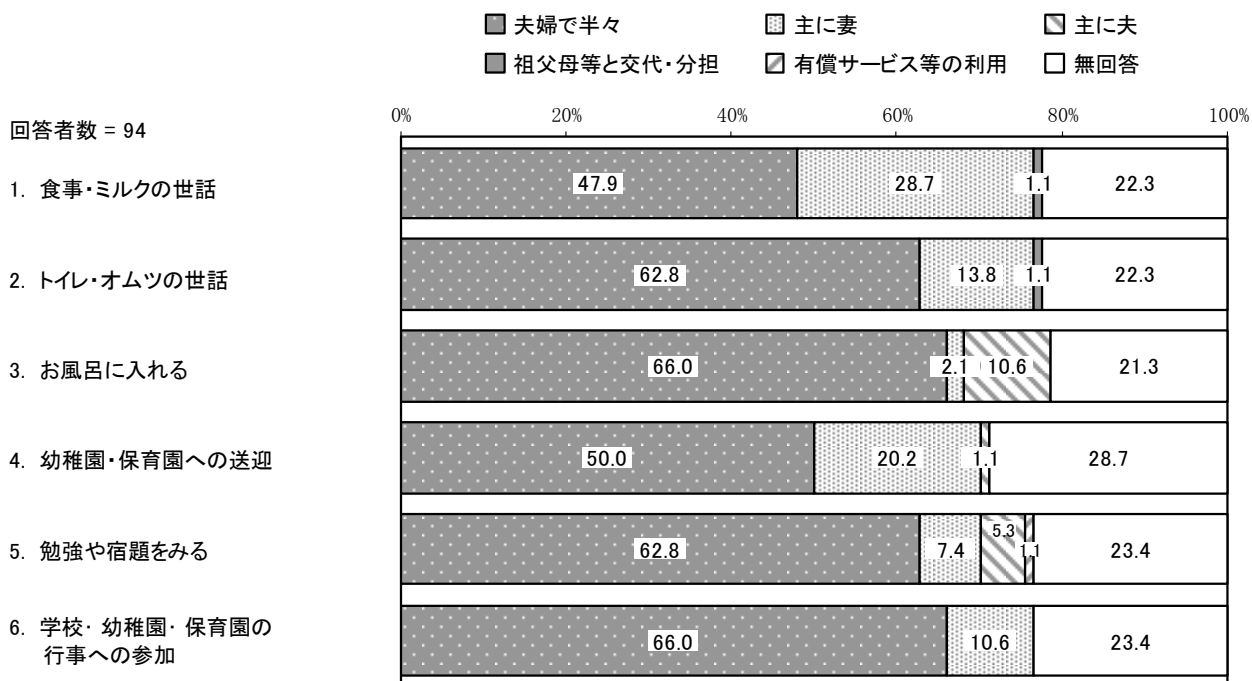
◎すべての項目で「夫婦で半々」が最も高くなっています。

◎「主に夫」は『お風呂に入れる』では、約1割となっています。

すべての項目で「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に『お風呂に入れる』『学校・幼稚園・保育園の行事への参加』では6割半ばとなっています。

また、『食事・ミルクの世話』で「主に妻」の割合が高く、約3割となっているほか、『お風呂に入れる』で「主に夫」の割合が高く、約1割となっています。

図表 問7 ②理想 全体



1. 食事・ミルクの世話

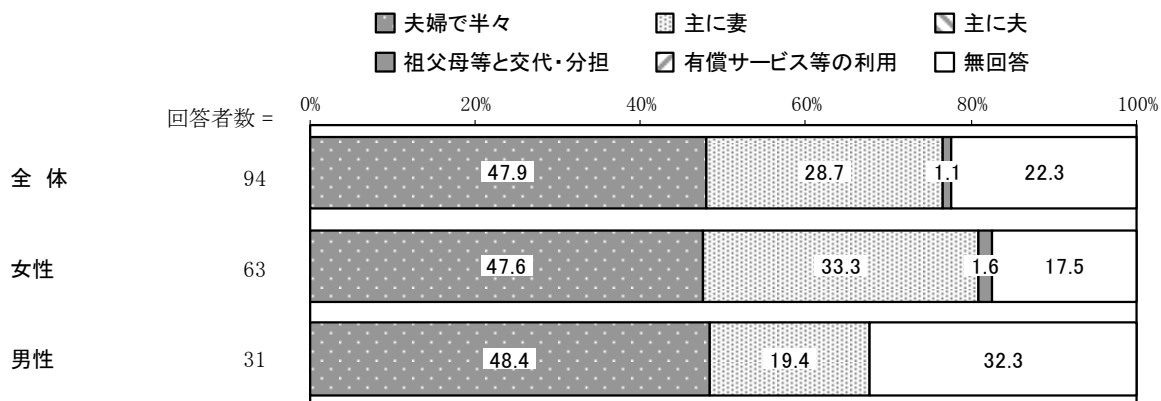
◎「夫婦で半々」が約5割、「主に妻」が約3割となっています。

◎女性で「主に妻」が約3割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、それぞれ約5割となっています。また、女性で「主に妻」の割合が約3割と、男性より13.9ポイント高くなっています。

図表 問7 ②理想 食事・ミルクの世話 性別



2. トイレ・オムツの世話

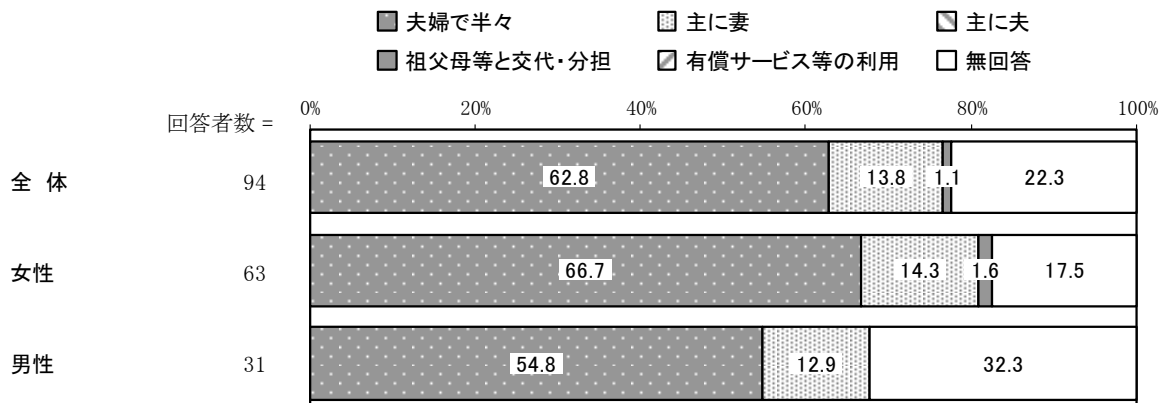
◎「夫婦で半々」が約6割、「主に妻」が約1割となっています。

◎女性で「夫婦で半々」が6割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に女性で6割半ばと、男性より11.9ポイント高くなっています。

図表 問7 ②理想 トイレ・オムツの世話 性別



3. お風呂に入れる

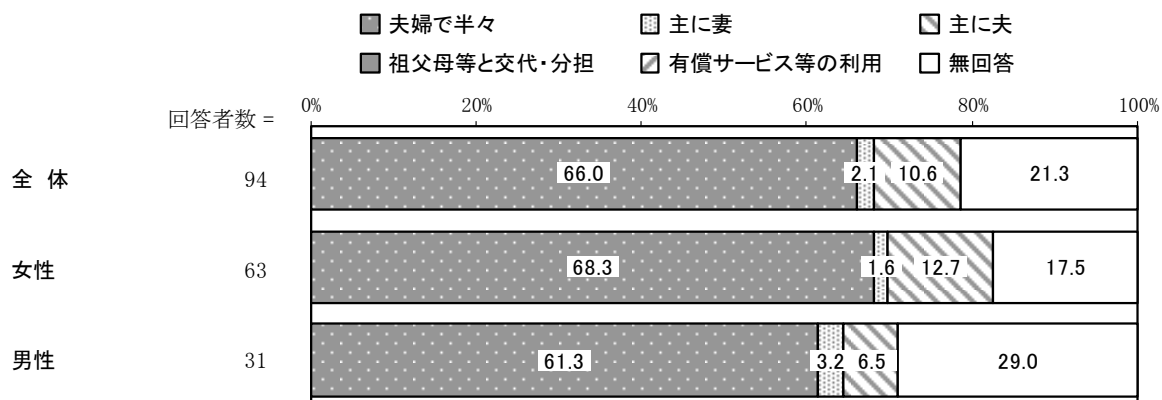
◎「夫婦で半々」が6割半ば、「主に夫」が約1割となっています。

◎女性で「夫婦で半々」が約7割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に女性では約7割と、男性より7.0ポイント高くなっています。また、女性では「主に夫」の割合が男性より高くなっています。

図表 問7 ②理想 お風呂に入れる 性別



4. 幼稚園・保育園への送迎

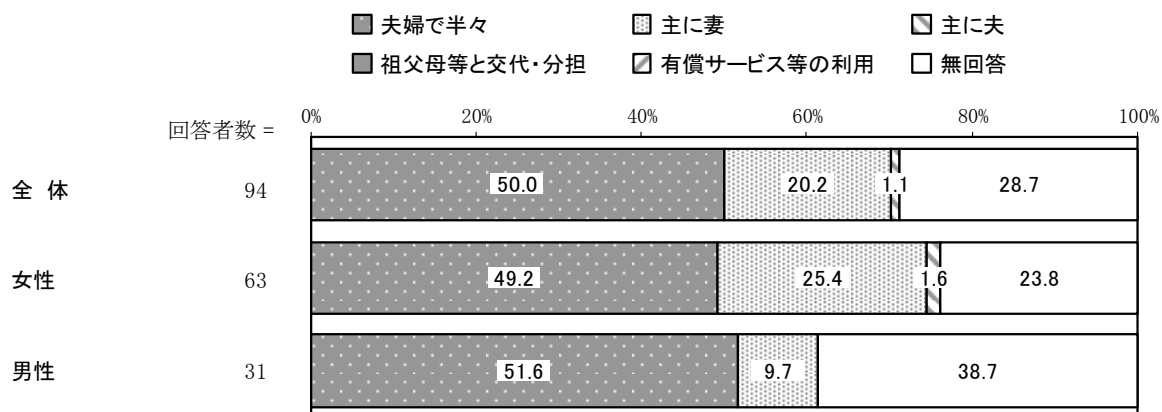
◎男女とも「夫婦で半々」が約5割となっています。

◎女性で「主に妻」が2割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、それぞれ約5割となっています。また、女性では「主に妻」が2割半ばと、男性より15.7ポイント高くなっています。

図表 問7 ②理想 幼稚園・保育園への送迎 性別



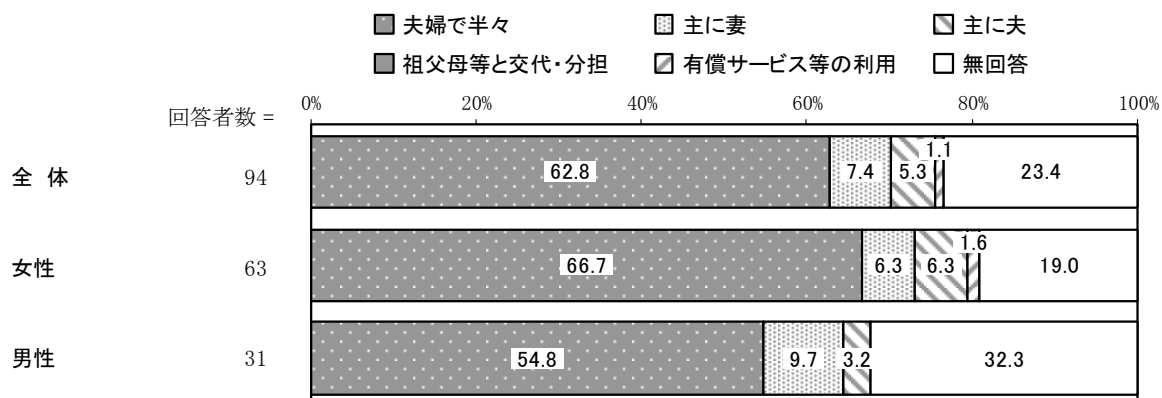
5. 勉強や宿題をみる

◎男女とも「夫婦で半々」が最も高くなっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に女性で6割半ばと、男性より11.9ポイント高くなっています。

図表 問7 ②理想 勉強や宿題をみる 性別



6. 学校・幼稚園・保育園の行事への参加

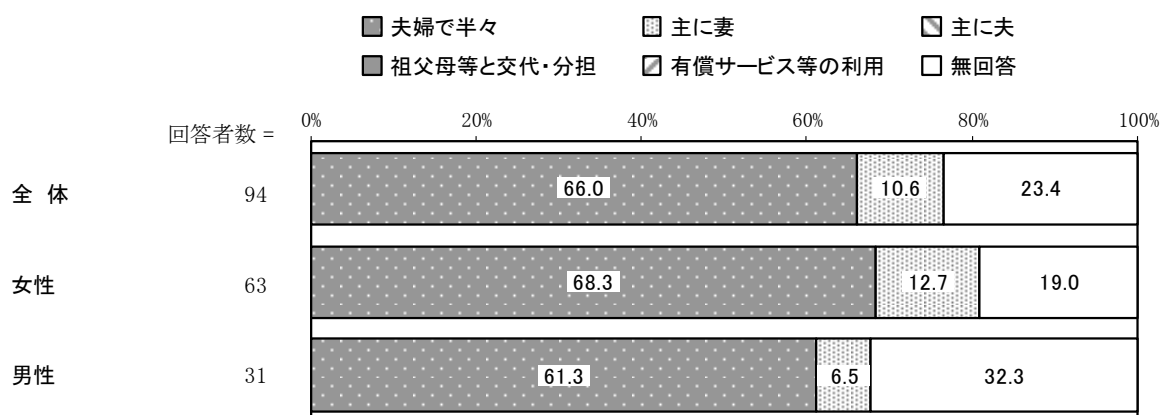
◎「夫婦で半々」が6割半ば、「主に妻」が約1割となっています。

◎女性で「夫婦で半々」が約7割となっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも「夫婦で半々」の割合が最も高く、特に女性で約7割と、男性より7.0ポイント高くなっています。また、女性で「主に妻」の割合が、男性より6.2ポイント高くなっています。

図表 問7 ②理想 学校・幼稚園・保育園の行事への参加 性別



問8 男性が家事、育児、介護や地域活動に積極的に関わるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

- ◎「上司や同僚の理解があること」が5割半ば、「休暇が取りやすくなること」が約5割となっています。
- ◎「家事等は女性が行うべきという意識が変わること」で男女差が大きくなっています。
- ◎男性50歳代で「休暇が取りやすくなること」が約7割となっています。
- ◎離婚した人で「昇進・昇給への悪影響がないこと」が約4割となっています。
- ◎子どもがいる人で「配偶者とのコミュニケーションを向上すること」が約3割となっています。
- ◎介護・介助が必要な人と同居している人で「職場の人員配置に余裕ができること」が3割半ばとなっています。
- ◎県調査より「昇進・昇給への悪影響がないこと」が多くなっています。

<性別>

性別で見ると、男女とも「上司や同僚の理解があること」の割合が最も高くなっています。

「家事等は女性が行うべきという意識が変わること」は、女性で約4割、男性で約2割と、20.2ポイントの差がみられ、家事分担についての男女での差がみられます。

<性・年齢別>

性・年齢別で見ると、女性では年代を問わず「上司や同僚の理解があること」の割合が最も高くなっています。また、60歳代、70歳以上で「家事等は女性が行うべきという意識が変わること」の割合が高く、女性の高齢者から意識変革が求められています。

男性では、29歳以下、40歳代、60歳代では「上司や同僚の理解があること」の割合が、30歳代、50歳代、70歳以上で「休暇が取りやすくなること」の割合が高く、職場の環境に関する項目が高くなっています。

また、男女とも、年齢が上がるにつれ「配偶者とのコミュニケーションを向上すること」の割合が高くなっています。

<婚姻状況別>

婚姻状況別で見ると、婚姻状況にかかわらず「上司や同僚の理解があること」の割合が最も高くなっており、大きな差異はみられません。

<子どもの有無別>

子どもの有無別で見ると、子どもがいる人で「配偶者とのコミュニケーションを向上すること」の割合が高くなっているのに対し、子どもがいない人では「職場の人員配置に余裕ができること」「昇進・昇給への悪影響がないこと」といった職場環境に関する項目の割合が高くなっています。

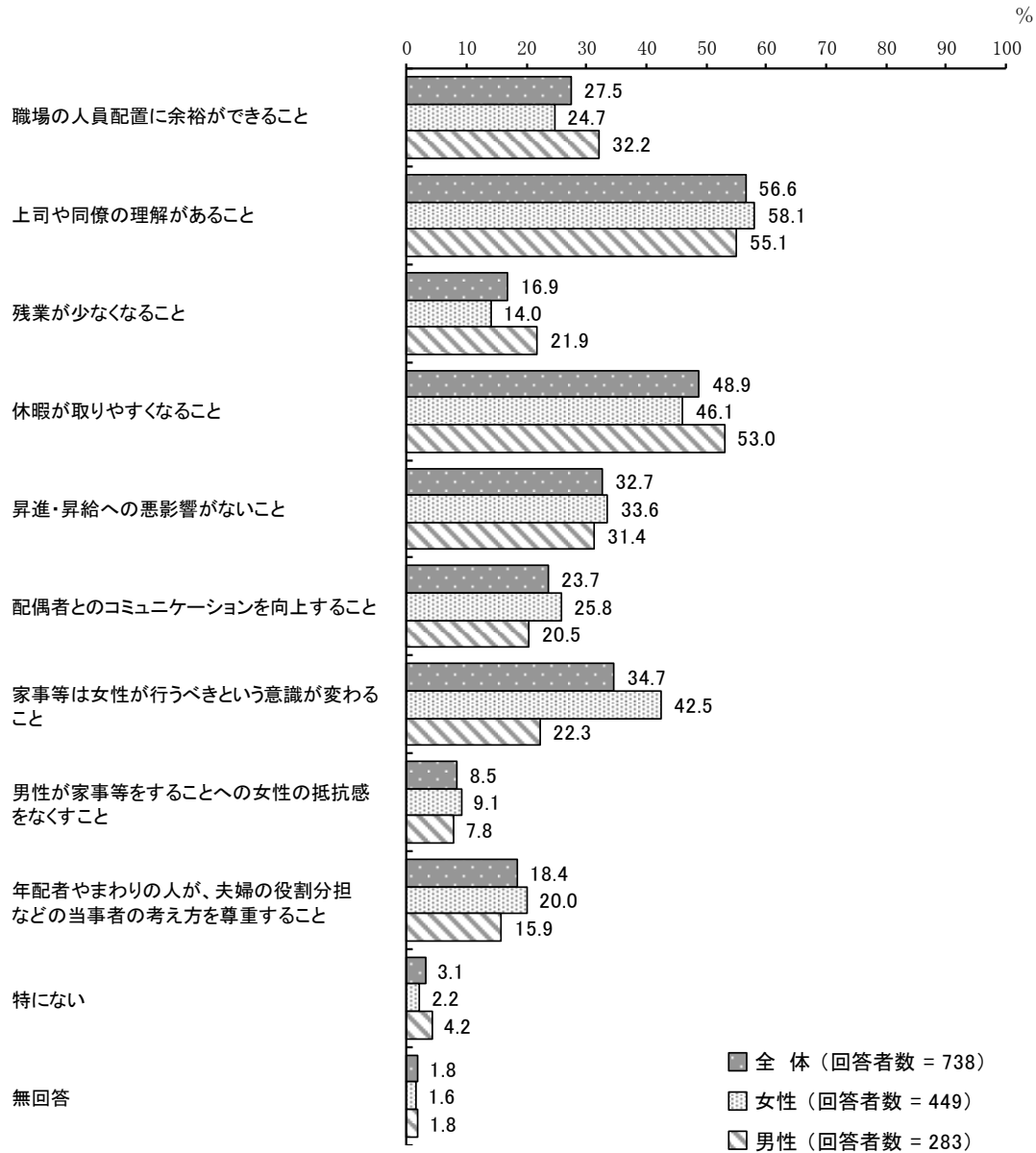
<介護・介助が必要な人の有無別>

介護・介助が必要な人の有無別で見ると、介護・介助が必要な人と同居している人で「職場の人員配置に余裕ができること」の割合が高く、3割半ばとなっています。また、介護・介助が必要な人と別居している人で「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などの当事者の考え方を尊重すること」の割合が高く、2割半ばとなっています。

<県調査との比較>

県調査と比較すると、「昇進・昇給への悪影響がないこと」が9.2ポイント高く、経済的な支援が重要となっています。

図表 問8 性別



図表 問8 性・年齢別

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の人員配置に余裕ができること	上司や同僚の理解があること	残業が少なくなること	休暇が取りやすくなること	昇進・昇給への悪影響がないこと	配偶者とのコミュニケーションを向上すること	家事等は女性が行うべきという意識が変わること	男性が家事等を行うことへの女性の抵抗感をなくすこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などの当事者の考え方を尊重すること	特になし	無回答
全体	738	27.5	56.6	16.9	48.9	32.7	23.7	34.7	8.5	18.4	3.1	1.8
女性 29歳以下	46	32.6	60.9	23.9	56.5	37.0	17.4	41.3	8.7	8.7	2.2	—
30歳代	55	30.9	61.8	25.5	36.4	45.5	20.0	30.9	10.9	14.5	3.6	—
40歳代	84	27.4	56.0	14.3	51.2	41.7	19.0	36.9	4.8	22.6	—	1.2
50歳代	53	30.2	64.2	13.2	43.4	37.7	24.5	28.3	5.7	20.8	5.7	1.9
60歳代	87	21.8	55.2	10.3	52.9	25.3	24.1	50.6	11.5	20.7	1.1	2.3
70歳以上	124	16.9	56.5	8.1	39.5	25.8	37.9	52.4	11.3	24.2	2.4	2.4
男性 29歳以下	24	29.2	58.3	25.0	45.8	54.2	8.3	25.0	8.3	20.8	—	—
30歳代	24	54.2	41.7	37.5	58.3	25.0	12.5	16.7	—	12.5	—	—
40歳代	56	58.9	60.7	23.2	55.4	28.6	17.9	10.7	7.1	14.3	1.8	—
50歳代	51	37.3	66.7	23.5	72.5	33.3	11.8	13.7	3.9	3.9	7.8	—
60歳代	61	16.4	59.0	8.2	41.0	34.4	31.1	24.6	9.8	23.0	3.3	4.9
70歳以上	67	13.4	41.8	25.4	47.8	23.9	26.9	37.3	11.9	19.4	7.5	3.0

図表 問8 婚姻状況別

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の人員配置に余裕ができること	上司や同僚の理解があること	残業が少なくなること	休暇が取りやすくなること	昇進・昇給への悪影響がないこと	配偶者とのコミュニケーションを向上すること	家事等は女性が行うべきという意識が変わること	男性が家事等を行うことへの女性の抵抗感をなくすこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などの当事者の考え方を尊重すること	特になし	無回答
全体	738	27.5	56.6	16.9	48.9	32.7	23.7	34.7	8.5	18.4	3.1	1.8
結婚している	473	27.7	54.3	20.1	48.4	30.7	26.4	33.2	8.2	18.0	3.0	1.3
結婚していたが離婚した	76	25.0	60.5	7.9	44.7	39.5	23.7	38.2	6.6	19.7	2.6	5.3
結婚していたが死別した	51	17.6	58.8	11.8	52.9	33.3	27.5	37.3	11.8	21.6	2.0	3.9
結婚していない	137	31.4	62.0	13.1	51.1	35.8	13.1	37.2	9.5	18.2	4.4	0.7

図表 問8 子どもの有無別

単位：％

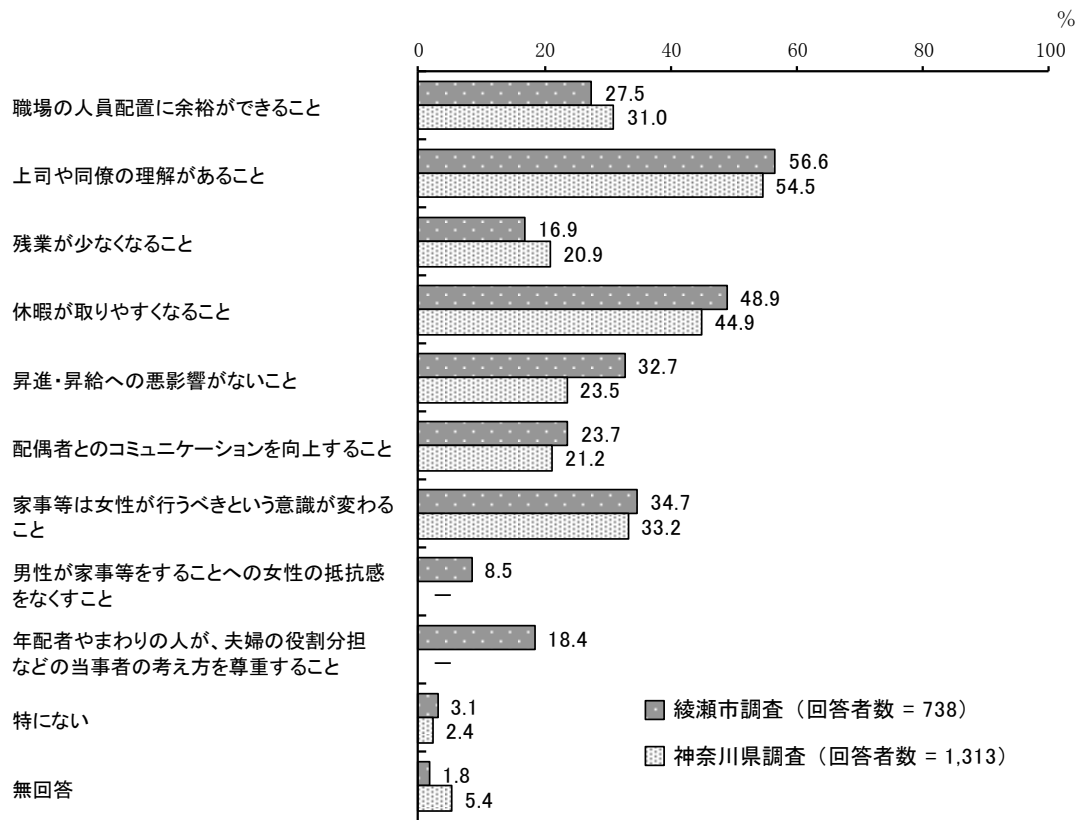
区分	有効回答数(件)	職場の人員配置に余裕ができること	上司や同僚の理解があること	残業が少なくなること	休暇が取りやすくなること	昇進・昇給への悪影響がないこと	配偶者とのコミュニケーションを向上すること	家事等は女性が行うべきという意識が変わること	男性が家事等を行うことへの女性の抵抗感をなくすこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などの当事者の考え方を尊重すること	特になし	無回答
全体	738	27.5	56.6	16.9	48.9	32.7	23.7	34.7	8.5	18.4	3.1	1.8
子どもいる	494	24.5	55.9	17.2	49.6	29.1	27.5	35.6	8.1	20.0	2.2	2.0
子どもはいない	241	33.6	58.9	16.6	47.3	39.4	15.8	32.8	9.1	15.4	5.0	1.2

図表 問8 介護・介助が必要な人の有無別

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の人員配置に余裕ができること	上司や同僚の理解があること	残業が少なくなること	休暇が取りやすくなること	昇進・昇給への悪影響がないこと	配偶者とのコミュニケーションを向上すること	家事等は女性が行うべきという意識が変わること	男性が家事等を行うことへの女性の抵抗感をなくすこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などの当事者の考え方を尊重すること	特になし	無回答
全体	738	27.5	56.6	16.9	48.9	32.7	23.7	34.7	8.5	18.4	3.1	1.8
介護が必要な人がいる(同居)	53	34.0	58.5	9.4	54.7	32.1	24.5	39.6	13.2	13.2	5.7	—
介護が必要な人がいる(別居)	67	25.4	52.2	16.4	52.2	31.3	26.9	34.3	7.5	26.9	1.5	—
介護が必要な人はいない	609	26.8	57.3	17.9	47.9	33.2	23.3	34.2	8.4	17.6	3.1	2.1

図表 問8 県調査との比較



※県調査には「男性が家事等をする事への女性の抵抗感をなくすこと」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などの当事者の考え方を尊重すること」の選択肢はありません。

5 就労・働き方について

問9 あなたの職場では、女性が男性に比べて、次のような扱いを受けていると思うことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

- ◎「特にない(公平である)」は約3割となっています。「必要以上に身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる」、「能力があっても昇進・昇格が不利」が約2割となっています。
- ◎女性で「賃金が少ない」「研修の機会が少ない」「昇進・昇格が不利」「職業意識が低いとみられる」が多くなっています。
- ◎県調査よりも「結婚や出産時に退職する習慣や圧力がある」が34.9ポイントも少ないほか、「特にない(公平である)」が13.8ポイント多くなっています。

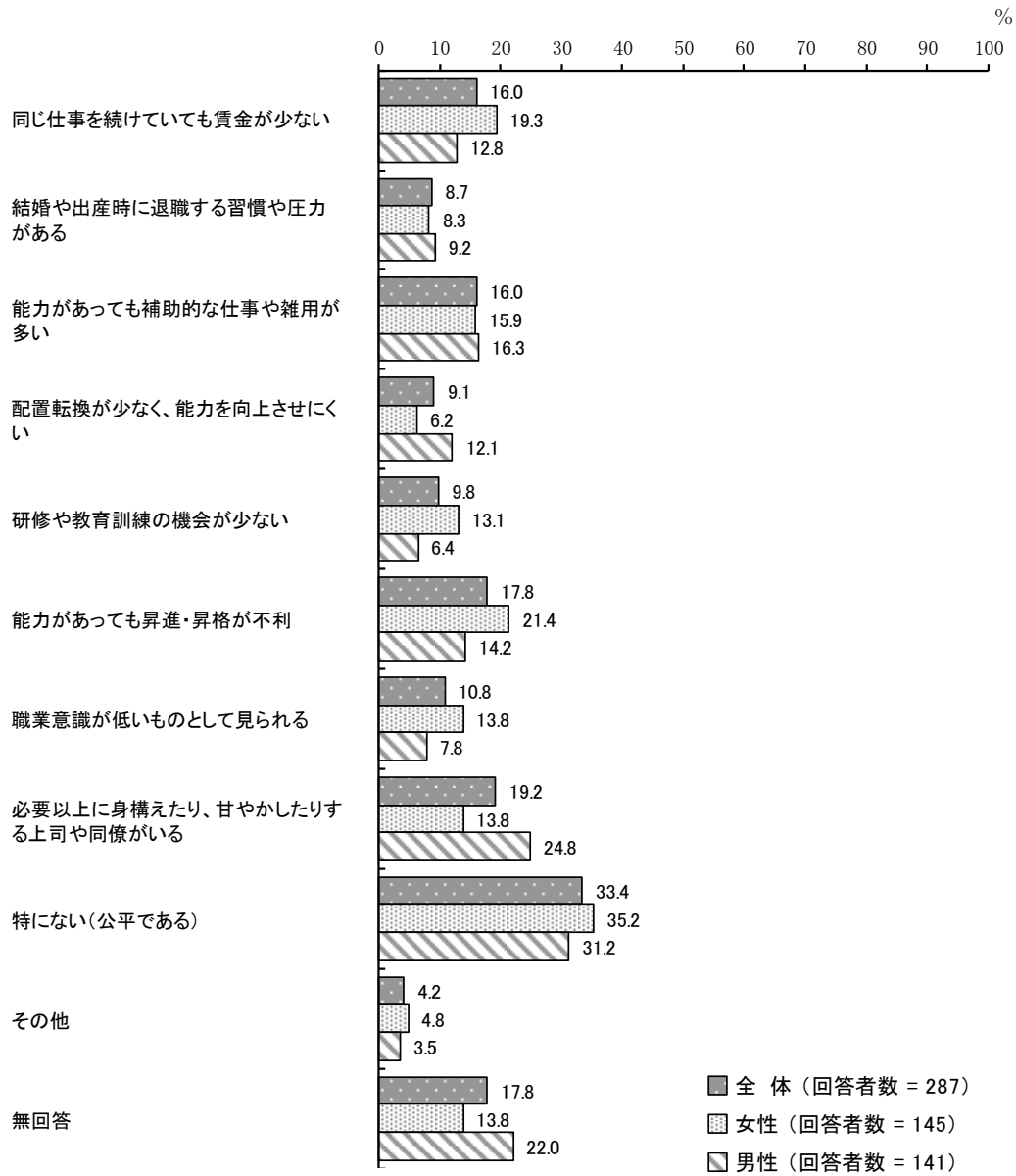
<性別>

性別で見ると、男女とも「特にない(公平である)」の割合が最も高く、3割を超えています。もともと、男性では「必要以上に身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる」の割合が女性より11.0ポイント高く、職場での公平な扱いに不満があると思われます。また、男性より女性で割合が高いものは「同じ仕事を続けていても賃金が少ない」「研修や教育訓練の機会が少ない」「能力があっても昇進・昇格が不利」「職業意識が低いものとして見られる」といった仕事への成果が挙げられています。

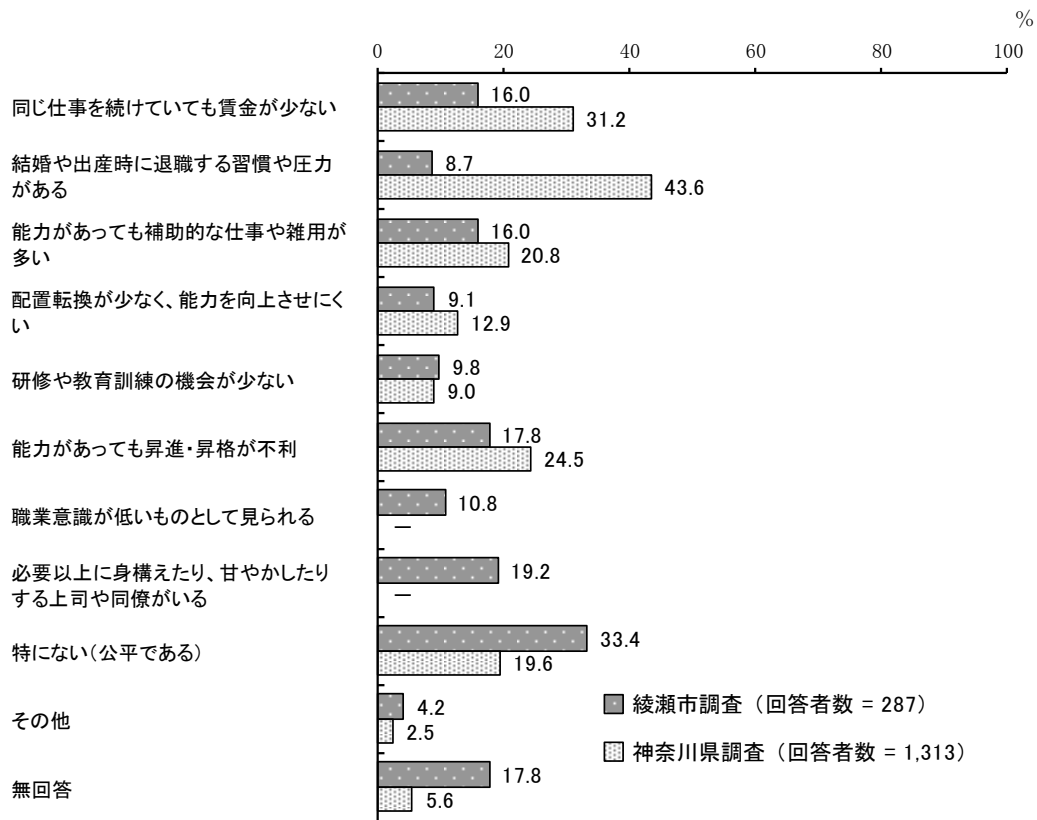
<県調査との比較>

県調査と比較すると、「特にない(公平である)」が13.8ポイント高く、就労環境における男女差は県よりも少なくなっています。また、「同じ仕事を続けていても賃金が少ない」が15.2ポイント、「結婚や出産時に退職する習慣や圧力がある」が34.9ポイント、「能力があっても昇進・昇格が不利」が6.7ポイント低くなっており、賃金や昇格といった就労条件での差別も少なくなっていると思われます。

図表 問9 性別



図表 問9 県調査との比較



※県調査には「職業意識が低いものとして見られる」「必要以上に身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる」の選択肢はありません。

問 10 【※正規雇用で仕事をしている方に伺います】

あなたに現在、育児や介護が必要な家族がいる場合、又はいると想定した場合、法律で定められた次の休業制度を利用することができますか。1～4の各項目について、あてはまるものを選んでください。（項目ごとに○を1つ）

また、「利用できない」に○をした場合は、その理由を選んでください。

（1つに○）

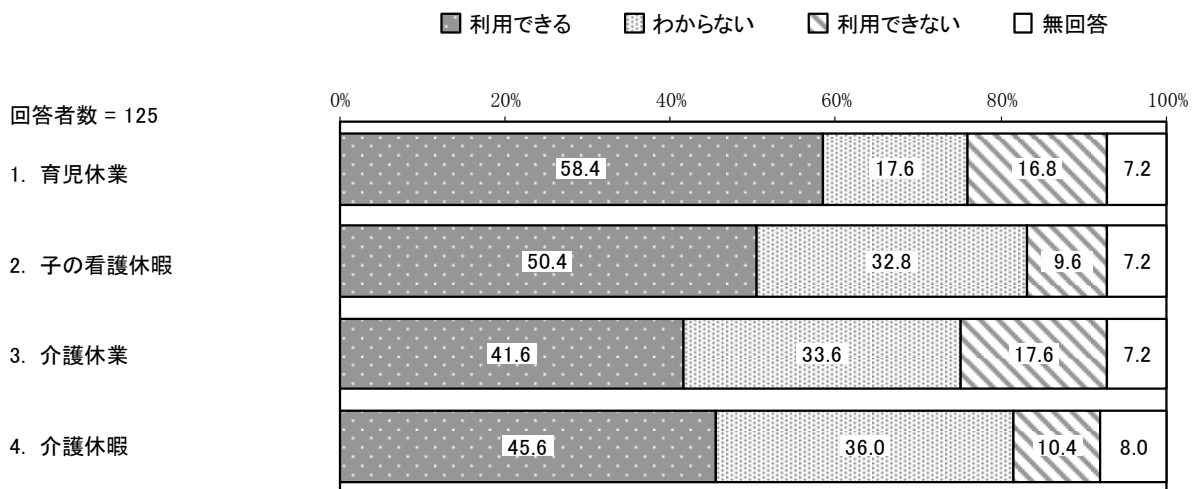
①休業制度の利用の可否

◎すべての項目で「利用できる」が最も高くなっています。特に『育児休業』では約6割となっています。

◎『介護休業』『介護休暇』では「利用できる」が4割台と低くなっています。

『育児休業』で「利用できる」の割合が高く、約6割となっています。一方、『介護休業』『介護休暇』で「利用できる」の割合が低く、4割台となっています。

図表 問 10 休業制度の利用の可否 全体



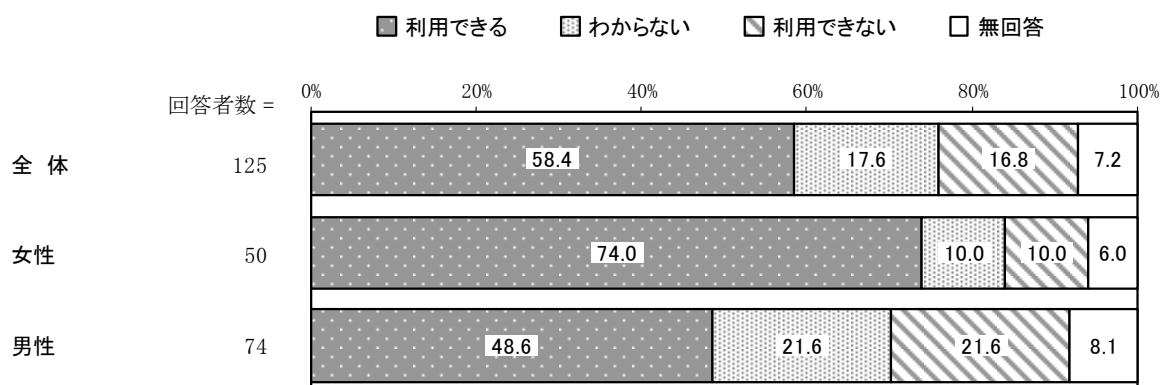
1. 育児休業

◎男性で「利用できない」が約2割となっています。

<性別>

性別でみると、女性で「利用できる」の割合が7割半ばと、男性より25.4ポイント高くなっています。男性では「利用できない」が約2割と、女性に比べ11.6ポイント高くなっています。

図表 問10 休業制度の利用の可否 育児休業 性別



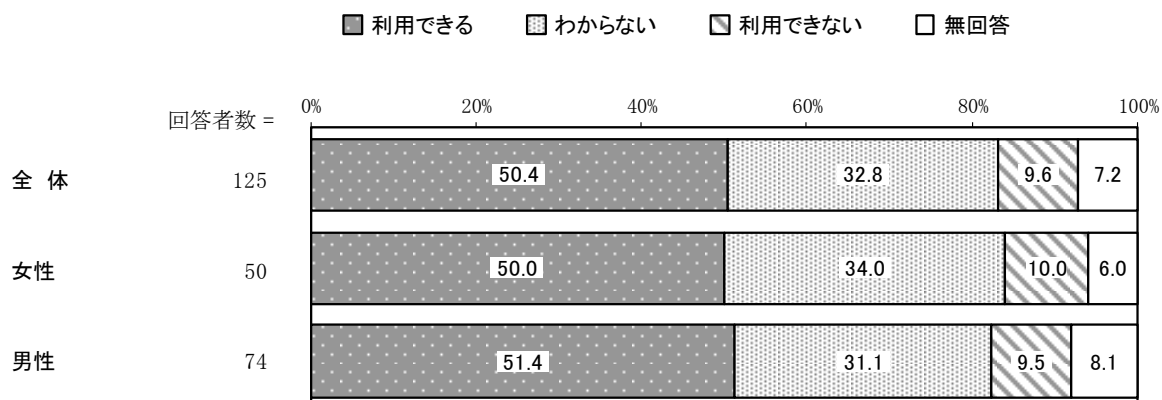
2. 子の看護休暇

◎「利用できる」が約5割、「利用できない」が約1割となっています。

<性別>

性別でみると、男女で大きな差はみられず、「利用できる」の割合が約5割、「利用できない」の割合が約1割となっています。

図表 問10 休業制度の利用の可否 子の看護休暇 性別



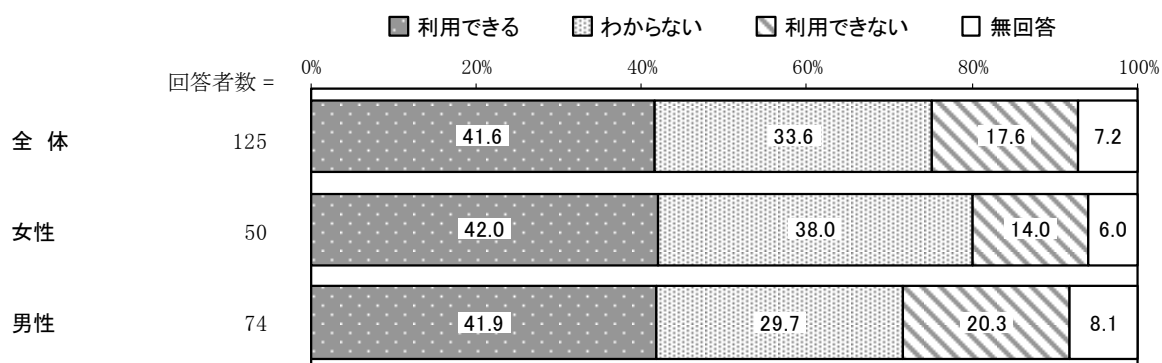
3. 介護休業

◎男性で「利用できない」が約2割となっています。

<性別>

性別でみると、男女とも「利用できる」の割合が最も高く、約4割となっています。また、女性に比べ、男性で「利用できない」の割合が高く、約2割となっています。

図表 問10 休業制度の利用の可否 介護休業 性別



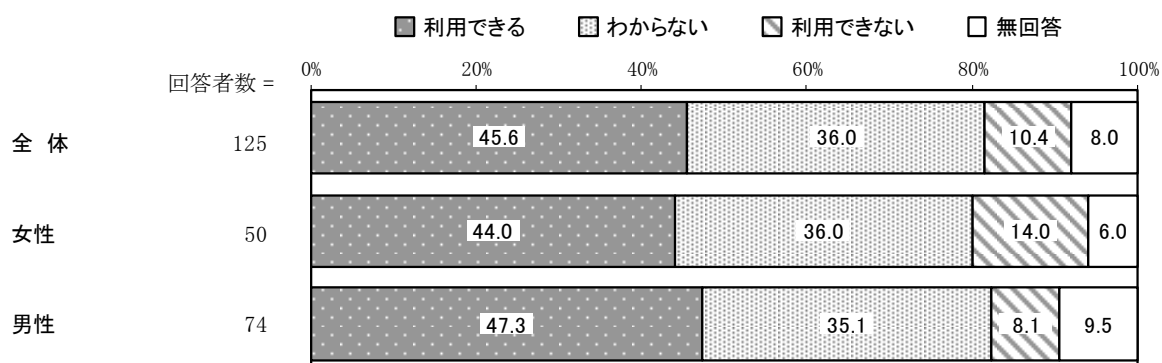
4. 介護休暇

◎男女とも「利用できる」が4割を超えています。

<性別>

性別でみると、男女とも「利用できる」の割合が高く、4割台と大きな差異はみられません。また、女性で「利用できない」の割合が男性より高く、1割半ばとなっています。

図表 問10 休業制度の利用の可否 介護休暇 性別

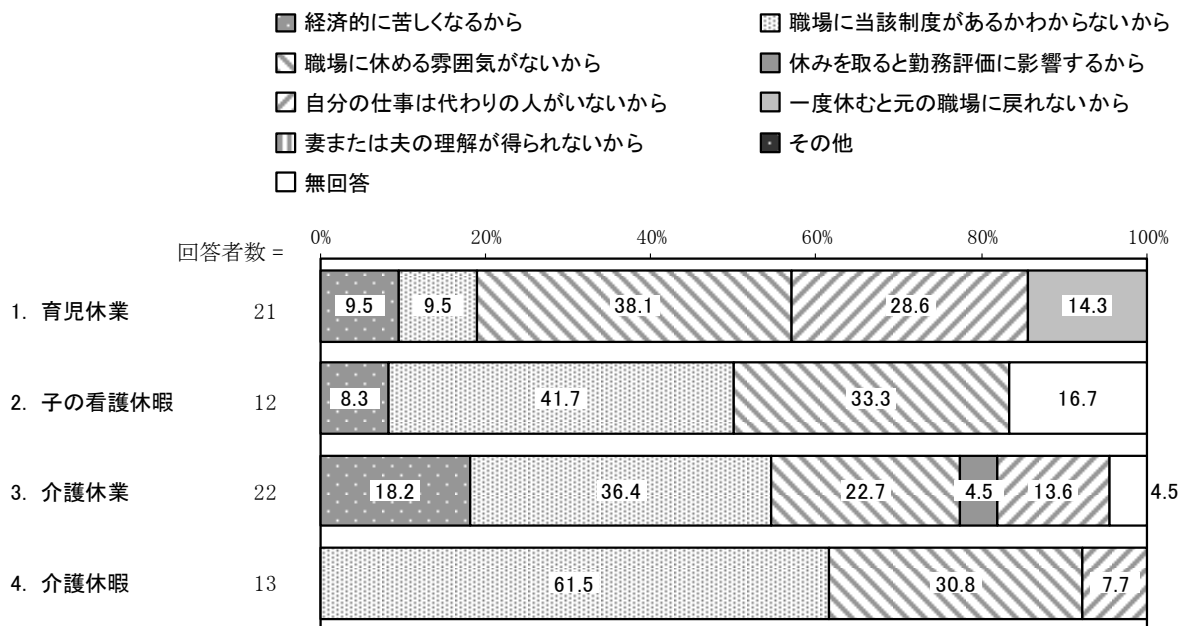


②利用できない理由

- ◎『介護休暇』で「職場に当該制度があるかわからないから」が約6割となっています。
- ◎『育児休業』では「職場に休める雰囲気がないから」「代わりの人がいないから」が多くなっています。

『介護休暇』で「職場に当該制度があるかわからないから」の割合が高く、約6割となっています。また、『育児休業』で「職場に休める雰囲気がないから」「自分の仕事は代わりの人がいないから」の割合が高くなっています。

図表 問10 利用できない理由 全体



6 学校教育分野の男女共同参画について

問 11 学校教育の場で男女平等意識を啓発するための取り組みとして、特に重要だと思うものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

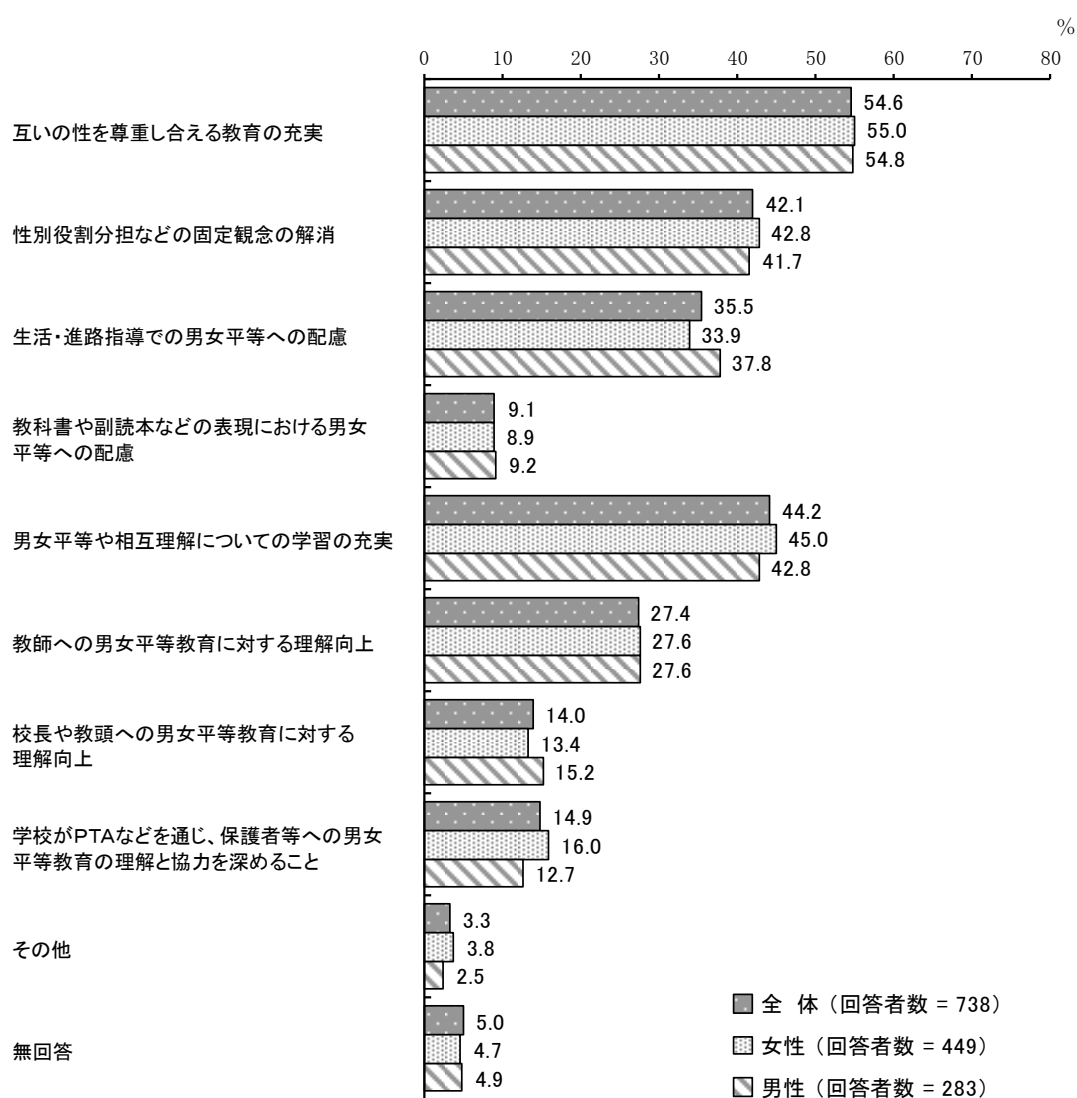
◎性別による大きな差異はみられません。

◎「互いの性を尊重し合える教育の充実」が男女とも5割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、男女で大きな差異はみられず、男女とも「互いの性を尊重し合える教育の充実」の割合が5割半ばと最も高く、次いで「男女平等や相互理解についての学習の充実」「性別役割分担などの固定観念の解消」の割合が高くなっています。

図表 問 11 性別



7 防災分野の男女共同参画について

問 12 防災分野での男女共同参画を推進するための取り組みとして、特に重要だと思うものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

◎「市の防災計画に男女両方の視点が入ること」が約5割となっています。

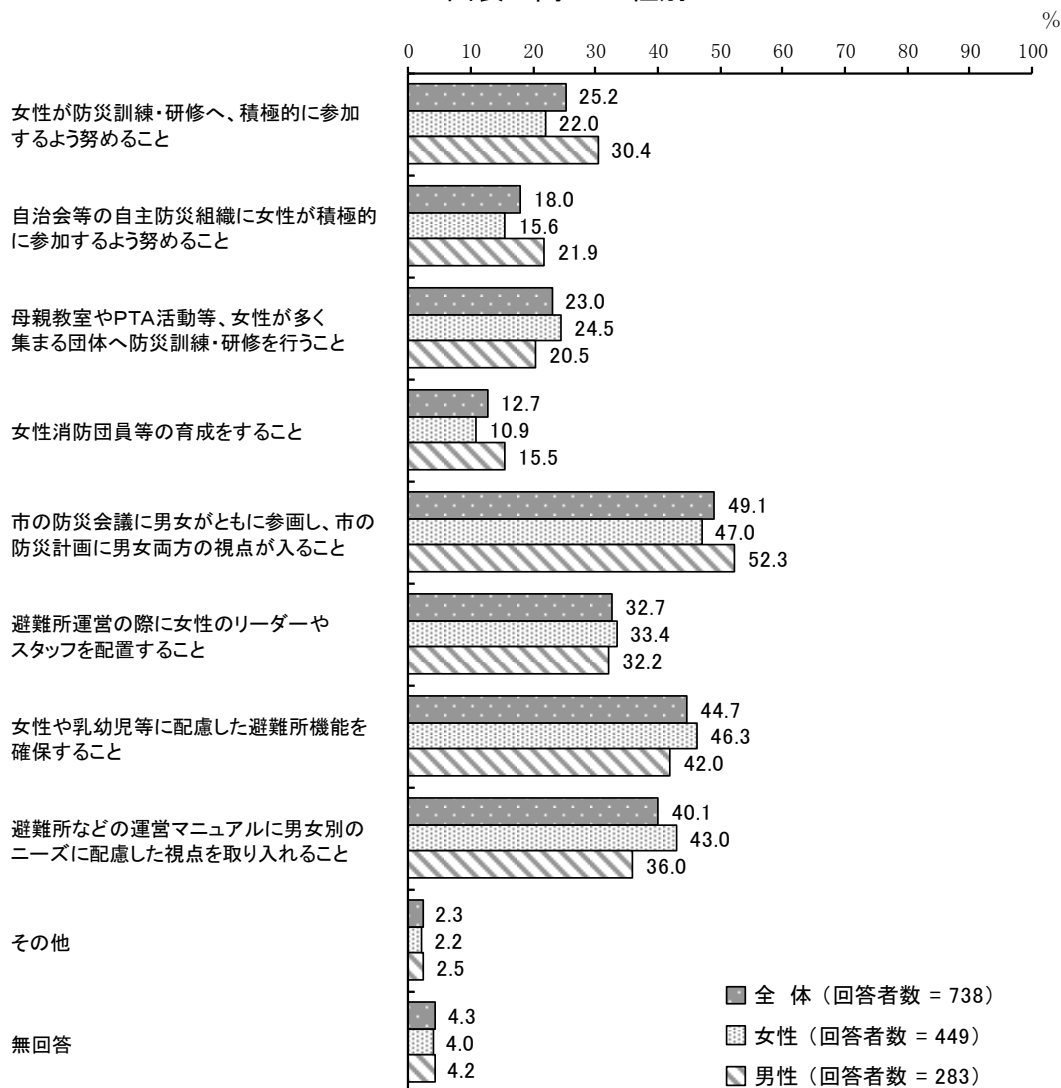
◎男性で防災訓練・組織への女性の参画が求められています。

<性 別>

性別でみると、「市の防災会議に男女がともに参画し、市の防災計画に男女両方の視点が入ること」の割合が男女とも最も高く、約5割となっています。

女性で「避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること」の割合が高く、約4割となっています。一方、女性に比べ、男性で「女性が防災訓練・研修へ、積極的に参加するよう努めること」「自治会等の自主防災組織に女性が積極的に参加するよう努めること」といった防災訓練・組織への女性の参画が求められています。

図表 問 12 性別



8 ワーク・ライフ・バランスについて

問 13 あなたはワーク・ライフ・バランスを実現できていると思いますか。
あてはまるものを選んでください。(1つに〇)

◎ “実現できている” が4割半ば、“実現できていない” が3割半ばとなっています。

◎男女とも “実現できている” は約4割。

◎男性の50歳代では “実現できていない” が約5割となっています。

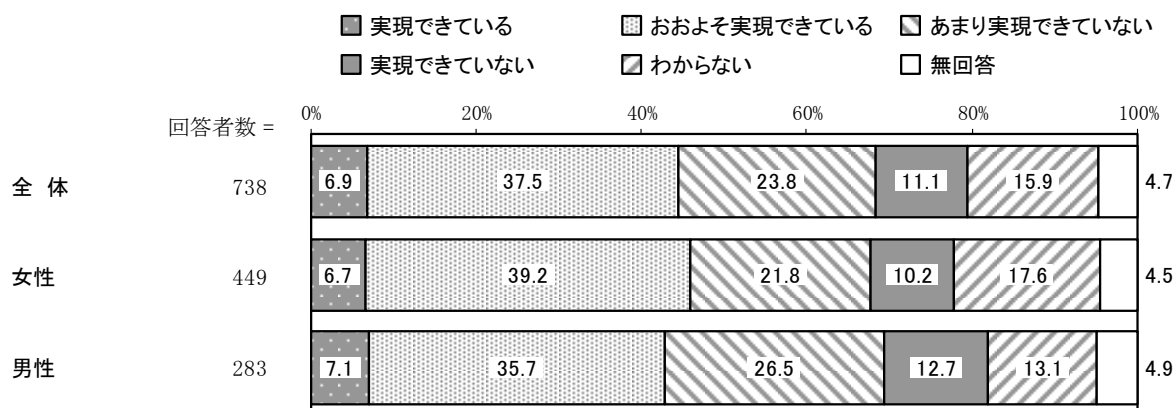
<性 別>

性別でみると、「実現できている」と「おおよそ実現できている」の合計の割合は、男女で差はみられず、4割台となっています。一方、“実現できていない”（「あまり実現できていない」と「実現できていない」の合計）の割合は、女性に比べ男性で高く、約4割となっています。

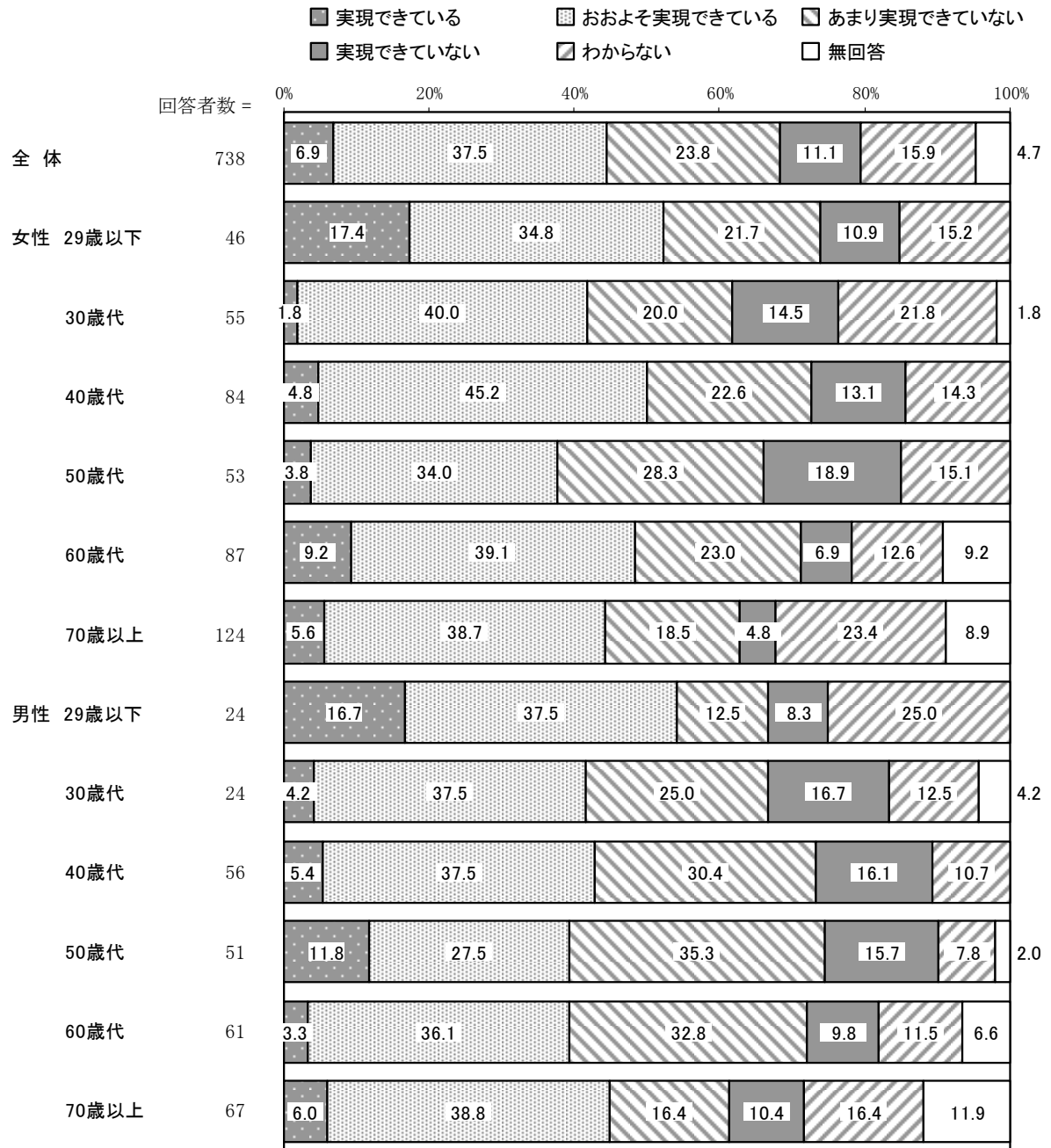
<性・年齢別>

性・年齢別でみると、30歳以上の年代では、男性で“実現できない”の割合が女性に比べ高くなっています。また、男女ともに、50歳代で“実現できていない”の割合が高く、約5割となっています。

図表 問 13 性別



図表 問13 性・年齢別



問 14-1 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度を伺います。まず、あなたの“希望”に最も近いものを1つ選んでください。（1つに○）

- ◎『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが最も多く2割半ばとなっています。
- ◎女性では『家庭生活』を優先したいが、男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが最も多くなっています。
- ◎国調査より『仕事』を優先したい』『家庭生活』を優先したいが少なくなっています。

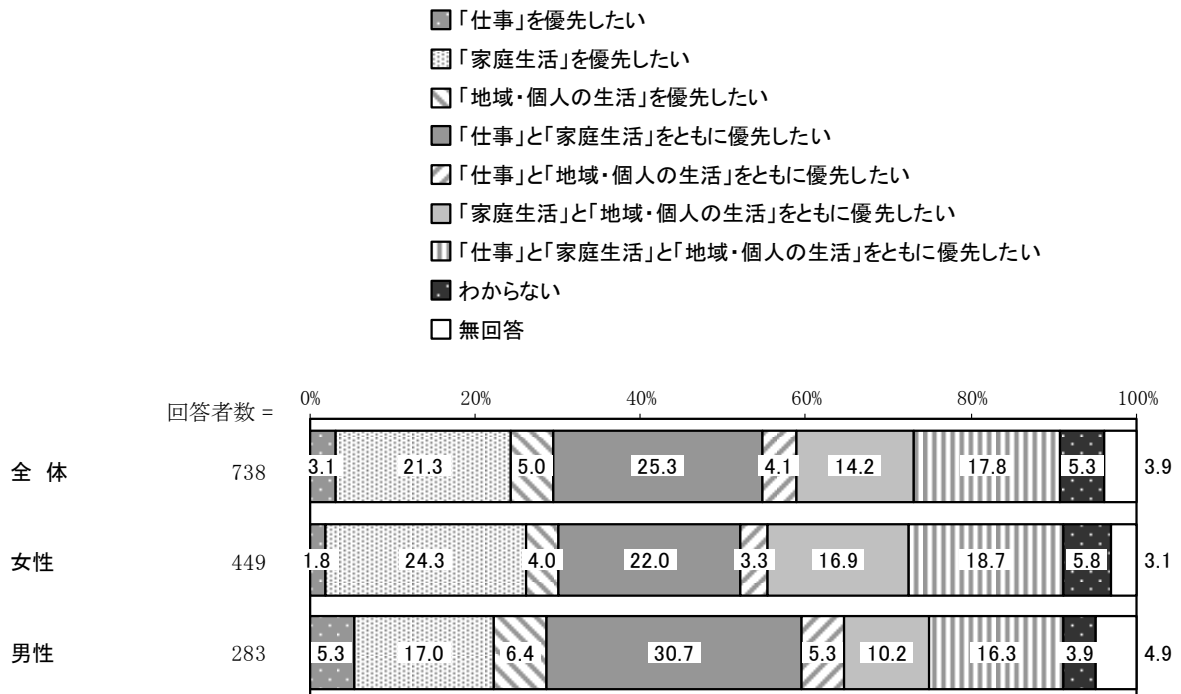
<性別>

性別でみると、女性では『家庭生活』を優先したいの割合が最も高く、2割半ばとなっています。一方、男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が高く、約3割となっています。

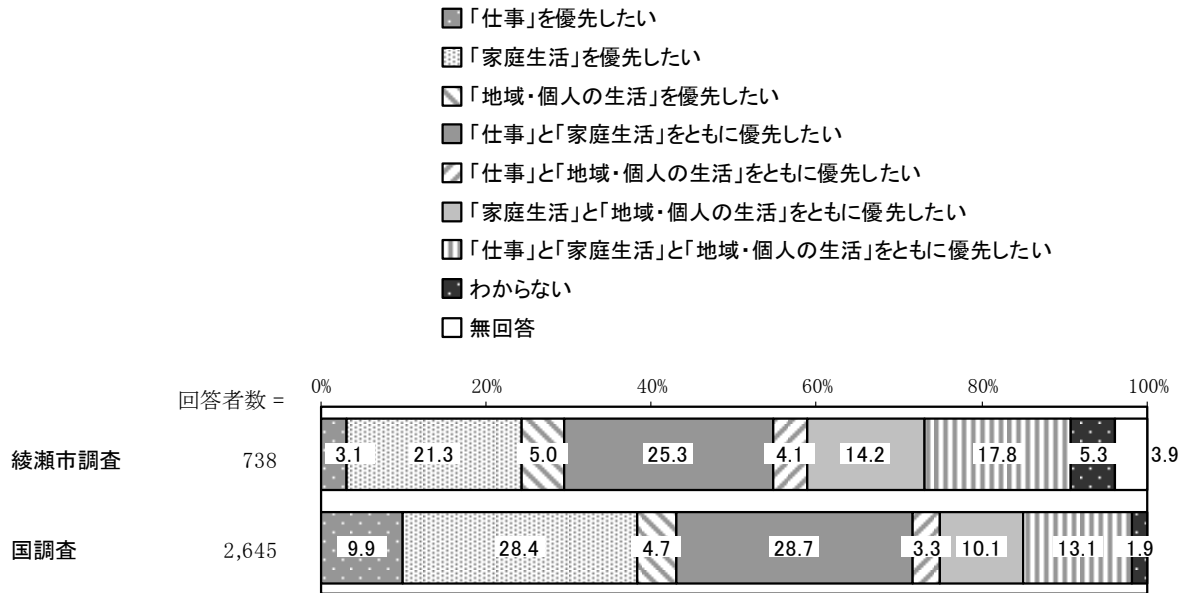
<国調査との比較>

国調査と比較すると、『仕事』を優先したいが6.8ポイント、『家庭生活』を優先したいが7.1ポイント低い一方、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい』『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが多く、仕事・家庭・地域をバランスよく大事にしたい人が多いことが伺えます。

図表 問 14-1 性別



図表 問 14-1 国調査との比較



問 14-2 では、あなたの“現状”に最も近いものを1つ選んでください。
(1つに○)

- ◎『「家庭生活」を優先している』が最も多く約3割となっています。
- ◎女性では『「家庭生活」を優先している』が、男性では『「仕事」を優先している』が最も多くなっています。
- ◎国調査とは大きな差異はみられません。

<性別>

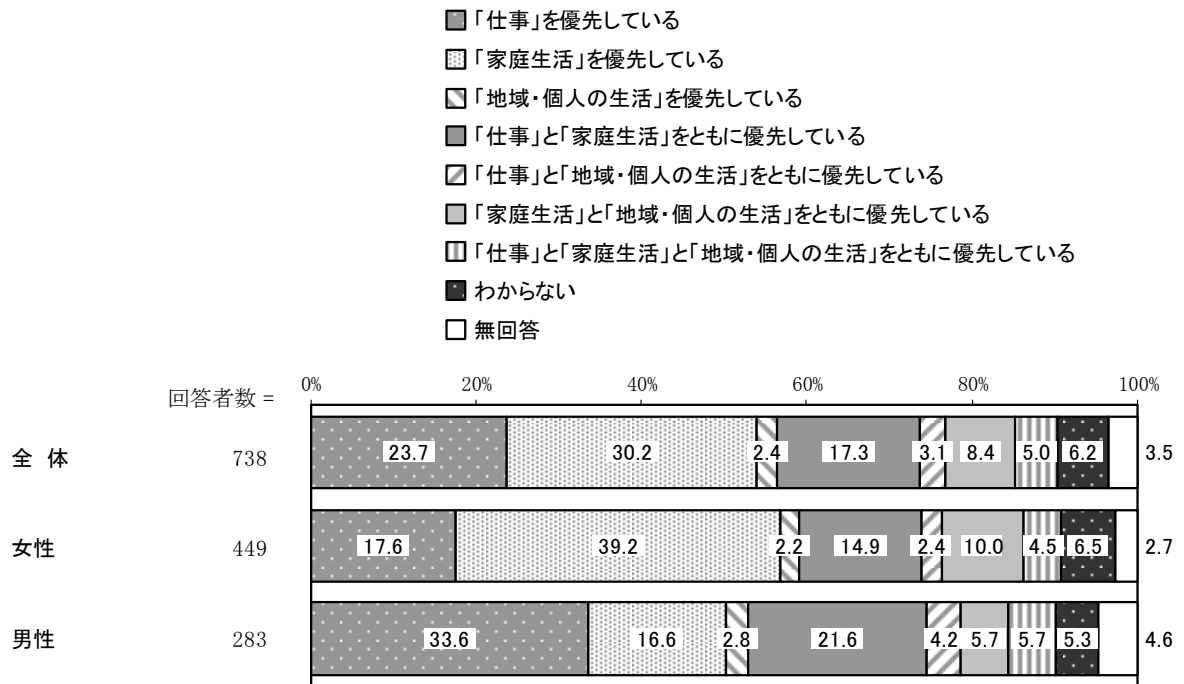
性別でみると、女性では『「家庭生活」を優先している』の割合が最も高く、約4割となっており、問 14-1 の理想に比べ、14.9 ポイント高くなっています。

また、男性では『「仕事」を優先している』の割合が最も高く、理想と比べ 28.3 ポイント高く、理想と現実の乖離が大きくなっています。

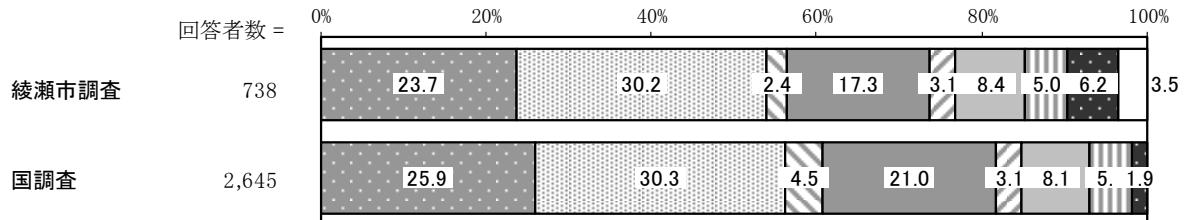
<国調査との比較>

国調査と比較すると、大きな差異はみられません。

図表 問 14-2 性・年齢別



図表 問 14-2 国調査との比較



問 15 ワーク・ライフ・バランスの実現にあたり、重要だと思うものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

◎「保育所などの託児施設やサービスの充実」「介護施設や介護サービスの充実」「両立支援制度を利用しやすい職場の体制や雰囲気の形成」が3割半ばとなっています。

◎女性では「介護施設や介護サービスの充実」が、男性では「仕事中心という社会全体の仕組みの改善」が最も多くなっています。

<性 別>

性別でみると、女性では「保育所などの託児施設やサービスの充実」「介護施設や介護サービスの充実」「両立支援制度を利用しやすい職場の体制や雰囲気の形成」がそれぞれ約4割と上位3つとなっており、保育や介護と仕事を両立するための仕組みが求められています。

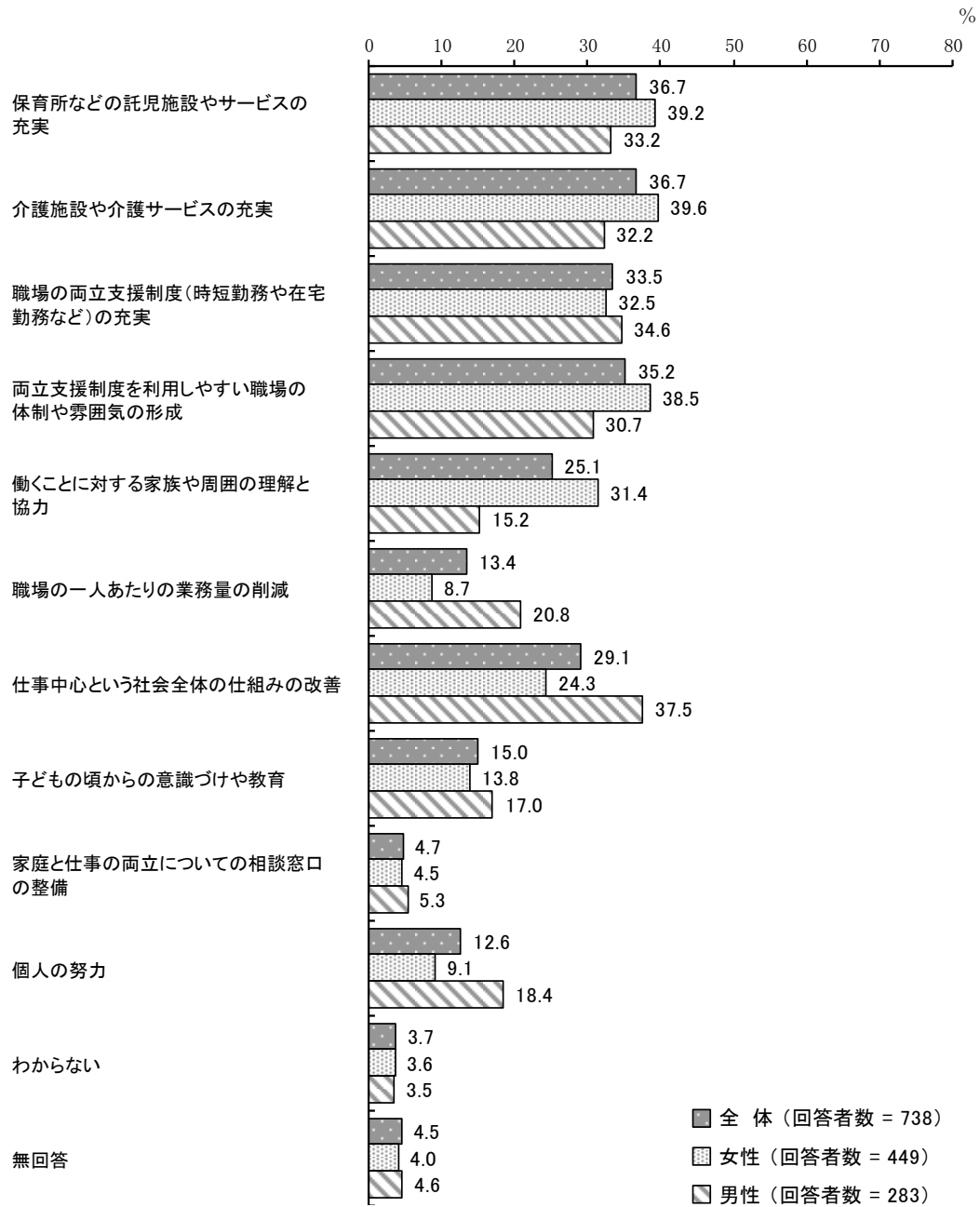
男性では「仕事中心という社会全体の仕組みの改善」の割合が最も高く、「介護施設や介護サービスの充実」「職場の両立支援制度（時短勤務や在宅勤務など）の充実」が続いており、職場・就労に関する項目が多くなっています。

<性・年齢別>

性・年齢別でみると、女性では、29歳以下、30歳代で「保育所などの託児施設やサービスの充実」の割合が最も高くなっており、育児へのサポートが求められています。一方、男性では、30歳代から50歳代で「仕事中心という社会全体の仕組みの改善」の割合が、29歳以下で「職場の一人あたりの業務量の削減」の割合が最も高くなっており、男性の50歳以下では仕事のあり方に関するものが求められています。

男女とも50歳代以上で「介護施設や介護サービスの充実」の割合が最も高くなっています。

図表 問15 性別



図表 問15 性・年齢別

単位：％

区分	有効回答数(件)	保育所などの託児施設やサービスの充実	介護施設や介護サービスの充実	職場の両立支援制度(時短勤務や在宅勤務など)の充実	職場の体制や雰囲気形成	両立支援制度を利用しやすい	周囲の理解と協力	働くことに対する家族や	削減	職場の一人あたりの業務量の	仕事中心という社会全体の	仕組みの改善	子どもの頃からの意識づけや教育	家庭と仕事の両立についての相談窓口の整備	個人の努力	わからない	無回答
全 体	738	36.7	36.7	33.5	35.2	25.1	13.4	29.1	15.0	4.7	12.6	3.7	4.5				
女性 29歳以下	46	65.2	13.0	47.8	37.0	21.7	21.7	37.0	6.5	8.7	2.2	4.3	—				
30歳代	55	43.6	20.0	41.8	40.0	29.1	9.1	32.7	16.4	3.6	7.3	3.6	3.6				
40歳代	84	34.5	33.3	51.2	42.9	32.1	15.5	23.8	11.9	1.2	11.9	—	1.2				
50歳代	53	22.6	49.1	30.2	43.4	34.0	3.8	24.5	11.3	3.8	9.4	9.4	—				
60歳代	87	48.3	52.9	26.4	35.6	35.6	4.6	26.4	14.9	6.9	9.2	2.3	3.4				
70歳以上	124	31.5	49.2	15.3	35.5	31.5	4.0	14.5	16.9	4.0	10.5	4.0	9.7				
男性 29歳以下	24	29.2	4.2	54.2	29.2	25.0	62.5	37.5	20.8	—	12.5	4.2	—				
30歳代	24	29.2	8.3	33.3	37.5	4.2	29.2	37.5	8.3	—	29.2	4.2	4.2				
40歳代	56	28.6	19.6	42.9	39.3	8.9	28.6	58.9	21.4	5.4	14.3	1.8	—				
50歳代	51	27.5	35.3	21.6	31.4	23.5	23.5	35.3	19.6	7.8	17.6	2.0	3.9				
60歳代	61	47.5	47.5	27.9	21.3	18.0	4.9	26.2	13.1	9.8	18.0	3.3	6.6				
70歳以上	67	31.3	44.8	37.3	29.9	11.9	9.0	31.3	16.4	3.0	20.9	6.0	9.0				

9 女性の活躍推進について

問 16 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。
あてはまるものを1つ選んでください。(1つに〇)

◎「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が約4割、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が約3割となっています。

◎性別による大きな差異はみられません。

<性 別>

性別でみると、男女とも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が約4割と最も高く、次いで「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が約3割となっており、男女により大きな差はみられません。

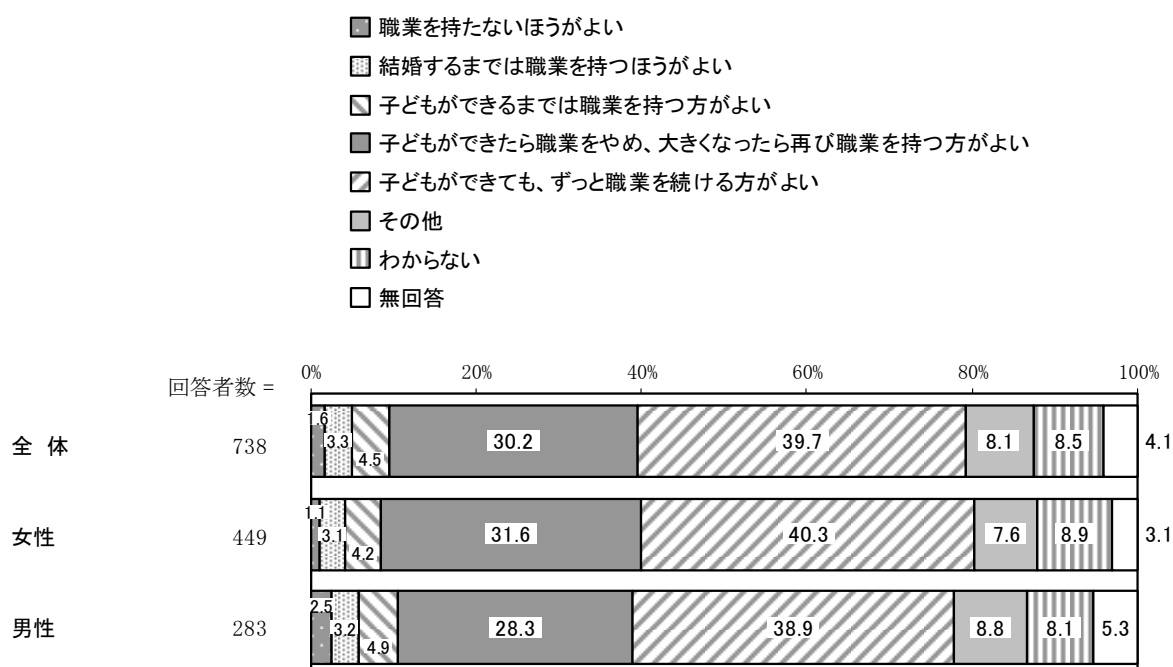
<国・県調査との比較>

国調査と比較すると、選択肢は異なるものの「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が9.9ポイント高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が21.3ポイント低くなっています。

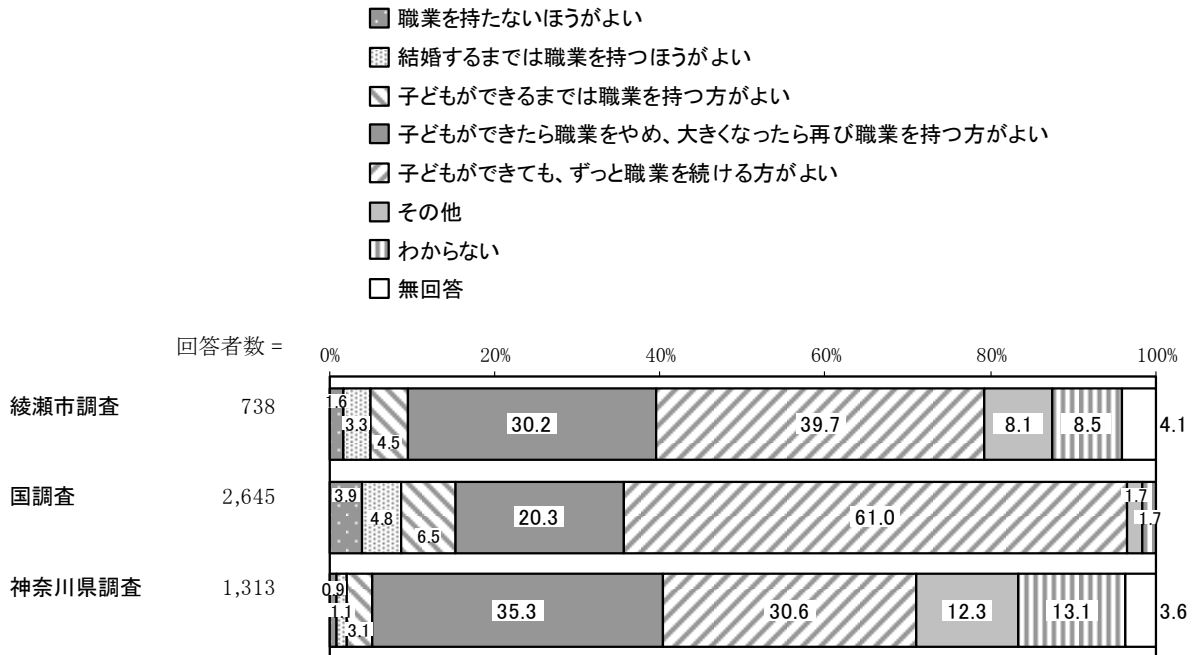
県調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が9.1ポイント高く、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が5.1ポイント低くなっています。

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が国に比べ低いものの、県よりは高いことが伺えます。

図表 問 16 性別



図表 問 16 国・県調査との比較



※国調査の「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」に数値ついては、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったらフルタイムで職業をもつ方がよい」「子どもができれば職業をやめ、大きくなったらパートタイムで職業をもつ方がよい」の合計です。

問 17 女性が働き続けるために、必要なことは何だと思いますか。重要だと思うものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

- ◎「保育所などの託児施設やサービスの充実」が約6割、「男女が協力して育児・介護等を担うという理解・意識改革」、「性別に関係なく育児・介護休業が取得しやすい職場環境」が約4割となっています。
- ◎女性で「男女が協力して育児・介護等を担うという理解・意識改革」「非正規雇用労働者の待遇の改善(同一労働同一賃金)」が、男性で「恒常的な残業や休日出勤といった長時間労働の改善」が多くなっています。

<性 別>

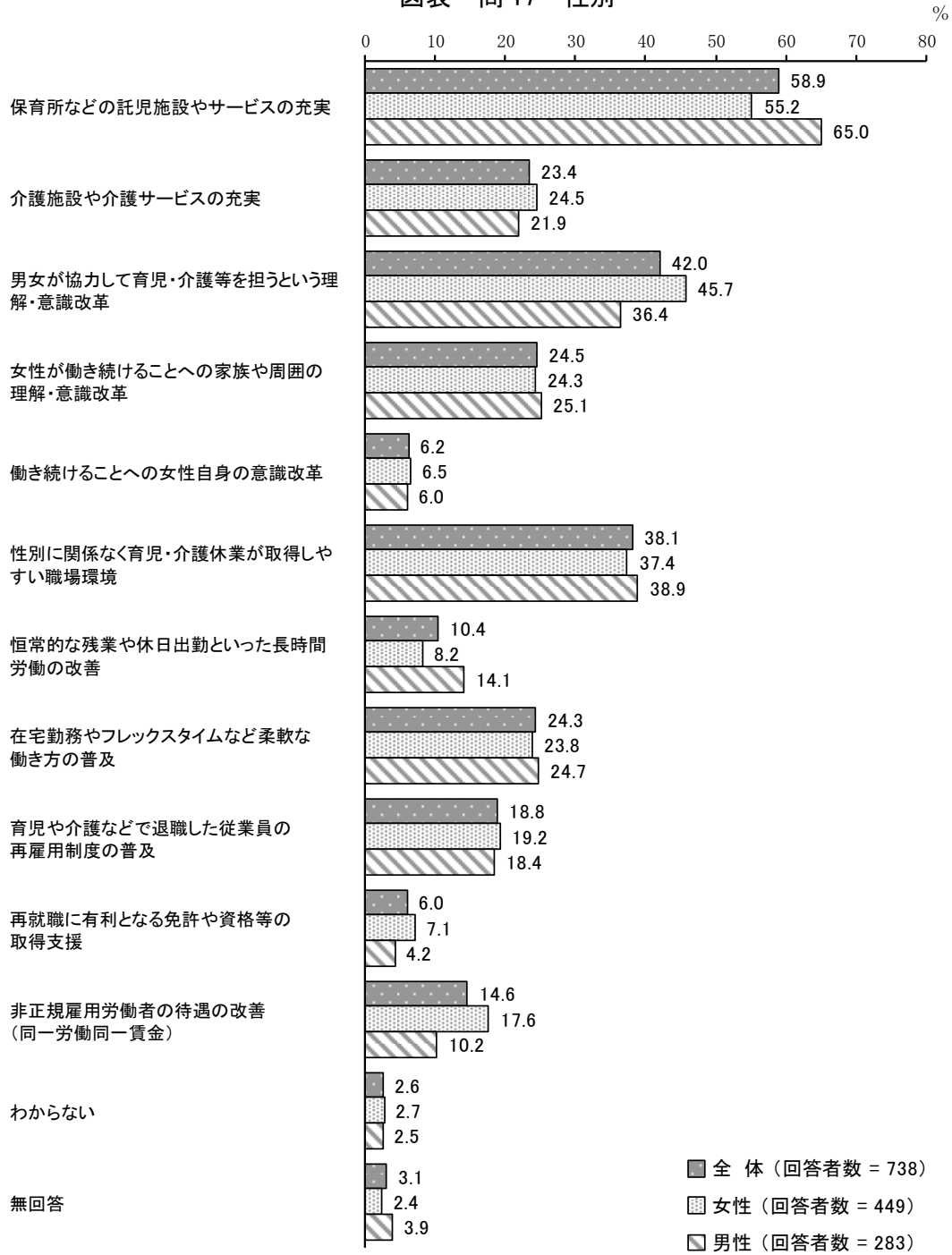
性別でみると、男女とも「保育所などの託児施設やサービスの充実」の割合が最も高く、特に男性で6割半ばと、女性より9.8ポイント高くなっています。

男性に比べ、女性で「男女が協力して育児・介護等を担うという理解・意識改革」が男性より9.3ポイント高く、家事・育児・介護を女性が担っている現状の変革が求められています。

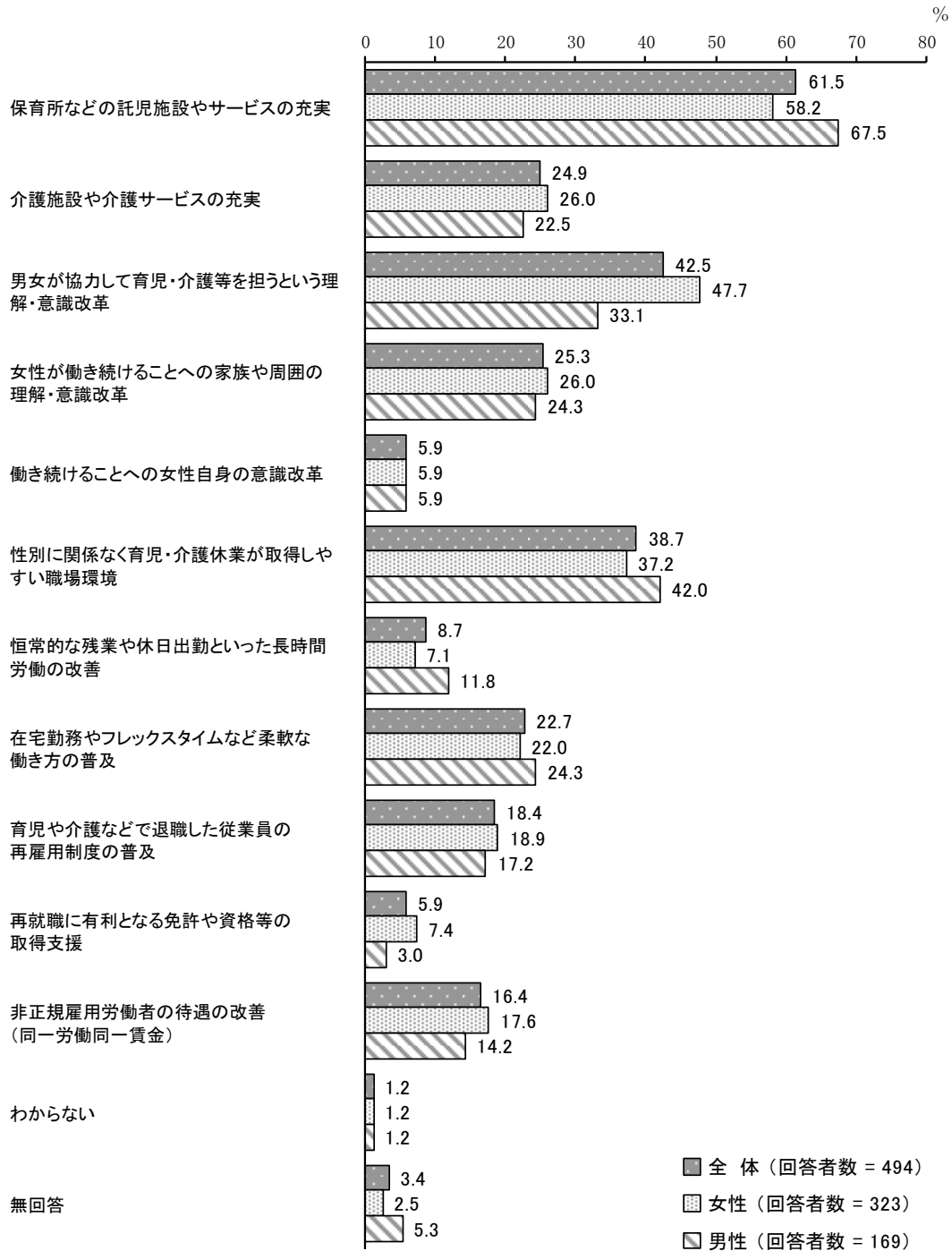
また、「恒常的な残業や休日出勤といった長時間労働の改善」が、女性より男性で5.9ポイント高く、長時間労働の是正が求められています。

子どもがいる人に限定してみると、全体との大きな差異はみられません。

図表 問17 性別



図表 問17 性別（子どもがいる人のみ）



10 DVやハラスメントについて

問18 あなたは、職場・地域・学校などで、次のようなセクハラ（セクシャル・ハラスメント）を受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

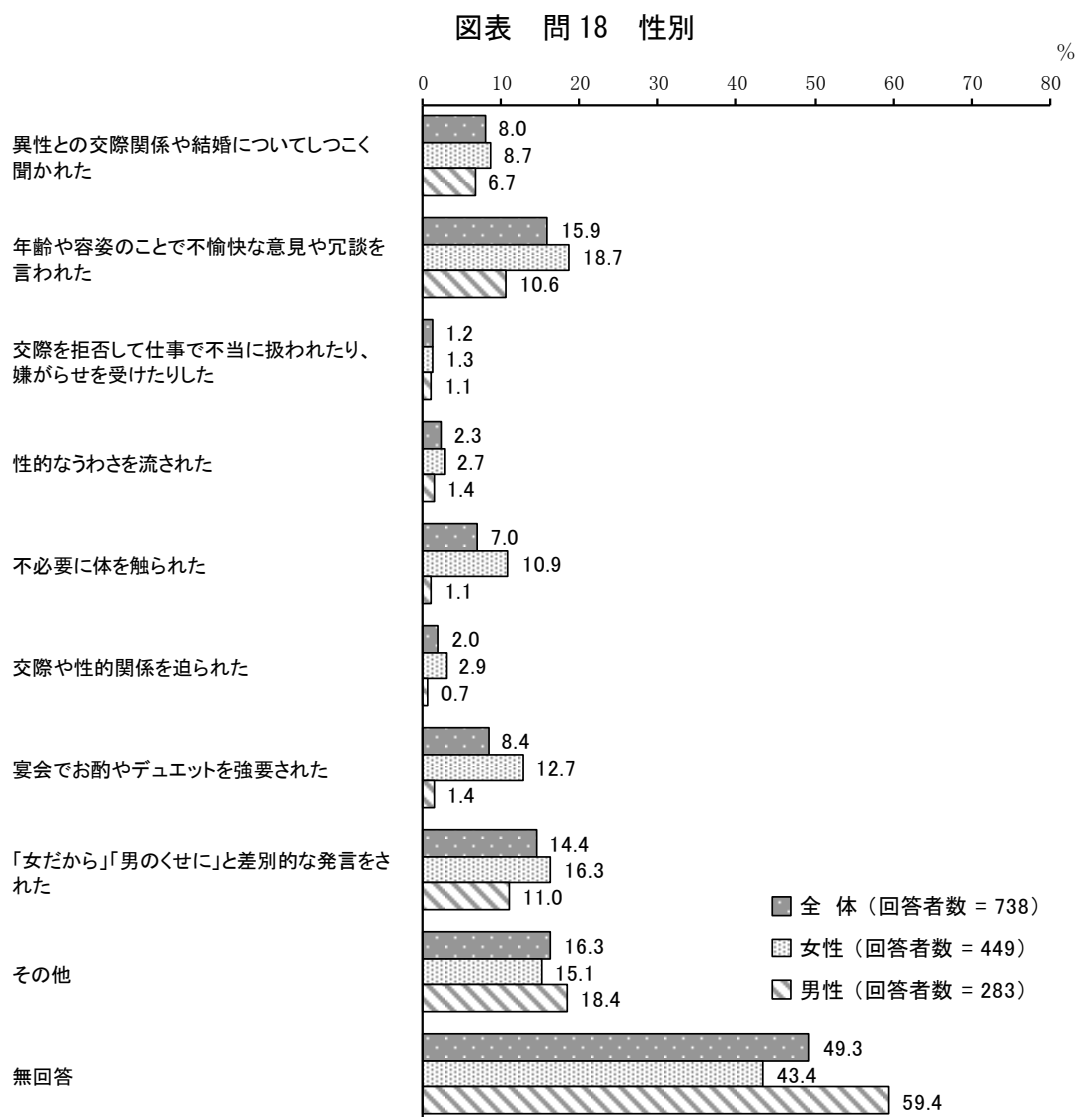
◎ “セクハラを受けた”人は、女性で5割半ば、男性で4割となっています。

◎ 「年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた」、「女だから」「男のくせに」と差別的な発言をされた」が1割半ばとなっています。

<性別>

性別でみると、全体から「無回答」を除いた“セクハラを受けた”人の割合は、女性で5割半ば、男性で約4割となっています。

セクハラの内容は、すべての項目で、男性よりも女性で割合が高くなっており、特に「宴会でお酌やデュエットを強要された」「不必要に体を触られた」が男性より約10ポイント高くなっています。



問 19 あなたは、配偶者やパートナーなどから、次のような精神的・身体的暴力（DV）を受けたり、身近に見聞きしたりしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

①受けたことがある

◎ “DVを受けた”人は、女性で約3割、男性で約1割となっています。

◎ 「大声でどなる」が1割半ばとなっています。

<性 別>

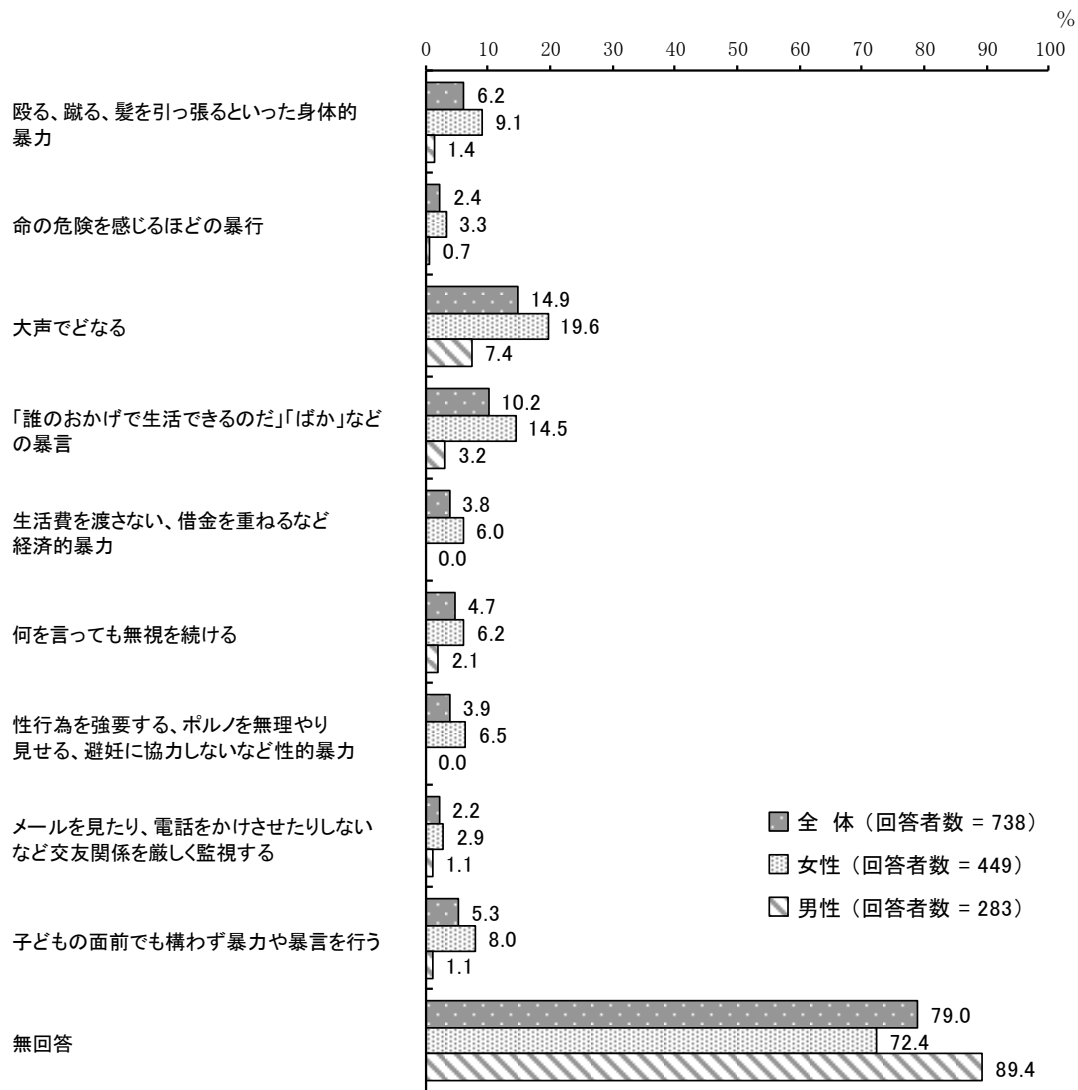
性別で見ると、全体から「無回答」を除いた“DVを受けた”人の割合は、女性で約3割、男性で約1割となっています。

DVの内容は、すべての項目で、男性より女性で割合が高くなっており、特に「大声でどなる」は女性で約2割を占めています。

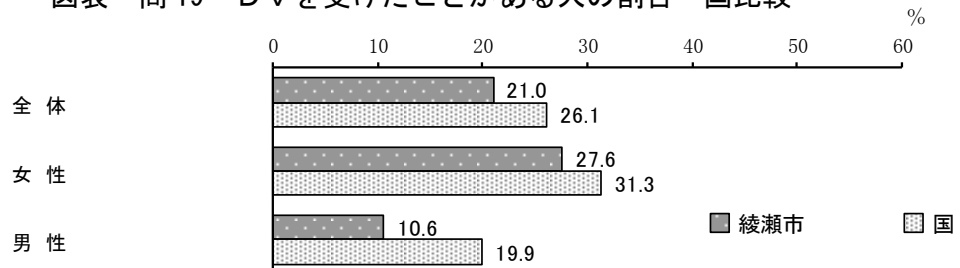
<国との比較>

DVを受けたことがある人の割合を国と比較すると、国と比べ、全体、男女別ともDVを受けた人の割合は低くなっており、特に男性では国の半分程度と、DV防止への意識が高くなっています。

図表 問19 ①受けたことがある 性別



図表 問19 DVを受けたことがある人の割合 国比較



※国調査：内閣府「平成30年 男女間における暴力に関する調査報告書（概要版）」

②身近に見聞きしたことがある

◎ “DVを見聞きしたことがある”人は、女性で約3割、男性で約2割となっています。

◎ 「大声でどなる」が1割半ばとなっています。

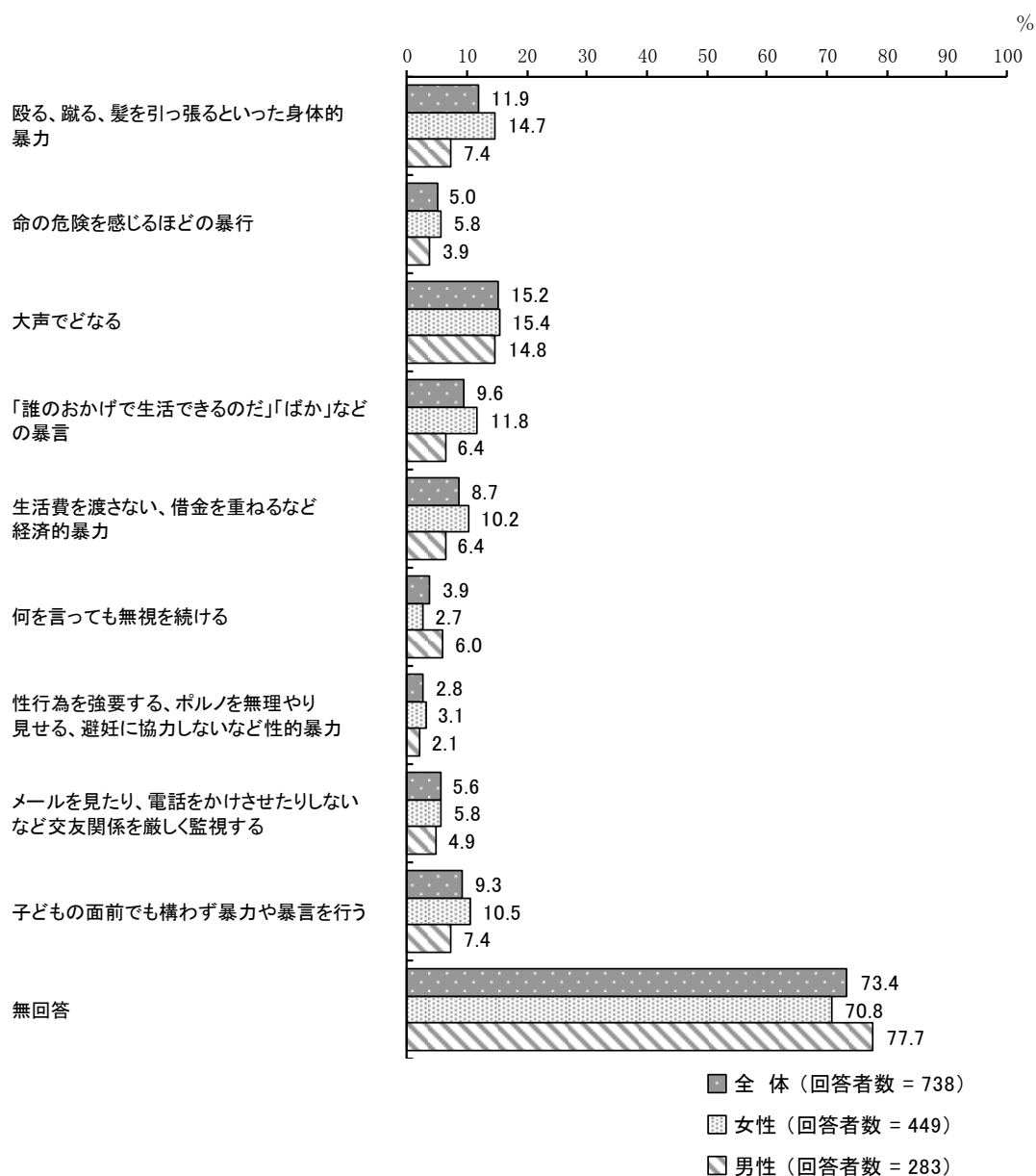
<性別>

性別でみると、全体から「無回答」を除いた“DVを見聞きしたことがある”人の割合は、女性で約3割、男性で約2割となっています。

DVの内容は、男女とも「大声でどなる」が最も高く、1割半ばとなっています。

また、「殴る、蹴る、髪を引っ張るといった身体的暴力」の割合が、男性に比べ、女性で高くなっています。

図表 問19 ②身近に見聞きしたことがある 性別



問 20 【※前問で「受けたことがある」「身近に見聞きしたことかある」と答えた方に伺います】
 あなたは、そのようなことをどこ（誰）かに相談したことがありますか。
 （1つに○）

- ◎「相談した」が約3割、「相談しなかった」が約6割となっています。
- ◎「相談した」人は女性で3割半ば。男性では「相談しなかった」が約7割となっています。

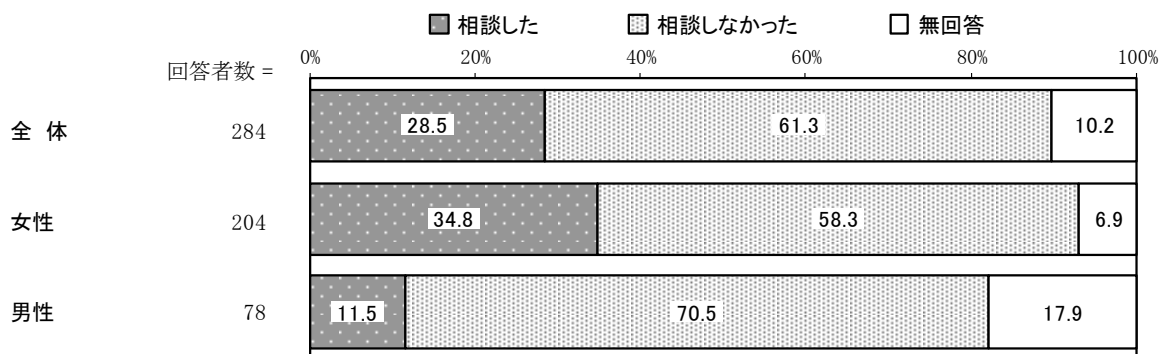
<性 別>

性別でみると、「相談した」は女性で高く3割半ばとなっているのに対し、「相談しなかった」は男性で高く、約7割となっており、男性では抱え込んでしまう現状がみられます。

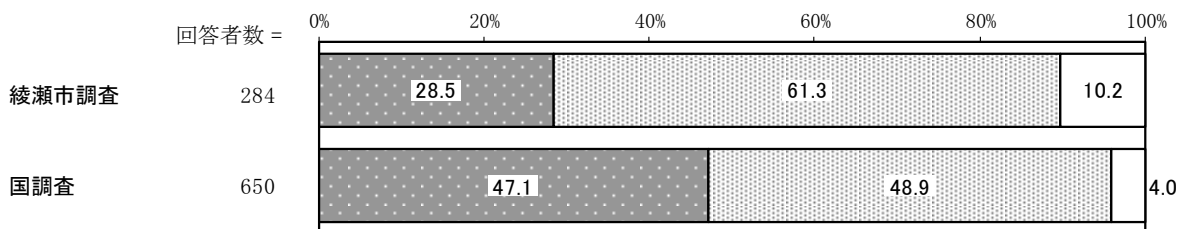
<国調査との比較>

国調査と比較すると、「相談した」が18.6ポイント低く、一人で抱え込む傾向が高くなっています。

図表 問 20 性別



図表 問 20 性別 国調査との比較



※国調査：内閣府「平成30年 男女間における暴力に関する調査報告書（概要版）」

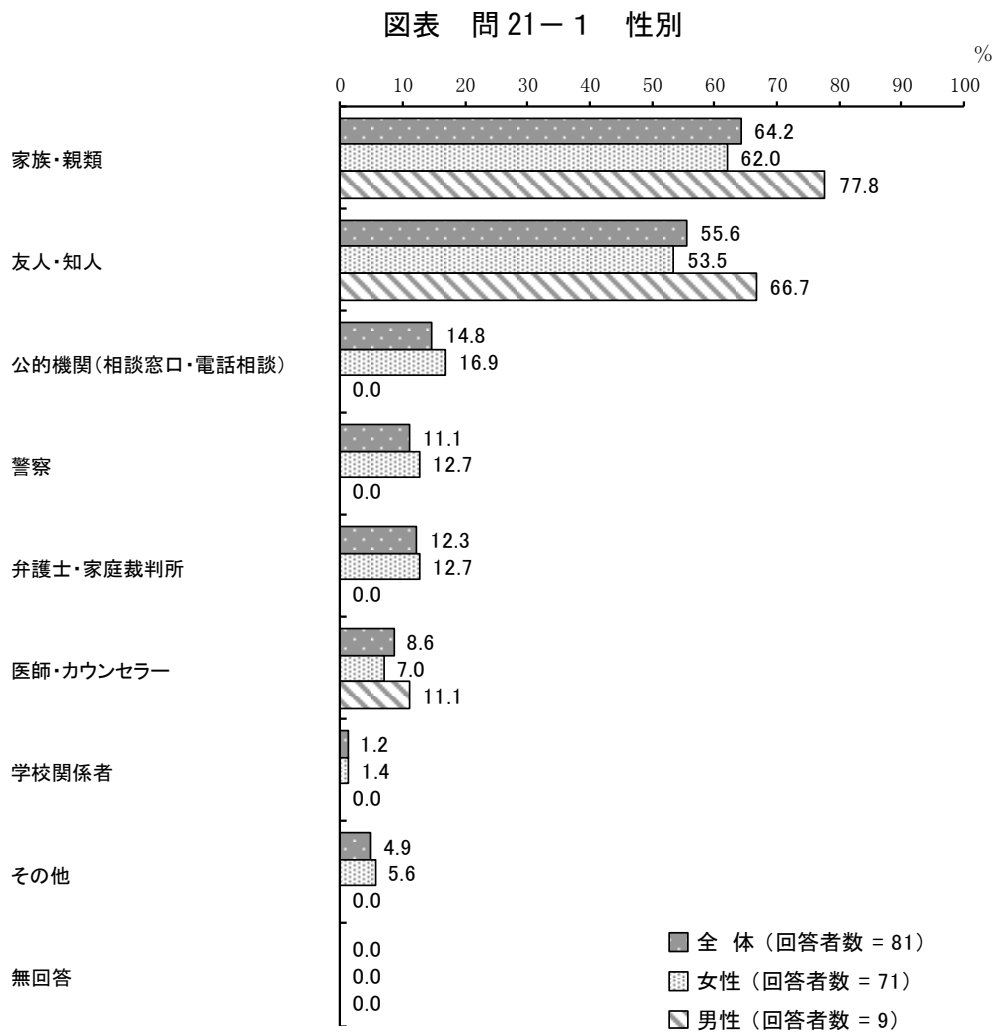
問 21- 1 どこ（誰）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

- ◎「家族・親類」が6割半ば、「友人・知人」が5割半ばと高くなっています。
- ◎「家族・親類」に相談した人は、男性で約8割。

<性 別>

性別でみると、「家族・親類」の割合が男女とも高く、女性で約6割、男性で約8割となっています。

また、女性では「公的機関（相談窓口・電話相談）」の割合が高いのに対し、男性では「家族・親類」「友人・知人」といった身近な人の割合が高くなっています。



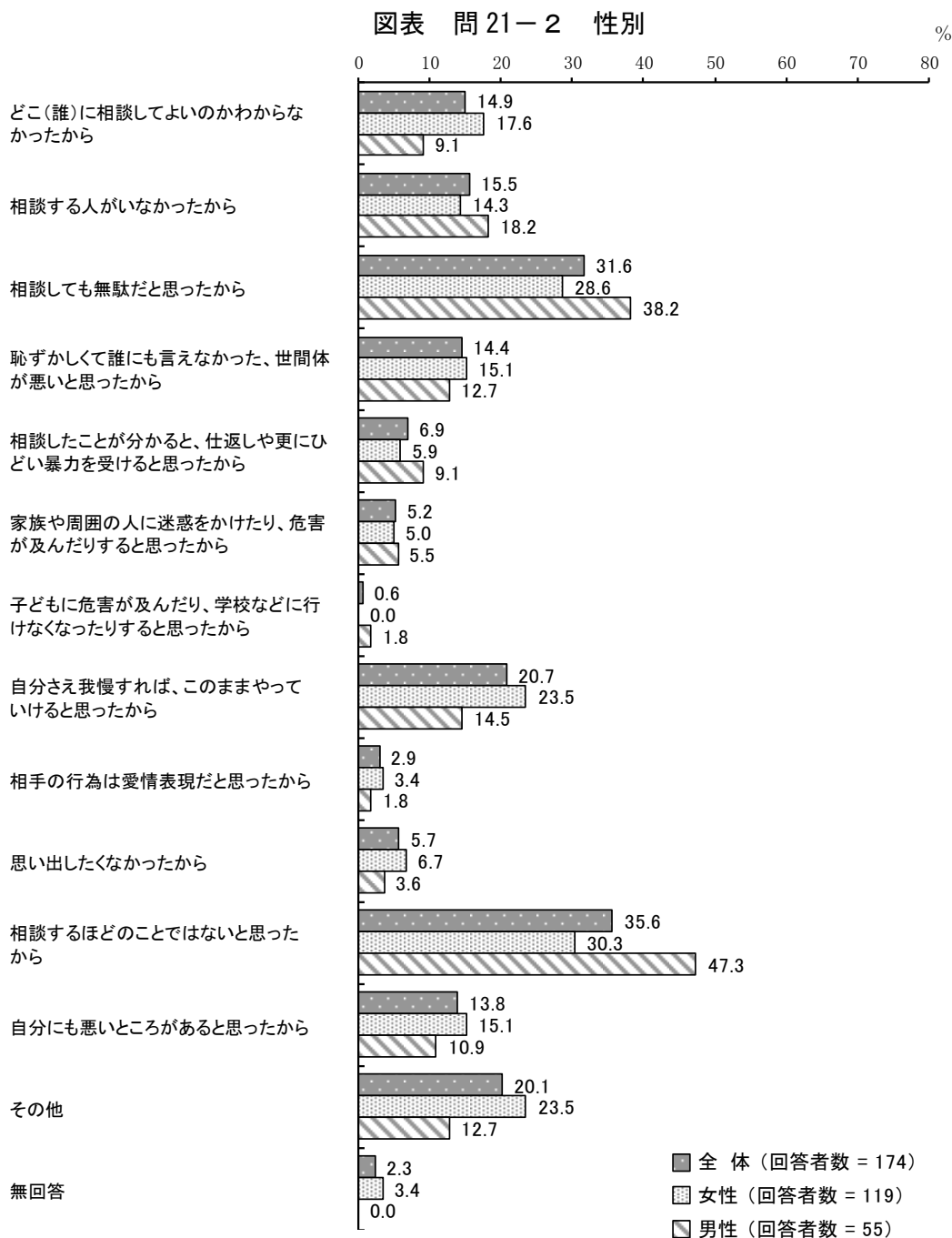
問 21- 2 どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。
（あてはまるものすべてに○）

- ◎「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」が3割を超えて多くなっています。
- ◎「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかった」「自分さえ我慢すれば」の割合が女性で高くなっています。

<性 別>

性別でみると、男女とも「相談しても無駄だと思ったから」の割合が高く、特に男性で約4割と、女性より17.0ポイント高くなっています。

また、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」の割合は、男性に比べ、女性で約9ポイント高く、女性で抱え込まないようにすることが求められています。



問 22 配偶者などからの暴力防止と被害者の保護について、知っていることをすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

◎「被害者の相談窓口がある」が約6割、「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」が約5割と高くなっています。

◎「被害者の相談窓口」は男女ともに認知度が最も高くなっています。

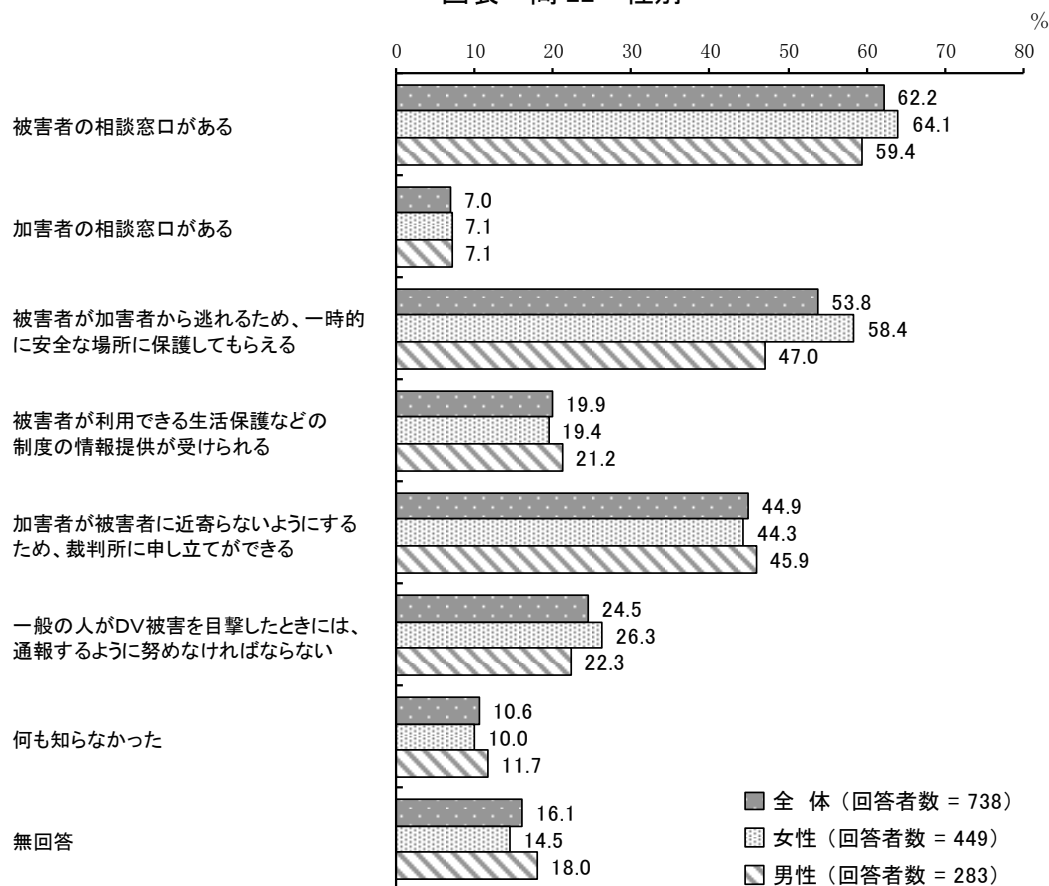
<性 別>

性別でみると、男女とも「被害者の相談窓口がある」の割合が最も高くなっています。

男性では「被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる」の割合が、女性より 11.4 ポイント低く、男性での認知度が低くなっています。

「何も知らなかった」は男女とも約 1 割となっています。

図表 問 22 性別



11 LGBTなど性的マイノリティについて

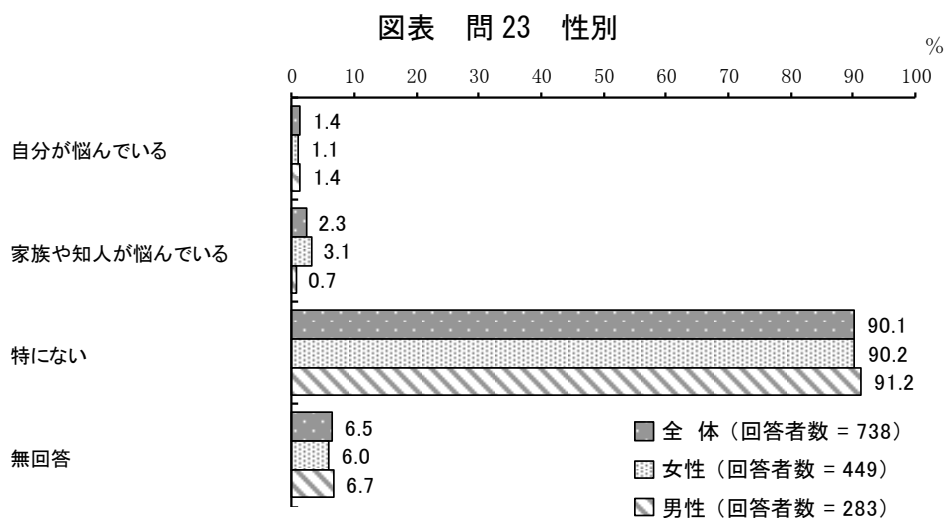
問 23 あなたは、今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）で悩んだり、あるいは身近で悩んでいたりしている人がいますか。
（あてはまるものすべてに○）

◎「自分が悩んでいる」は1.4%、「家族や知人が悩んでいる」が2.3%となっています。

◎性別による大きな差異はみられません。

<性別>

性別でみると、男女とも「特にない」の割合が約9割と高く、性別による大きな差異はみられません。

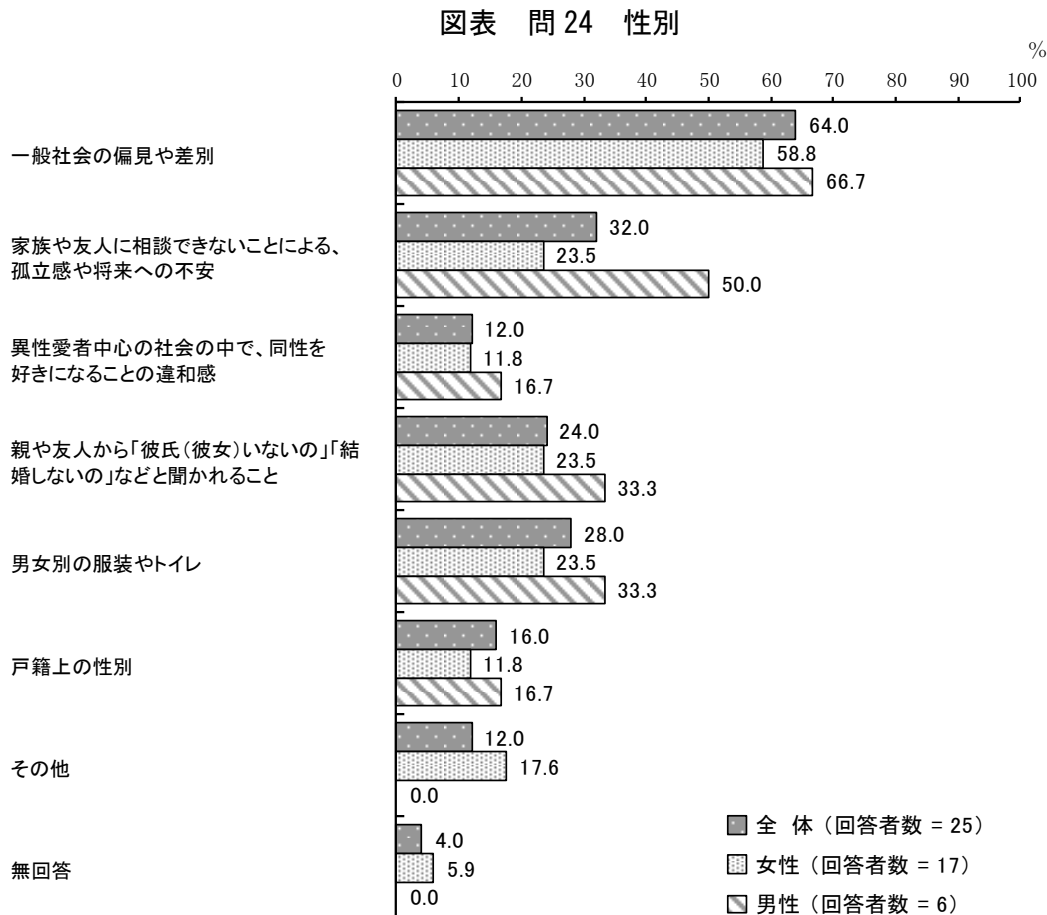


問 24 前問で「自分が悩んでいる」「家族や知人が悩んでいる」と答えた方に伺います。
 どのようなことにストレスを感じますか。(あてはまるものすべてに○)

◎「一般社会の偏見や差別」が6割半ばと最も高くなっています。

<性 別>

総回答数が少ないため、全体の傾向を見ると「一般社会の偏見や差別」が6割半ばと最も高くなっており、次いで「家族や友人に相談できないことによる孤立感や将来への不安」が約3割となっています。



12 男女共同参画施策について

問 25 男女共同参画社会を実現するために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。重要だと思うものを3つまで選んでください（〇は3つまで）

- ◎「保育所などの託児施設やサービスの充実」が約 5 割、「介護施設や介護支援サービスの充実」が約 4割と高くなっています。
- ◎男女とも「保育所などの託児施設やサービスの充実」の割合が最も高く、次いで「介護施設や介護支援サービスの充実」「労働時間の短縮や各種休業制度の普及等、労働条件改善に向けた企業等への啓発」が上位3つとなっています。

<性 別>

性別でみると、男女とも「保育所などの託児施設やサービスの充実」の割合が最も高く、次いで「介護施設や介護支援サービスの充実」「労働時間の短縮や各種休業制度の普及等、労働条件改善に向けた企業等への啓発」の割合が高く、育児や介護に関する事項、労働環境の改善が求められています。

図表 問25 性別

